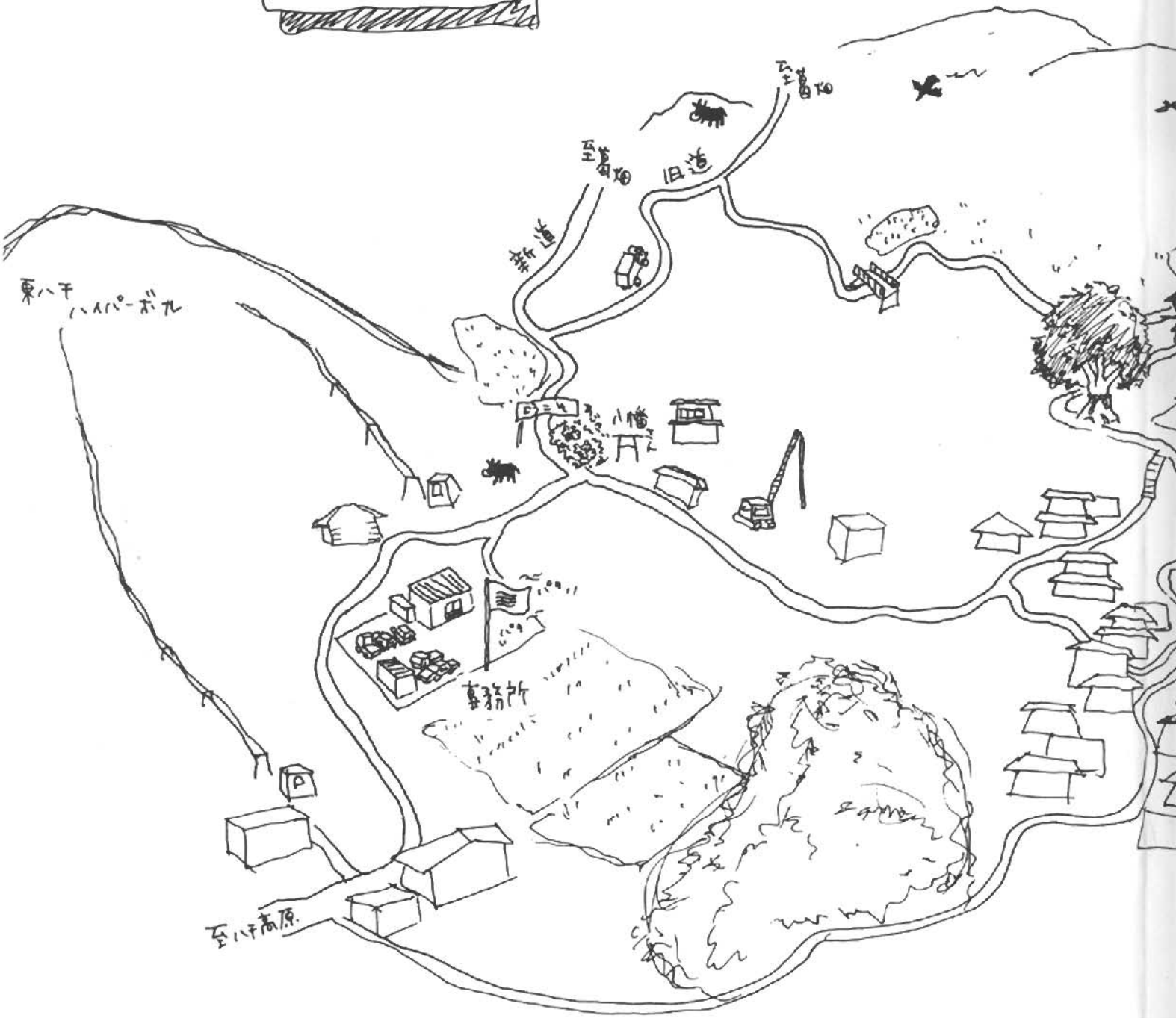
兵庫県文化財調査報告　第201冊

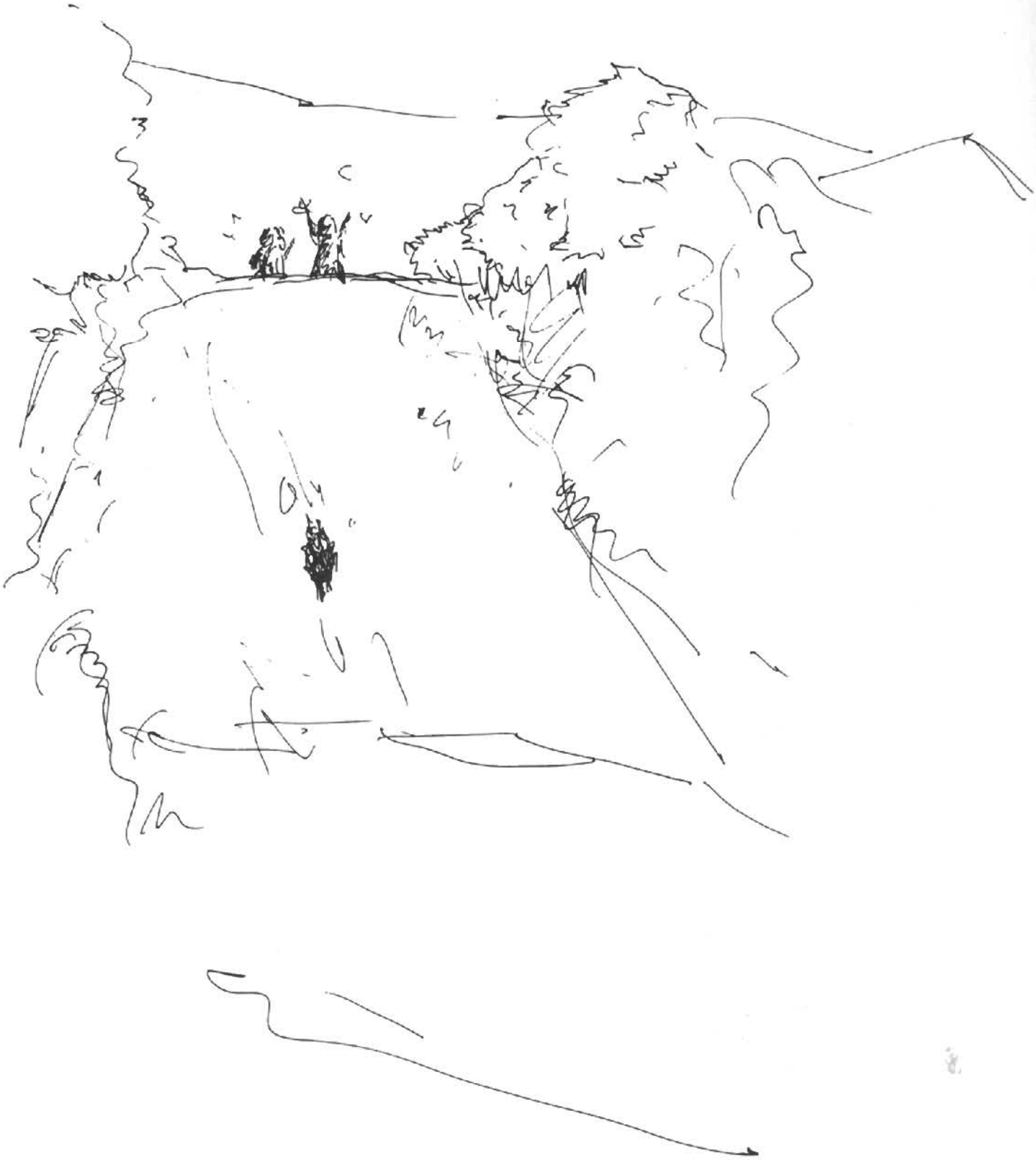
外野波豆遺跡・外野柳遺跡
発掘調査報告書

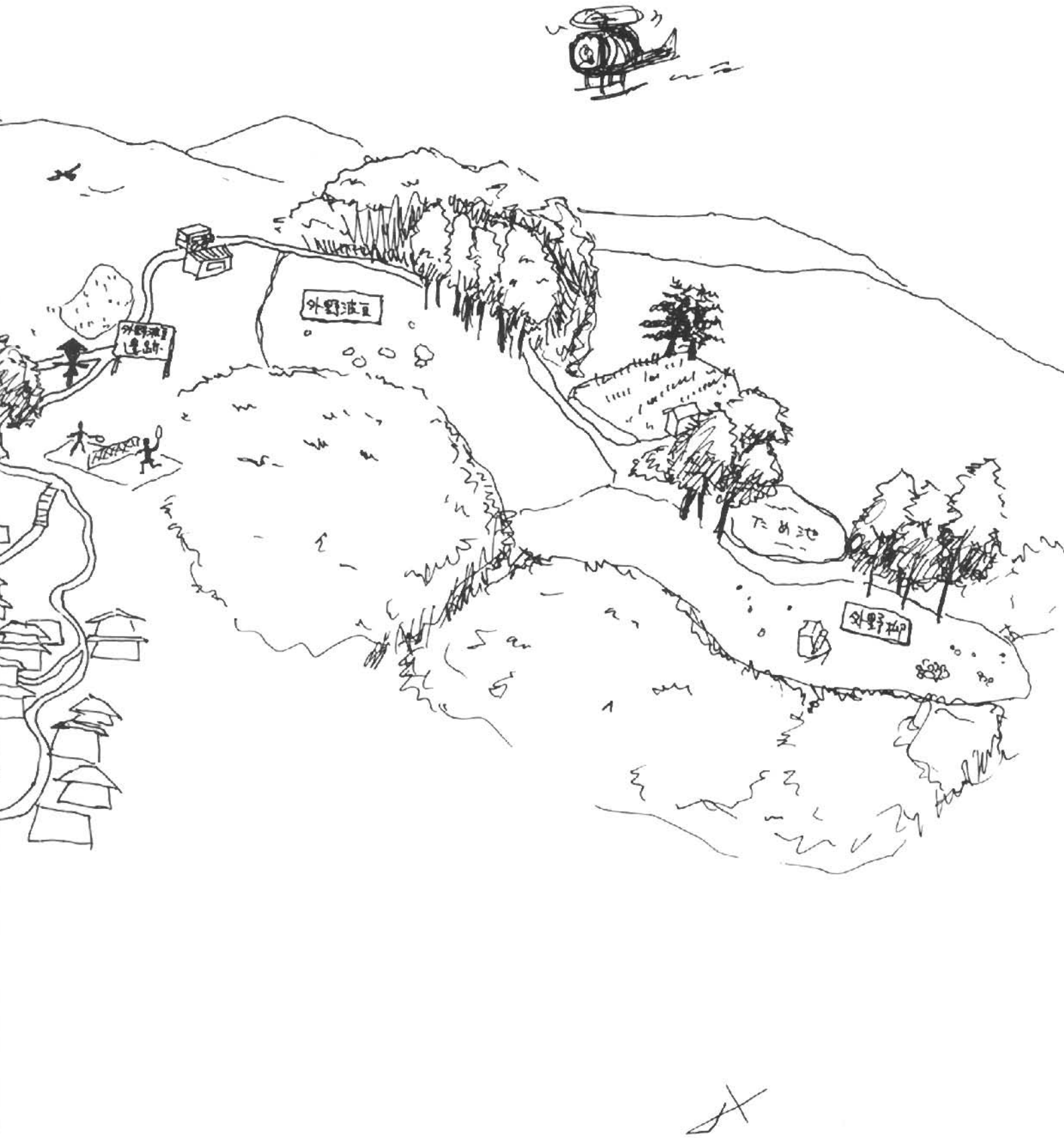
2000年3月

兵庫県教育委員会

外野波豆遺跡 現場地図






外野波豆
外野波豆
ため池
外野柳

兵庫県文化財調査報告　第201冊

外野波豆遺跡・外野柳遺跡
発掘調査報告書

2000年3月

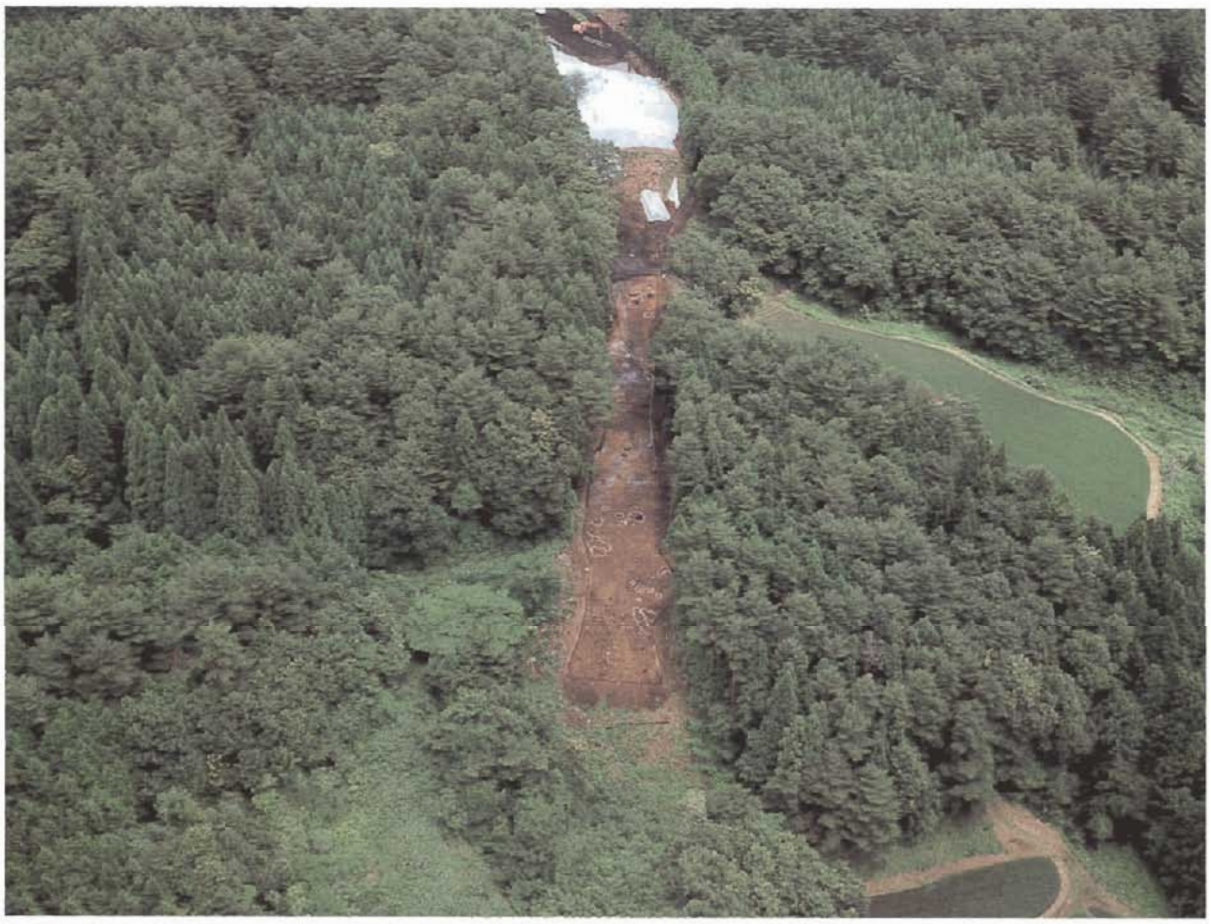
兵庫県教育委員会

1．遺跡遠望（東から）

2．遺跡遠望（南から）

1．外野波豆遺跡（左）と外野柳遺跡（右）

2．外野波豆遺跡　全景（南西から）



1．外野柳遺跡　全景（西から）

2．外野柳遺跡　西部（北から）

1．外野柳遺跡　焼礫集石遺構
（南西から）

2．外野柳遺跡　木柱1
（北東から）

3．外野波豆遺跡出土の土器（SK02）

4．外野波豆遺跡出土の土器（SK12）

例　　言

1．本書は、兵庫県養父郡関宮町外野（ひょうごけんやぶぐんせきのみやちょうとの）に所在する外野波豆（とのはず）遺跡・外野柳（とのやなぎ）遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、県営一般農道整備事業（過疎基幹）関宮西部地区に伴うものである。全面調査は兵庫県和田山土地改良事務所の依頼を受けて、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が、平成11年度に実施した。

3．現地調査を行った期間、調査担当者は次の通りである。〔　〕内は遺跡調査番号

・全面調査　　平成11年5月10日～平成11年9月28日

（調査主体）兵庫県教育委員会

（調査担当）兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　村上賢治・牛谷好伸

外野波豆遺跡〔990011〕　外野柳遺跡〔990140〕

なお、確認調査は関宮町教育委員会が実施している。

・確認調査　　平成5年5月18日～平成5年6月15日

（調査主体）関宮町教育委員会

（調査担当）養父郡町村会　山根実生子

4　本書に掲載した第6図「外野波豆遺跡・外野柳遺跡の位置と周辺の遺跡」は、建設省国土地理院発行の五万分の一地形図「村岡」を使用している。

5　遺跡の測量は、国土座標第Ⅴ系を基準とし、図中におけるX及びYは国土座標であり、方位は磁北を示す。標高は、東京湾平均海水準（T．P）を基準としている。

6．本書の遺物番号は、挿図及び図版・写真図版と統一している。

7．本書の執筆は、以下のとおりである。

第1章・第3章・第7章 …… 村上賢治

第2章・第4章・第5章第1節～同章第3節 …… 牛谷好伸

第5章第4節 …… 山本　誠

また、第6章「自然科学的分析」については、第1節は（株）吉田生物研究所、同章第4節は京都大学木質科学研究所の伊東隆夫氏より原稿をいただき、そのまま掲載した。同章第2節・第3節は、パリノ・サーヴェイ株式会社の分析報告書を基に、同章第5節については、名古屋大学年代測定資料研究センタータンデトロン加速器年代測定実験室の中村俊夫氏の分析結果を基に村上が執筆した。編集は、村上が行った。

8．本書の見返し及び第7図で使用したカットは、片芝訓子（現場事務員）の手によるものである。

9．本書にかかる遺物や記録類（図面・写真など）は、下記の施設で保管している。

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所　荒田庁舎（神戸市兵庫区荒田町２丁目1-5）

同　　魚住分館（明石市魚住町清水字立合池の下630-1）

10．発掘調査及び整理作業に際して、下記の方々にご指導・ご教示いただきました。記して感謝いたします。（敬称略・順不同）

関宮町教育委員会・山根実生子（養父郡町村会）・高松龍暉・西谷弘之（別宮区長）・矢野健一（辰馬考古資料館）・泉拓良（奈良大学）・工楽善通（ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所）・宮本長二郎（東北芸術工科大学）・伊藤俊夫（名古屋大学年代測定資料研究センター）・伊藤隆夫（京都大学木質科学研究所）・堀井泰樹（奈良大学大学院）・岡田憲一（奈良大学大学院）・原田幸子（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）・和泉大樹（千早赤坂村教育委員会）

また兵庫県下の陥穴の類例について、県下市町教育委員会及び各団体の埋蔵文化財専門職員の方々にご教示いただきました。感謝いたします。

本 文 目 次

頁

第1章　はじめに …… 1

第1節　調査に至る経緯

第2節　発掘調査の経過

第3節　整理作業の経過

第2章　遺跡の環境 …… 3

第1節　地理的環境

第2節　歴史的環境

第3章　調査の方法 …… 7

第1節　調査地区の設定

第2節　土層

第3節　調査の方法

第4章　遺　　構 …… 9

第1節　外野波豆遺跡の遺構

第2節　外野柳遺跡の遺構

第3節　木柱（外野柳遺跡）

第5章　遺　　物 …… 16

第1節　外野波豆遺跡出土の土器

第2節　外野柳遺跡出土の土器

第3節　関宮町保管資料

第4節　石器

第6章　自然科学的分析 …… 25

第1節　兵庫県外野波豆遺跡出土の赤色物質付着土器表面の断面観察

第2節　土器片に付着した炭化物について（外野波豆遺跡）

第3節　木柱の埋土について（外野柳遺跡）

第4節　外野柳遺跡出土木材の樹種

第5節　木柱の^{14}C年代について（外野柳遺跡）

第7章　ま と め …… 29

第1節　外野波豆遺跡について

第2節　外野柳遺跡について

巻首図版目次

巻首図版１	遠景	１．遺跡遠望	（東から）
		２．　同	（南から）
巻首図版２	遺跡全景(1)	１．外野波豆遺跡（左）と外野柳遺跡（右）	
		２．外野波豆遺跡　全景	（南西から）
巻首図版３	遺跡全景(2)	１．外野柳遺跡　全景	（西から）
		２．外野柳遺跡　西部	（北から）
巻首図版４	遺構と遺物	１．外野柳遺跡　焼礫集石遺構	（南西から）
		２．外野柳遺跡　木柱１	（北東から）
		３．外野波豆遺跡出土の土器（SK02）	
		４．　同	（SK12）

図 版 目 次

図版１　外野波豆遺跡　全体図
図版２　外野波豆遺跡　調査区西壁土層断面図
図版３　外野波豆遺跡　遺構配置図(1)
図版４　外野波豆遺跡　遺構配置図(2)
図版５　外野波豆遺跡　遺構図(1)　SK01，SK02
図版６　外野波豆遺跡　遺構図(2)　SK03，SK04，SK05，SK06
図版７　外野波豆遺跡　遺構図(3)　SK07，SK11，SK10-1，SK10-2
図版８　外野波豆遺跡　遺構図(4)　SK12，SK13，SK14，SK15
図版９　外野波豆遺跡　遺構図(5)　SK16，SK17，SK23，SK26，SK28
図版10　外野波豆遺跡　遺構図(6)　立石１～立石３
図版11　外野柳遺跡　全体図
図版12　外野柳遺跡　調査区北壁土層断面図
図版13　外野柳遺跡　遺構配置図(1)　調査区西部・中央部
図版14　外野柳遺跡　遺構断面図
図版15　外野柳遺跡　遺構配置図(2)　調査区東部
図版16　外野柳遺跡　遺構図(1)　焼礫集石遺構
図版17　外野柳遺跡　遺構図(2)　配石遺構
図版18　外野柳遺跡　遺構図(3)　木柱１，木柱２
図版19　外野柳遺跡　遺構図(4)　木柱３，木柱４
図版20　外野柳遺跡　遺構図(5)　木柱５，木柱６
図版21　外野柳遺跡　遺構図(6)　杭１～杭４
図版22　外野波豆遺跡　出土土器(1)
図版23　外野波豆遺跡　出土土器(2)
図版24　外野波豆遺跡　出土土器(3)
図版25　外野波豆遺跡　出土土器(4)
図版26　外野波豆遺跡　出土土器(5)
図版27　外野柳遺跡　出土土器(1)
図版28　外野柳遺跡　出土土器(2)
図版29　外野柳遺跡　出土石器(1)
図版30　外野柳遺跡　出土石器(2)

写真図版目次

写真図版 1	外野波豆遺跡	遠景・調査前全景	1．遠景		（轟の集落付近から）
			2．調査前全景		（北から）
			3．　同		（南西から）
写真図版 2	外野波豆遺跡	調査後全景(1)	1．調査後全景—南半部		
			2．　同　—北半部		
写真図版 3	外野波豆遺跡	調査後全景(2)	1．　同　—南半部		（東から）
			2．　同　—南半部		（北から）
			3．　同　—北半部		（南から）
写真図版 4	外野波豆遺跡	土層堆積状況	1．10区	西壁	
			2．4区	西壁	
			3．1区	西壁	
写真図版 5	外野波豆遺跡	遺構(1)	1．SK01	検出状況	（東から）
			2．同	完掘状況	（南から）
			3．同	土層堆積状況	（南から）
写真図版 6	外野波豆遺跡	遺構(2)	1．SK02	検出状況	（南東から）
			2．同	完掘状況	（南東から）
			3．同	土層堆積状況	（南西から）
写真図版 7	外野波豆遺跡	遺構(3)	1．同	小穴断面	（南西から）
			2．SK08	完掘状況	（南西から）
			3．同	土層堆積状況	（南西から）
写真図版 8	外野波豆遺跡	遺構(4)	1．SK03	完掘状況	（南東から）
			2．同	土層堆積状況	（南東から）
			3．SK04	完掘状況	（南西から）
			4．同	土層堆積状況	（南西から）
			5．SK05	完掘状況	（東から）
			6．同	土層堆積状況	（東から）
			7．SK06	完掘状況	（南から）
			8．同	土層堆積状況	（南から）
写真図版 9	外野波豆遺跡	遺構(5)	1．SK07	完掘状況	（東から）
			2．同	土層堆積状況	（東から）
			3．SK11	完掘状況	（南から）
			4．同	土層堆積状況	（南から）
			5．SK10-1	完掘状況	（南から）
			6．同	土層堆積状況	（南から）
			7．SK10-2	完掘状況	（南から）
			8．SK10-1	土層堆積状況	（西から）
写真図版10	外野波豆遺跡	遺構(6)	1．SK13	完掘状況	（南から）
			2．SK14	土層堆積状況	（南東から）
			3．同	土層堆積状況	（南から）
			4．同	完掘状況	（南東から）
写真図版11	外野波豆遺跡	遺構(7)	1．SK15	検出状況	（西から）
			2．同	土層堆積状況	（東から）
			3．同	完掘状況	（南東から）
			4．SK17	全景	（南から）

	5． 同	土層堆積状況	（南から）
	6． 同	完掘状況	（南から）
写真図版12　外野波豆遺跡　遺構(8)	1．SK16	完掘状況	（南から）
	2． 同	土層堆積状況	（北から）
	3．SK18	完掘状況	（南東から）
	4． 同	土層堆積状況	（南東から）
	5．SK23	完掘状況	（南東から）
	6． 同	土層堆積状況	（南から）
	7．SK12	土層堆積状況	（南西から）
	8．SK26	土層堆積状況	（南から）
写真図版13　外野波豆遺跡　遺構(9)	1．立石１	断面	（南東から）
	2．立石２	断面	（南東から）
	3．立石３	断面	（東から）
写真図版14　外野柳遺跡　調査前全景	1．調査前全景		（外野波豆遺跡から望む）
	2． 同		（西から）
	3．高松氏遺物採集地点		（調査区から望む）
写真図版15　外野柳遺跡　調査後全景(1)	1．調査後全景		（調査区西半部）
	2． 同		（調査区東半部）
写真図版16　外野柳遺跡　調査後全景(2)	1． 同		（外野波豆遺跡から望む）
	2． 同		（東から）
	3． 同		（西から）
写真図版17　外野柳遺跡　土層堆積状況	1．９区北壁		
	2．７区北壁		
	3．２区北壁		
写真図版18　外野柳遺跡　遺構(1)	1．焼礫集石遺構		（南西から）
	2． 同		（南西から）
	3． 同	断面	（東から）
写真図版19　外野柳遺跡　遺物出土状況	1．焼礫集石遺構付近		（西から）
	2．石皿出土状況		（10区）
	3．磨石出土状況		（10区）
	4． 同		
	5． 同		
写真図版20　外野柳遺跡　遺構(2)	1．配石遺構１	全景	（北西から）
	2． 同	断面	（北から）
	3．SK01	検出状況	（北から）
	4． 同	土層堆積状況	（南西から）
	5． 同	完掘状況	（東から）
	6．SK02	土層堆積状況	（南西から）
	7．SK05	土層堆積状況	（南西から）
写真図版21　外野柳遺跡　遺構(3)	1．SK06	検出状況	（南東から）
	2． 同	土層堆積状況	（西から）
	3． 同	完掘状況	（北から）
	4．SK07	検出状況	（南東から）
	5． 同	土層堆積状況	（西から）
	6． 同	完掘状況	（北から）
写真図版22　外野柳遺跡　遺構(4)	1．SK09	土層堆積状況	（西から）

2．SK10　土層堆積状況（西から）
3．SK11　土層堆積状況（西から）
4．SD01　検出状況　（南から）
5．同　土層堆積状況（西から）
6．SD02　土層堆積状況（南西から）
7．SD03　土層堆積状況（北から）
写真図版23　外野柳遺跡　遺構(5)　1．木柱調査地区全景　（南東から）
2．同　（南から）
3．土層堆積状況　（南東から）
写真図版24　外野柳遺跡　遺構(6)　1．木柱1　断面　（北東から）
2．同　下端　（北東から）
3．同　掘方完掘状況（北東から）
写真図版25　外野柳遺跡　遺構(7)　1．木柱2　断面　（南から）
2．木柱3　断面　（北から）
3．同　掘方完掘状況（北から）
写真図版26　外野柳遺跡　遺構(8)　1．木柱4　断面　（南西から）
2．同　下端　（南西から）
3．同　掘方完掘状況（南西から）
写真図版27　外野柳遺跡　遺構(9)　1．木柱5　断面　（北から）
2．同　下端　（北から）
3．同　掘方完掘状況（北から）
写真図版28　外野柳遺跡　遺構(10)　1．木柱6　断面　（北から）
2．杭1　断面　（南東から）
3．杭4　断面　（南東から）
4．杭2　断面　（南から）
5．杭3　断面　（北東から）
写真図版29　外野波豆遺跡　土器(1)　1．SK01出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版30　外野波豆遺跡　土器(2)　1．SK02出土土器（内面）　2．同（内面）　3．同（横）
写真図版31　外野波豆遺跡　土器(3)　1．SK02出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版32　外野波豆遺跡　土器(4)　1．SK02出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版33　外野波豆遺跡　土器(5)　1．SK03出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版34　外野波豆遺跡　土器(6)　1．SK10出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版35　外野波豆遺跡　土器(7)　1．SK11・12・14出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版36　外野波豆遺跡　土器(8)　1．SK06・08・18・pit 1・2出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版37　外野波豆遺跡　土器(9)　1．遺構以外の出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版38　外野波豆遺跡　土器(10)　補修孔のある土器・その他の土器
写真図版39　外野柳遺跡　土器(1)　1．無文・楕円押型文(1)（表）　2．同（裏）
写真図版40　外野柳遺跡　土器(2)　1．楕円押型文(2)（表）　2．同（裏）
写真図版41　外野柳遺跡　土器(3)　1．条痕文　（表）　2．同（裏）
写真図版42　外野柳遺跡　土器(4)　1．SK05・遺構以外の出土土器（表）　2．同（裏）
写真図版43　外野柳遺跡　土器(5)　1．関宮町保管資料（表）　2．同（裏）
写真図版44　外野波豆遺跡・外野柳遺跡　石器(1)
写真図版45　外野波豆遺跡・外野柳遺跡　石器(2)
写真図版46　外野柳遺跡出土木材の顕微鏡写真

挿 図 目 次

頁

図1　調査範囲図 …… 1
図2　現地説明会 …… 2
図3　トライ・やる・ウィーク …… 2
図4　遺跡の位置 …… 3
図5　別宮家野遺跡近景 …… 4
図6　外野波豆遺跡・外野柳遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 5
図7　外野波豆遺跡・外野柳遺跡想像図 …… 6
図8　調査地区設定図 …… 7
図9　伐採・除根 …… 8
図10　機械掘削 …… 8
図11　人力掘削 …… 8
図12　焼礫分布図 …… 13
図13　木柱配置図 …… 15
図14　焼礫集石遺構周辺の遺物分布図 …… 19
図15　外野波豆遺跡出土石器 …… 23
図16　外野柳遺跡出土石器 …… 24
図17　No.2の表面（×15） …… 25
図18　No.1の断面（×400） …… 25
図19　No.2の断面（×400） …… 25

表 目 次

表1　外野波豆遺跡　遺構一覧表 …… 11
表2　外野波豆遺跡　出土土器観察表 …… 20・21
表3　外野柳遺跡　出土土器観察表 …… 22
表4　外野柳遺跡　出土木材の樹種 …… 27

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

兵庫県和田山土地改良事務所によって、養父郡関宮町別宮より同町丹戸を結ぶ過疎基幹農道整備事業が平成４年度に計画された。この事業地のある鉢伏高原一帯は、高松龍暉氏による精力的な分布調査により、県内において縄文時代の遺跡が数多く分布する地域として以前より知られており、別宮家野遺跡（県指定史跡、縄文時代）も近接して存在する。

兵庫県和田山土地改良事務所では、関宮町教育委員会に対し工事に先立つ埋蔵文化財の調査を依頼した。同町教育委員会では平成５年度に確認調査を実施し、事業地内に埋蔵文化財包蔵地を確認した。その後、埋蔵文化財包蔵地が認められなかった部分について順次工事が実施されてきたが、確認調査で遺構・遺物の確認された「外野波豆遺跡」・「外野柳遺跡」に工事が及ぶに至り、和田山土地改良事務所の依頼（平成11年３月19日付　和土改第１５２７号）に伴い、兵庫県教育委員会では平成11年度に全面調査（記録保存のための発掘調査）を実施するに至った。

第２節　発掘調査の経過

(1)　確認調査　　平成５年５月18日～平成５年６月15日

調査主体　関宮町教育委員会

調査担当　養父郡町村会　山根実生子

調査面積　（外野波豆遺跡）　35㎡・（外野柳遺跡）　36㎡

「事業地計画地の大半が山林であり、踏査によって遺物を採集することは、殆ど不可能な状態であり」、「過去に遺物を採集した地点が、計画地のごく近隣であり地形を考慮にいれると、事業計画地内に遺跡の範囲が及ぶことはまず疑いがない」との判断から、25か所に試掘溝を設定し土層観察、遺物、遺構の有無の確認を行っている。調査総面積は114㎡であるが、そのうち外野波豆遺跡には７箇所、外野柳遺跡には９箇所の試掘溝を設定している。調査の結果、両遺跡とも試掘溝から遺物包含層や遺構を検出している。（「　」内は、確認調査の実績報告書（平成５年７月　関宮町教育委員会）より抜粋。）

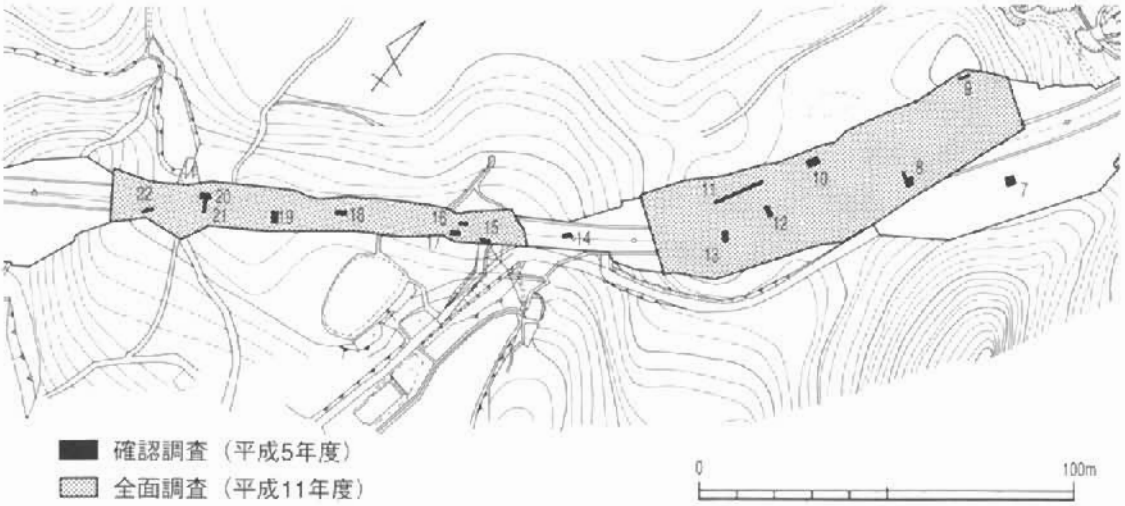


図１　調査範囲図

(2) 全面調査　平成11年5月10日～平成11年9月28日

調査主体　兵庫県教育委員会

事務担当　埋蔵文化財調査事務所　企画調整班　山本　誠

経理担当　同　総務課　平井敏之

調査担当　同　調査第3班　村上賢治・牛谷好伸

調査補助員　熊谷暢聡（奈良大学1回生）

現場事務員　片芝訓子

調査面積　（外野波豆遺跡）2,337㎡・（外野柳遺跡）1,023㎡

確認調査結果に基づき、全面調査範囲を設定した。

県教育委員会は、現地での発掘作業を請負工事として発注し、入札の結果、明生建設株式会社（本社　朝来郡生野町）が落札した。また、遺跡の全体図の作成については空中写真測量を採用し、入札の末、株式会社ジェクト神戸支店（本社　大阪）と委託契約を行い実施した。

調査当初の6月1日（火）には、兵庫県教育委員会が実施している「トライ・やる・ウィーク」の一貫として、関宮中学校2年生4名を受入れ（実施主体は関宮町）、発掘調査の作業体験の場を提供した。

また、調査成果の公開のため、新聞記者発表を行うと共に、9月18日（土）には地元の方々を対象とした現地説明会を行った。（参加者は約40名）。現地説明会当日には、ＳＹＴ（関宮有線テレビ）の取材を受け、後日町内向け番組の中で放映された。

図2　現地説明会

図3　トライ・やる・ウィーク

第3節　整理作業の経過

出土品の整理作業に関して、本事務所では、通常は発掘調査を行った年の次年度以降に実施しているが、和田山土地改良事務所と協議の結果、同一年度に実施することとなり、期間的に非常に厳しいものとなった。幸い出土品の数量が比較的少なかったため、水洗い・ネーミング作業は、発掘調査と並行して現場事務所で実施することができた。実測・拓本以降の作業は、現地調査終了後に埋蔵文化財調査事務所内で実施した。

整理担当職員　（調査第3班）村上賢治・牛谷好伸・山本　誠

整理フロアー担当　（整理普及班）森内秀造・菱田淳子

整理嘱託員　八木和子・古谷章子・吉田優子・平松ゆり・木村淑子・前田千栄子・鈴木まき子・横山キクエ・竹内泰子・尾鷲都美子・小寺恵美子・加藤裕美・三好綾子・岡田憲一・佐々木誓子・高田健一

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

外野波豆（とのはず）遺跡、外野柳（とのやなぎ）遺跡は兵庫県養父郡関宮町外野地内に所在する。関宮町は兵庫県北西部の中国山地東縁に位置する。総面積95.59㎢、町域の約87％が山林原野、中心部の標高が180ｍ～200ｍの町である。西、南、北三方を急峻な山々に取り囲まれ、その中を無数の小河川の合流により形成された八木川が西から東へと流れる。町の中心部を流れる八木川は、鳥取県との県境にそびえる氷ノ山（標高1,510ｍ）に水源を持つ。八木川は町を西から東へ貫流し、その間、多くの土地を肥やし、水田耕作を育ませる大地を形成させ、八鹿町において但馬地域最大の河川である円山川に合流する。

図４　遺跡の位置

外野波豆遺跡、外野柳遺跡は鉢伏山（標高1,221ｍ）を山頂とする高原の南縁部に位置し、標高650ｍの位置に立地する。周辺には県下最高峰の氷ノ山（1,510ｍ）をはじめ、鉢伏山（1,221ｍ）、妙見山（1,139ｍ）など1,000ｍを越す山々がそびえている。

遺跡の立地場所は関宮町の西側に所在する外野地区と別宮地区の境付近で、外野集落の中心部よりも約250ｍの高所にある。外野集落の名称の由来は、山谷の狭い原野「戸野」の当て字であろうと考えられ、別宮集落の名称の由来は、石清水八幡宮の分社「別宮」が置かれたことから来ている。

関宮町内の地質は、万久里から外野にかけて露頭している蛇紋岩の他、中新世に形成された北但層群（城崎亜層群の豊岡累層・村岡累層、養父亜層群の八鹿累層・高柳累層）により構成されている。村岡累層の上には鉢伏火山岩が覆っており、この火山岩が鉢伏山、氷ノ山等を構成している。

鉢伏高原には火山灰等により形成された通称クロボクと呼ばれる黒色土が覆っている。この黒色土は尾根筋で数cm～20cm、谷部では50cm～100cmに及ぶ。クロボクの下層には火山礫を含んだ黄褐色のローム層が堆積している。

鉢伏山から北方の兎和野高原地帯に発達している主要な植生はススキ、チシマザサ草原、湿地群落、ミズナラ林、アカマツ林、レンゲツツジ、タニウツギ群落の５つである。中でも氷河期に分布していたミツガシワの自生地やヤマドリゼンマイ群落など、低湿地において貴重な自然が多く残されている地域でもある。そして、氷ノ山、鉢伏山、杉ヶ沢高原にかけては氷ノ山後山那岐山国定公園に指定されており、豊かな自然を残している。

気候は典型的な日本海型気候であり、夏は高温多湿、冬は積雪が多い。積雪量は地域によって２ｍ～３ｍに達し、12月終わり頃から３月後半まで地表は雪で覆われる。

第2節　歴史的環境

関宮町は八木川が町の中央を貫流し、標高600m以上の山々に囲まれている。周囲の尾根上には高原地形が形成されており、これらの高原地域や山麓、八木川の段丘上で遺跡が確認されている。

関宮町における人類の活動痕跡は古く、旧石器時代まで遡る。また縄文時代の遺跡も数多く、町の西側において確認されている。以下、関宮町内における遺跡の歴史的環境について概説する。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、町の西側の杉ヶ沢遺跡群、別宮家野遺跡、東側の吉井円光寺林遺跡、三宅西谷遺跡等で分布が確認されている。

町内の旧石器時代を代表する遺跡である杉ヶ沢遺跡群は、氷ノ山から派生した標高750m～800mの尾根上に位置する。平成元年に兵庫県教育委員会では大規模な土地改良事業に先立ち発掘調査を実施し、旧石器時代、縄文時代、古墳時代と多時期にわたって遺跡が広がっていたことを確認している。遺物散布地は33ヶ所確認され、旧石器時代の遺物としてナイフ形石器、有舌尖頭器が出土している。縄文時代の土器は縄文時代早期初頭～中期中葉まで各期にわたり確認されているが、長期的な生活の場ではなかったと解釈されている。

そのほか、旧石器時代のナイフ形石器が別宮家野遺跡、三宅西谷遺跡、吉井円光寺林遺跡において出土し、後続する遺物として有舌尖頭器が三宅早詰遺跡において出土している。

縄文時代

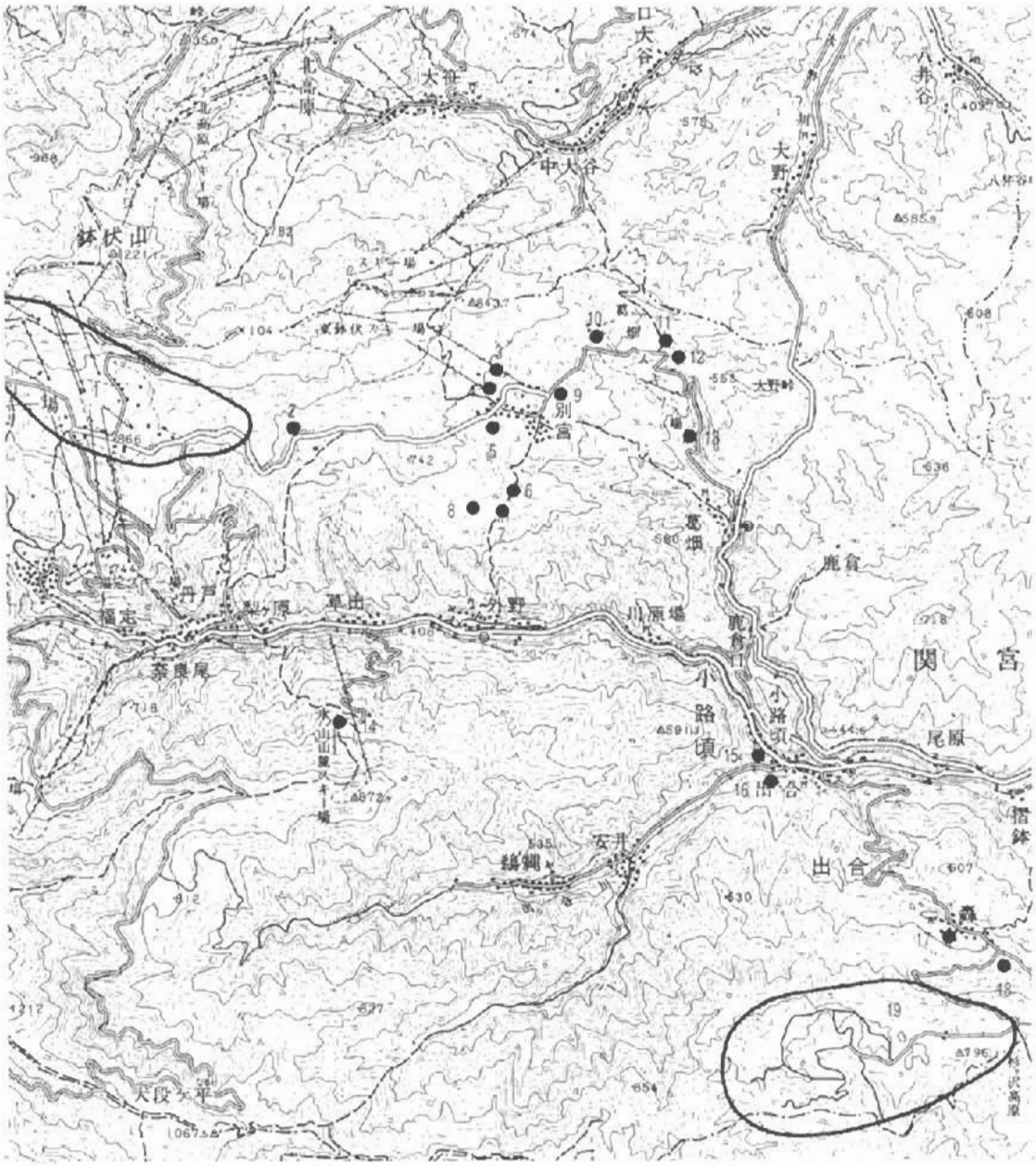
縄文時代になると遺跡の分布は急激に増える。町の西側においては特に多く遺跡が確認されており、高原部や山間部に広く遺跡が分布することになる。

縄文時代早期は別宮家野遺跡、外野柳遺跡ほか12ヶ所において遺跡の分布が確認されており、杉ヶ沢遺跡群においては33ヶ所において遺物散布地が確認されている。

図5　別宮家野遺跡近景

縄文時代を代表する遺跡の1つである別宮家野遺跡は、鉢伏高原（標高692m）の一角に位置する。旧石器時代から人類の痕跡が確認されている遺跡であるが、縄文時代においても数多くの遺構を残している。主な遺構としては、中央部に焼け土が見られ、拳大から人頭大の礫を多数集め配置した炉跡、柱穴を伴う4.5m×3.5mの楕円形の住居跡、貯蔵穴が確認されている。遺物では草創期のスモールブレイド、早期のネガティブな押型文土器が出土している。

前期になると確認されている遺跡の数が減少し、鉢伏高原遺跡第7地点、杉ヶ沢遺跡第19地点で確認され、前期末から中期初頭では出合赤道遺跡、外野波豆遺跡、杉ヶ沢遺跡群のうちの9ヶ所が確認されている。



番号	遺跡名	遺跡の時期	番号	遺跡名	遺跡の時期
1	鉢伏高原遺跡群	縄文時代	11	葛畑坂根遺跡	縄文時代
2	別宮妻ノ平遺跡	縄文時代	12	葛畑坂根東遺跡	平安時代末～鎌倉時代
3	別宮アレタ遺跡	縄文時代	13	葛畑中野遺跡	縄文時代
4	別宮大町田遺跡	縄文時代	14	梨ヶ原向山遺跡	縄文時代
5	別宮家野遺跡	旧石器、縄文時代	15	小路頃オノ木遺跡	縄文時代
6	**外野波豆遺跡**	縄文時代	16	出合赤道遺跡	縄文時代
7	**外野柳遺跡**	縄文時代	17	轟丸岡遺跡	縄文時代
8	外野野遺跡	縄文時代	18	轟東遺跡	縄文時代
9	別宮八幡神社遺跡	平安時代末～鎌倉時代	19	杉ヶ沢遺跡群	旧石器時代、縄文時代、古墳時代
10	別宮北谷遺跡	縄文時代			

図6　外野波豆遺跡・外野柳遺跡の位置と周辺の遺跡

中期末から後期前葉にかけての遺跡としては小路頃才ノ木遺跡が存在する。この遺跡は八木川上流域の山麓緩斜面に立地し、中期末の竪穴住居跡、後期前葉の土坑等が確認されている。

その他、氷ノ山山系に立地する遺跡では轟東遺跡、轟丸岡遺跡、梨ケ原向山遺跡が確認され、鉢伏山系に立地する遺跡では別宮妻ノ平遺跡、別宮荒田遺跡、別宮北谷遺跡、外野野遺跡、葛畑坂根遺跡が確認されている。しかし分布調査による表採資料が主であるため詳細は分からない状態である。

外野波豆遺跡、外野柳遺跡は鉢伏高原南端に立地し、付近には別宮家野遺跡が立地している。これら数多くの縄文遺跡は狩猟採集をおこなうために転々と生活場所を変える人々の生活の跡である。そして、これらの近接した遺跡がお互いに生活領域内であったことが推測される。

弥生時代

町内における弥生時代の遺跡は縄文時代と比べると遺跡分布範囲は狭くなる。これまでは八木川中流域の三宅周辺において三宅前川向遺跡、三宅中島遺跡等が確認されているのみであった。しかし、今回の調査で外野波豆遺跡において弥生時代前期の土器が出土したことにより、弥生時代の遺跡が確認されていなかった高原部においても人々の活動が展開されていたと考えられる。

古墳時代

古墳時代の遺跡分布は前段階と比較すると飛躍的に広がり、杉ケ沢遺跡群において前期の木棺墓が検出されているほか、町内においては中瀬に所在する中瀬群集墳1号墳より東側に90基を越す古墳が確認されている。その他、須恵器の生産跡である窯跡が確認されている。須恵器窯では三宅に所在する三宅中尾窯があげられる。三宅中尾窯は、但馬における出現期の須恵器窯である鬼神谷窯跡（竹野町所在）に次ぐ段階の須恵器窯であり、生産地点の推移とともに支配者の推移が伺われる資料である。

以後、各時代に生活をおこなっていた場所が生活地として受け継がれ現在の集落形成の基礎が築かれていくことになる。今後、発掘調査等の増加により資料が増えるとともに関宮町の歴史解明が期待される。

図7　外野波豆遺跡・外野柳遺跡想像図

第３章　調査の方法

第１節　調査地区の設定

(1)　外野波豆遺跡

今回の調査範囲の東端を基準点とし、調査範囲のほぼ中央部分を通るように基準ラインを任意に設定した。この基準ラインは延長102mを測るが、基準点から10mごとに「１区」・「２区」と呼び、西端の90m～102mを「10区」とした。また、１区側から10区側を見て基準ラインの右側を「R(RIGHT)」、左側を「L(LEFT)」とした。包含層の遺物は、「１区R」・「１区L」といった単位で取り上げを行った。

(2)　外野柳遺跡

今回の調査範囲のほぼ中央部分を通るように基準ラインを任意に設定した。この基準ラインにより、調査区を10mごとの11区画に分け、外野波豆遺跡側から「１区」・「２区」とした。外野波豆遺跡と同じく、基準ラインの右側を「R(RIGHT)」、左側を「L(LEFT)」とし、包含層の遺物の取り上げを行った。

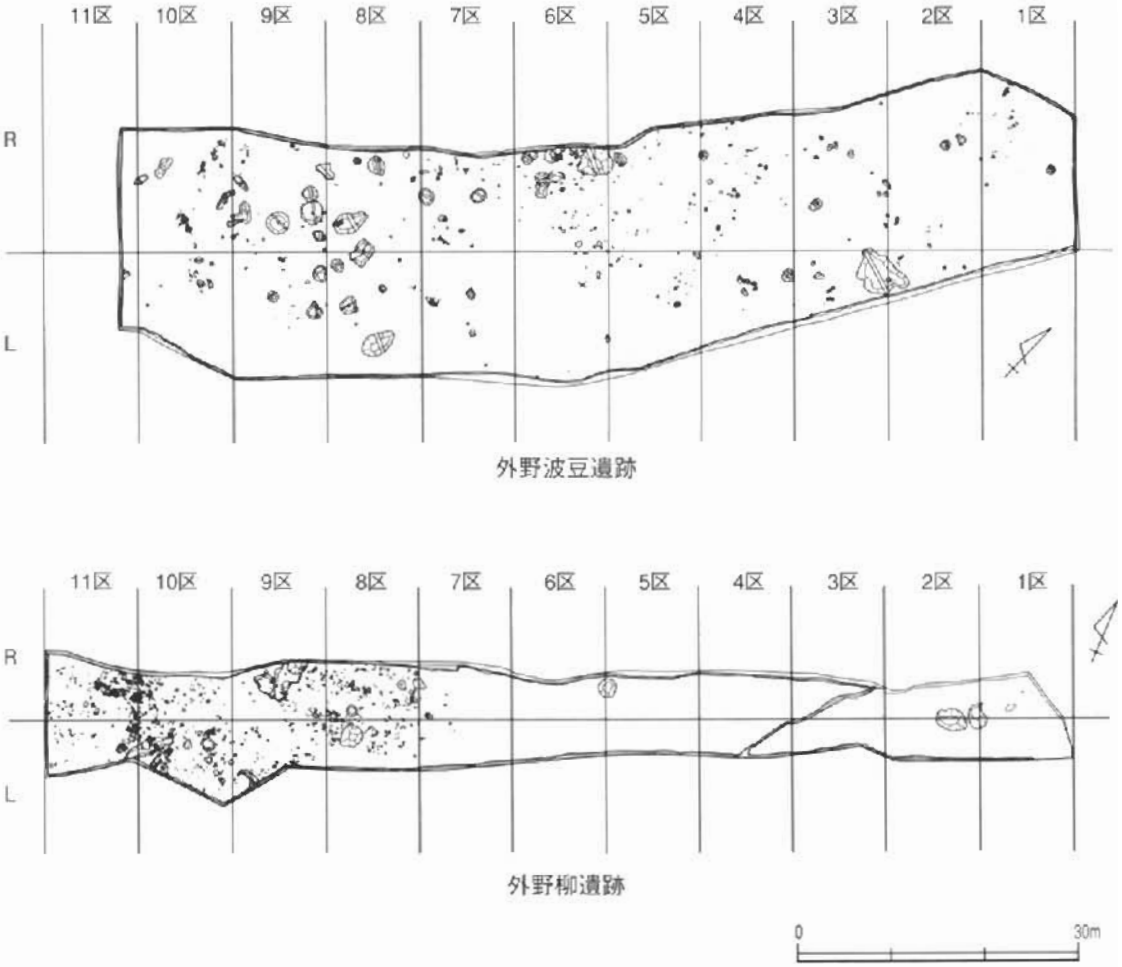


図８　調査地区設定図

第2節　土　　層

外野波豆遺跡で見られる土層堆積は、基本的には、①表土層（腐食土）・②クロボク層・③地山である。調査範囲のほぼ全体で、この層序がみられるが、1区R・2区Rの標高が高い部分では②クロボク層が欠如しており、①表土層（腐食土）の直下が③地山となる。また部分的には、②と③の間に、③がやや汚れたような層が存在した。

遺物は、クロボク層からも出土したが、総量は少なく、遺物包含層といえるような層は見られない。クロボク層から出土した遺物は、ほとんどが遺構の集中する部分から出土しており、クロボク層で検出できなかった遺構の埋土に入っていたものである可能性が強い。

外野柳遺跡の土層堆積状況も基本的には外野波豆遺跡と同じで3層からなる。7・8区の谷部では、褐灰色シルト層やクロボクの2次堆積層などが見られた。遺物はほとんどがクロボク層の下層から出土している。外野波豆遺跡と同様、遺物包含層といえるような土層はなく、遺物の出土地点は、ほとんどが9区～11区の遺構検出地付近に集中している。

図9　伐採・除根

第3節　調査の方法

今回の調査地点は、両遺跡とも山林であった。調査範囲については、過去に伐採が行われていたが、調査時点ではすでに灌木や草がはえていたため、調査は、伐採・伐木及び過去の伐採時に放置された木や枝を片付けることから開始した。

全面調査は、外野柳遺跡から実施した。

まず、現在の地表面からクロボク層の上面までをバックホーにより掘削し、その後を人力により掘削を行い、精査を実施した。バックホーによる掘削は、東側しか進入路がないため、西側（10区側）から東側（1区側）へと実施した。遺構の調査が進んだ7月1日に、空中写真測量（1/50測量図作成）を実施した。その後、柱穴の断ち割りに伴い木柱を検出し、7・8区の谷部の調査を行った。

図10　機械掘削

遺構検出は、クロボク層中では不可能と判断し、地山面まで人力により掘り下げた後に行った。

外野波豆遺跡の機械掘削は、外野柳遺跡の人力掘削と並行して行った。表土及びクロボク層の途中までを機械で掘削し、その後を人力により掘削した。

外野波豆遺跡の空中写真測量（1/50測量図作成）は、8月7日に実施した。

なお発掘調査から生じる掘削土については、和田山土地改良事務所との協議の結果、そのほとんどを発掘調査地点から約1kmはなれた農道工事地内に運搬し、一部を調査地区内で処分した。

図11　人力掘削

第4章　遺　　構

第1節　外野波豆遺跡の遺構

外野波豆遺跡で検出した遺構は、土坑（ＳＫ）22基、立石を伴う柱穴2基などである。時期は縄文時代前期末から中期初頭である。

ＳＫ01

9区に位置する。直径2.48m、深さ0.7mの円形の遺構である。断面形態は部分的ではあるが肩部が内側に張り出している。埋土はクロボクを中心に7層が堆積しており、自然堆積である。遺構の中心部には杭穴を持ち、杭穴の深さは0.5m、径2.4m。杭穴の底部には、杭の沈み込みを防ぐため、直径8cmの川原石が据えられている。埋土から縄文時代中期初頭の鷹島式土器が出土している。規模はＳＫ02と同じである。

ＳＫ02

9区に位置する。直径2.5m、深さ0.76mの円形の遺構である。断面形態は肩部が内側に張り出す形態をしている。埋土はクロボクを中心に9層が堆積しており、自然堆積している。遺構の中心部には杭穴を持ち、杭穴の深さは0.28m、径0.22mである。ＳＫ08と切り合っており、造られた時期はＳＫ08より新しい遺構である。埋土から縄文時代中期初頭の鷹島式土器が出土している。

ＳＫ03

9区に位置する。直径1.72m、深さ0.52mの隅丸方形の遺構である。埋土はクロボクを中心に5層が堆積している。出土遺物からはＳＫ02と同一個体の縄文土器（図版23の36が接合した土器である）が出土していることにより、ＳＫ02とは大きさおよび遺構中央に設けられた杭の有無の違いはあっても同時期に機能していた遺構である。

ＳＫ04

9区に位置する。直径1.62m、深さ0.5mの円形の遺構である。埋土はクロボクを中心に4層が堆積している。遺構の底部に下層から炭、焼土の順に、焼土が天地反転した状態で流れ込んでいる。また、南西方向には円形の浅い土坑を伴う。

ＳＫ05

8区に位置する。直径2.0m、深さ0.5mの円形の遺構である。埋土はクロボクを中心に4層が堆積している。遺構の底部に下層から炭、焼土の順に、焼土が天地反転した状態で流れ込んでいる。また埋土の上層には板石が混入していた。遺構の中心部に杭穴を持つが、当初から斜めに設置していたのではなく使用過程もしくは廃棄過程において斜めになったものである。

ＳＫ06

7区に位置する。直径1.7m、深さ0.2mの円形の遺構である。埋土はクロボクおよび地山土が混ざっている状態で3層が堆積している。ＳＫ11と同一個体の土器が出土していることより、ＳＫ11と同時期に機能していた遺構と考えられる。

ＳＫ07

8区に位置する。直径1.44m、深さ0.54mの円形の遺構である。土層堆積は3層に分かれる。

ＳＫ08

9区に位置する。直径1.76m、深さ0.48mの円形の遺構である。埋土はクロボクを中心に8層が堆積

している。ＳＫ02に切られており、中央に杭穴は無い。断面も内側に張り出してはいない。大歳山式と同時期の北陸系の縄文土器が埋土より出土している。

ＳＫ10-1

６区に位置する。直径1.1ｍ、深さ0.92ｍの円形の遺構である。土層堆積は９層に分かれる。遺構の中心部に杭穴を持つ。杭穴の直径は0.16ｍ、深さは0.28ｍを測る。ＳＫ10-2と切り合っているが、ＳＫ10-2より新しい遺構である。

ＳＫ10-2

６区に位置する。ＳＫ10-1、側溝、調査区に切られているため全体の詳細は不明であるが、直径1.52ｍ、深さ0.24ｍの円形の遺構である。中央には杭穴を持っており、杭穴は直径0.12ｍ、深さ0.18ｍである。東側肩部から底部にかけては焼土が散布している。

ＳＫ11

７区に位置する。直径1.64ｍ、深さ0.28ｍの円形の遺構である。埋土はクロボクと黄褐色の地山土が７層混ざり合って堆積している。断面は浅いながらも内側に張り出している。ＳＫ06出土の土器と同一個体の土器が出土している。

ＳＫ12

６区に位置する。岩陰に出来た土坑状の落ち込みである。埋土はクロボクが１層堆積している。直径２ｍ、深さ0.18ｍである。鷹島式土器が出土している。

ＳＫ13

６区に位置する。直径0.9ｍ、深さ0.46ｍの方形の遺構である。中心に杭穴を設けており、杭穴の直径は0.14ｍ、深さ0.8ｍである。南西側と北西側は岩を利用して肩部を形成している。断面形態は内側に張り出している。

ＳＫ14

５区に位置する。直径1.48ｍ、深さ0.8ｍの隅丸方形の遺構である。埋土はクロボクと黄褐色の地山土を中心に８層が堆積しており、埋土の上半が地滑りのためずれている。中心に杭穴を設けており、杭穴の直径は0.12ｍ、深さ0.36ｍである。

ＳＫ15

４区に位置する。直径1.1ｍ、深さ0.6ｍの隅丸方形の遺構である。埋土はクロボクを中心に２層が堆積している。中央に杭穴を設けており、杭穴の直径は0.2ｍ、深さは0.39ｍである。

ＳＫ16

３区に位置する。直径1.42ｍ、深さ0.84ｍの隅丸方形の遺構である。埋土はクロボクを中心に５層が堆積している。中央に杭穴を設けており、杭穴は直径0.18ｍ、深さ0.36ｍである。断面は部分的に内側に張り出す。

ＳＫ17

１区に位置する。直径0.98ｍ、深さ0.9ｍの隅丸方形の遺構である。断面形態は内側に張り出し、傾斜のきつい場所に造られているが、底部は水平に造られている。埋土はクロボクを中心に12層堆積している。中央に杭穴を設けており、杭穴の直径は0.12ｍ、深さは0.36ｍである。

ＳＫ23

１区に位置する。直径1.1ｍ、深さ0.82ｍの隅丸方形の遺構である。傾斜のきつい場所に造られてい

るが床面は水平に造られている。埋土はクロボクを中心に8層堆積している。

ＳＫ26

10区に位置する。長径2.56m、短径0.86m、深さ0.32mの遺構である。埋土はクロボクを中心に2層堆積している。

ＳＫ28

6区に位置する。直径1.9m、深さ0.34mの遺構である。埋土はクロボクを中心に3層堆積している。調査区西壁の断面で看取できた遺構であり、平面形態は不明である。

立石1

9区に位置する。直径0.32m、深さ0.93mの柱穴である。柱穴の南側肩部に縦35cm×横17cmの板石を配置している。板石は柱穴から下半分が埋まった状態で検出されている。板石は柱穴の肩部に食い込んでいることより柱の転倒防止の役割をしていたと考えられる。

立石2

9区に位置する。直径0.27m、深さ0.42mの柱穴である。柱穴の南側肩部に縦18cm×横18cmの板石を配置している。板石は柱穴から下半分が埋まった状態で検出されている。板石は柱穴の肩部に食い込んでいることより柱の転倒防止の役割をしていたと考えられる。

立石3

8区に位置する。土坑状の落ち込みの端に位置し、立石1、2と違い柱穴は無く、縦26cm×横22cmの板石が立った状態で出土している。

表1　外野波豆遺跡　遺構一覧表

遺構番号	地区	形態	出土遺物	規模(cm)			土層堆積	底部の杭穴			側面の内彎	他の遺構との切り合い
				長径	短径	深さ		有無	径(cm)	深さ(cm)		
SK01	9区	円形	有	248	240	70	7層	有	24	50	有	無
SK02	9区	円形	有	250	240	76	9層	有	22	28	有	SK08
SK03	9区	隅丸方形	有	172	134	52	5層	無	*	*	無	無
SK04	9区	円形	無	162	136	50	4層	無	*	*	無	無
SK05	8区	円形	無	200	162	50	4層	有	26	18	無	無
SK06	7区	円形	有	170	156	20	3層	無	*	*	無	無
SK07	8区	円形	無	144	128	54	3層	無	*	*	無	無
SK08	9区	円形	有	176	170	48	7層	無	*	*	無	SK02
SK10-1	6区	円形	有	110	88	92	9層	有	16	28	有	SK10-2
SK10-2	6区	円形	有	152	*	24	*	有	12	18	無	SK10-1
SK11	7区	円形	有	164	148	28	7層	無	*	*	有	無
SK12	6区	方形	有	*	*	18	1層	無	*	*	無	無
SK13	6区	方形	無	90	44	46	*	有	14	8	有	無
SK14	5区	隅丸方形	有	148	118	80	8層	有	12	36	有	無
SK15	4区	隅丸方形	無	110	106	60	2層	有	20	39	有	無
SK16	3区	隅丸方形	無	142	114	84	5層	有	18	36	無	無
SK17	1区	隅丸方形	無	98	80	90	12層	有	12	36	有	無
SK18	9区	円形	有	146	110	44	3層	無	*	*	無	無
SK23	1区	隅丸方形	無	110	100	82	8層	無	*	*	無	無
SK26	10区	楕円形	無	256	86	32	2層	無	*	*	無	無
SK27	5区	*	無	*	*	70	3層	無	*	*	無	無
SK28	6区	*	無	*	*	34	4層	無	*	*	無	無

第２節　外野柳遺跡の遺構

外野柳遺跡では、土坑（ＳＫ）９基、溝（ＳＤ）３本、配石遺構１基、焼礫集石遺構１基を調査区西端で検出した。ＳＫ05、ＳＫ09の埋土からは土器が出土している。

ＳＫ01

10区南側に位置する。長径1.5ｍ×短径１ｍ、深さ0.23ｍの土坑である。平面形態は円形で埋土はクロボクが１層堆積している。

ＳＫ02

10区南側、ＳＫ01の南東に位置する。長径0.85ｍ×短径0.75ｍ、深さ0.16ｍの土坑である。平面形態は円形で埋土は１層、クロボクと黄褐色土が混じった状態で堆積している。

ＳＫ05

10区北側に位置し、ＳＫ11を切り、ＳＫ12と同時期に存在する。長径4.5ｍ×短径1.6ｍ、深さ0.28ｍの土坑状流れ込みである。遺構上面の黒色土からは、まとまって撚糸文土器が出土している。

ＳＫ06

８区南東側に位置する。長径2.7ｍ×短径2.3ｍ、深さ0.7ｍの風倒木の跡である。南東側に埋まっている黒色土上層より石器の剥片が出土している。

ＳＫ07

８区北側、ＳＫ06の北に位置する。長径1.4ｍ×短径1.3ｍ、深さ0.26ｍの円形の土坑である。埋土は上層の黒色シルト質細砂と下層の黄褐色シルト質細砂混じり黒色シルト質細砂の２層が堆積している。

ＳＫ09

２区中央に位置する。長径2.7ｍ×短径1.95ｍ、深さ0.24ｍの楕円形の土坑状流れ込みである。埋土は上層の黒色細砂と下層の黒褐色極細砂の２層が堆積している。

ＳＫ10

２区中央、ＳＫ09の南西に位置する。長径3.4ｍ×短径1.94ｍ、深さ0.7ｍの円形の土坑である。埋土は黒色シルト混じり極細砂を下層に11層堆積しており、下から順に自然堆積している。

ＳＫ11

９区北側に位置する。長径2.25ｍ×短径1.92ｍ、深さ0.3ｍの土坑状流れ込みである。ＳＫ05に切られている。埋土は黒褐色シルト混じり細砂を下層に、４層に分けられる。

ＳＫ12

９区北側に位置する。径2.1ｍ、深さ0.88ｍを測る土坑で、ＳＫ05と同時期に存在している。埋土は７層で、黒色細砂混じりシルトを下層にＳＫ05の埋土と共に堆積している。

ＳＤ01

９区南側に位置する。長さ2.2ｍ×幅0.88ｍ、深さ0.4ｍを測り、北西から南東に向かって設けてある溝状遺構である。埋土は２層に分層され上層は細砂黒色土、下層は上層の黒色土が混ざっている明黄褐色シルト混じり極細砂が堆積している。

ＳＤ02

10区南側に位置する。長さ5.2ｍ×幅1.32ｍ、深さ0.42ｍを測り、北から南に向かって設けてある溝状遺構である。埋土は黄褐色の粒が混じる黒褐色シルト質極細砂１層である。

ＳＤ03

10区南側に位置する。長さ2.9ｍ×幅1.7ｍ、深さ0.3ｍを測り、北西から南東に向かって設けてある溝状遺構である。埋土は黒色細砂１層である。底部に流れ込んだ石が存在する。

配石遺構

10区中央、ＳＫ01の西側に位置する。15cmから20cm前後の石を10個前後用い、円を描く形に配列されている。石は周囲に多く散布する黄褐色の火山岩ではなく青色の平たい石を用いている。

焼礫集石遺構

10区および11区北側に位置する。直径15cm前後の焼礫121個より構成されており、直径１ｍ、深さ0.4ｍの土坑の中に焼礫が、まとめて埋められている。焼礫は平坦面を構成するように埋められておらず雑然と埋められている。検出時に70余りの焼けた礫を確認したが、下部に埋められている他の礫も同じ様に焼けた状態で埋められている。土坑は焼礫が見えたところで検出したが、実際の土坑の上場は検出面より少し高い位置で、周囲に散布している土器と同じ高さにあったと考えられる。また、この高さで周囲に焼礫が散布している（図12）。礫の焼け具合は、北側の礫が南側の礫に比べて赤色度が淡い。埋土は炭を微量含む黒色極細砂である。

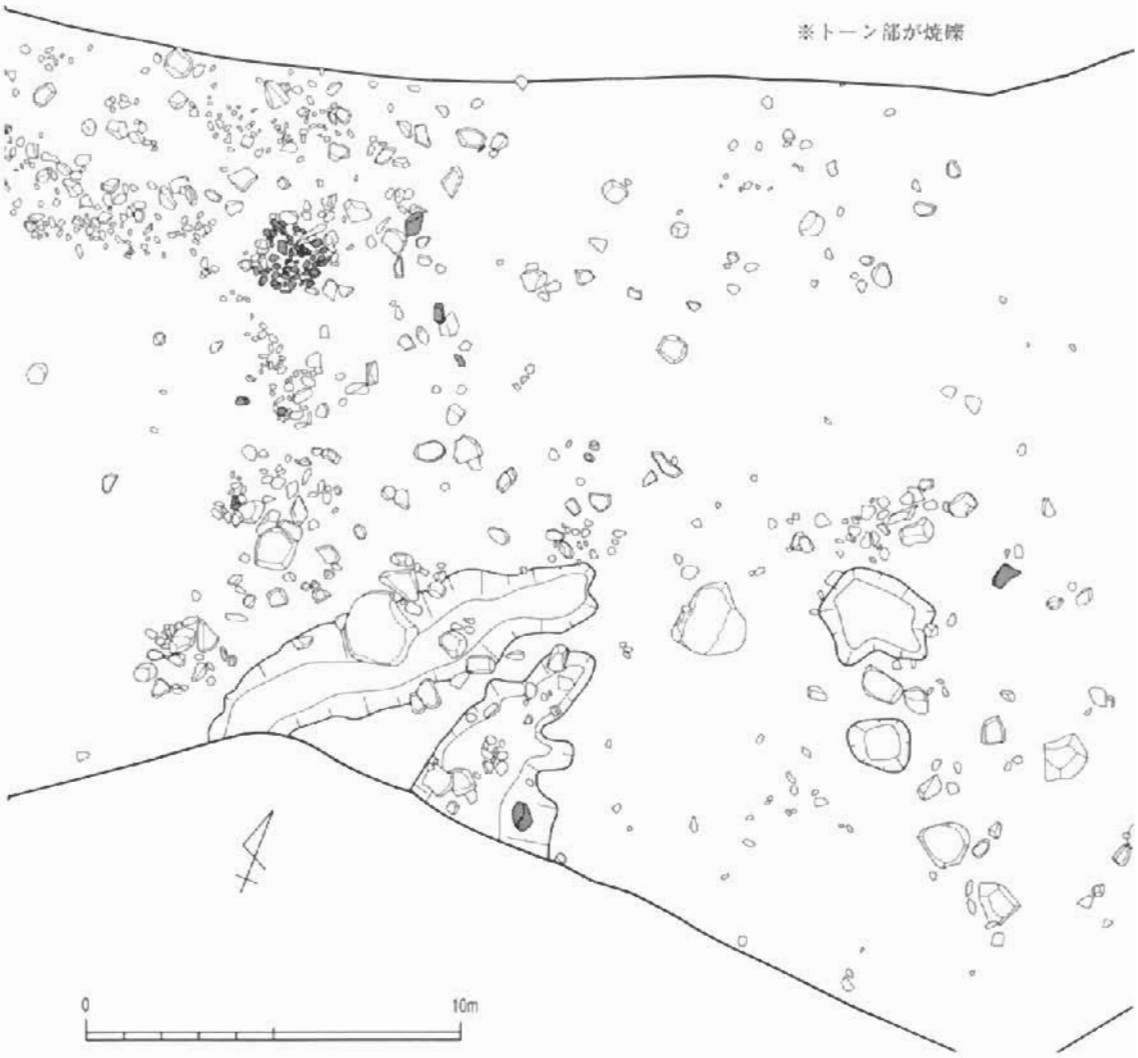


図12　焼礫分布図

第3節　木柱（外野柳遺跡）

外野柳遺跡の8区において堀り方内に残存した木柱と杭が出土している。場所は焼礫集石遺構から約28m東側に離れたところで小さな谷地形にあたる。そのため水が溜まりやすく、堆積するクロボクも1mを越している。この水気の多い場所から木柱6本、杭4本が出土している。木柱の範囲は、調査区北壁に杭跡がかかっていることより調査区の北側へ広がるものと考えられる。

木柱の傾斜角度については、木柱1，3，4が西、南西、北西方向と西側寄りに傾斜しているのに対し、木柱2，5，6が東側に傾斜している。木柱、杭の埋設深度については木柱1，4，5が同じ深さに埋設されているほか、木柱とは深さが違うが杭1，2，3，4もひとまとまりに同じ深さで埋設されている（図13）。また加工痕等は確認できない。

木柱1

8区北側に位置する。長さ1.4m太さ0.26mの木柱が幅1.06mの方形の掘り方内に埋設されている。木柱の中央部分には斜め下の方向に向かってこぶが出来ている。全体に樹皮に覆われており加工痕は確認できない。遺構検出面はクロボクの下層に位置し、埋土はシルトを中心に8層堆積している。埋土中程には大礫が入っている層があり、横方向への傾きを防ぐ意味があるものと考えられる。掘り方の外側にはマンガンと鉄分が付着し硬化している。木柱は西方向に垂直から5度傾く。

木柱2

7区北側に位置する。長さ0.48m太さ0.16mの木柱が掘り方内に埋設されている。埋土はシルトが1層堆積している。全体に樹皮に覆われ、底部は砕けており加工痕は確認できない。木柱は東方向に垂直から50度傾く。

木柱3

8区北側に位置する。長さ1.17m太さ0.1mの木柱が掘り方内に埋設されている。埋土はシルトを中心に9層堆積している。全体に樹脂に覆われ、底部は砕けており加工痕は確認できない。土坑周辺には鉄分が付着し硬化している。木柱は南西方向に垂直から38度傾く。

木柱4

8区北側に位置する。長さ1.22m太さ0.2mの木柱が円形の掘り方内に埋設されている。埋土はシルトを中心に14層堆積している。埋土の中程には大礫が入っている層があり、横方向への傾きを防ぐ意味があるものと考えられる。全体に樹皮に覆われており加工痕は確認できない。木柱の底部はU字型に曲がっている。これは埋設時に曲がっていたのではなく、埋設後何らかの重力が加った為に底部が曲がったものと考えられる。木柱は北西方向に垂直から40度傾く。

木柱5

7区北側に位置する。長さ1m太さ0.17mの木柱が逆円錐形の掘り方内に埋設されている。埋土はシルトを中心に4層が堆積している。木柱は東方向に垂直から23度傾く。樹皮が表面に残存している部分もあるが多くは摩耗している。

木柱6

8区南側に位置する。長さ0.84m、太さ0.2mの木柱である。木柱は東側に垂直から20度傾く。木柱の下部周辺には灰黄褐色シルト（図版20　木柱6の1層）が堆積しているが木柱の浸食作用と考えられる。木柱を埋めた痕跡が見られないことより立木の可能性がある。

杭１

７区北側に位置する。長さ0.78ｍ太さ0.06ｍの杭である。杭の周りは、腐食と水の作用により還元した土が堆積している（図版21　杭１の１層）。杭の外側では樹皮が部分的に付着した状態で出土しており、埋設時においては全体的に樹皮で覆われていたと考えられる。全体的に摩耗を受けているため加工痕は確認できない。

杭２

７区南側に位置する。残存状況が悪く粉々に細分されている。杭の周囲には黒色シルトが堆積しているが、これは杭の炭化した部分である（図版21　杭２の１層）。

杭３

７区南側に位置する。長さ0.07ｍ太さ0.1ｍの杭である。残存状況が悪く粉々に細分されている。図版21　杭３の１層、２層は、地下水の影響により土の色が還元したものである。

杭４

７区南側に位置する。長さ0.42ｍ太さ0.1ｍの杭である。クロボクの上から埋設されている（図版21　杭４の１層）。埋設時においては全体的に樹皮で覆われた状態であったと考えられる。全体に摩耗を受けており加工痕は確認できない。

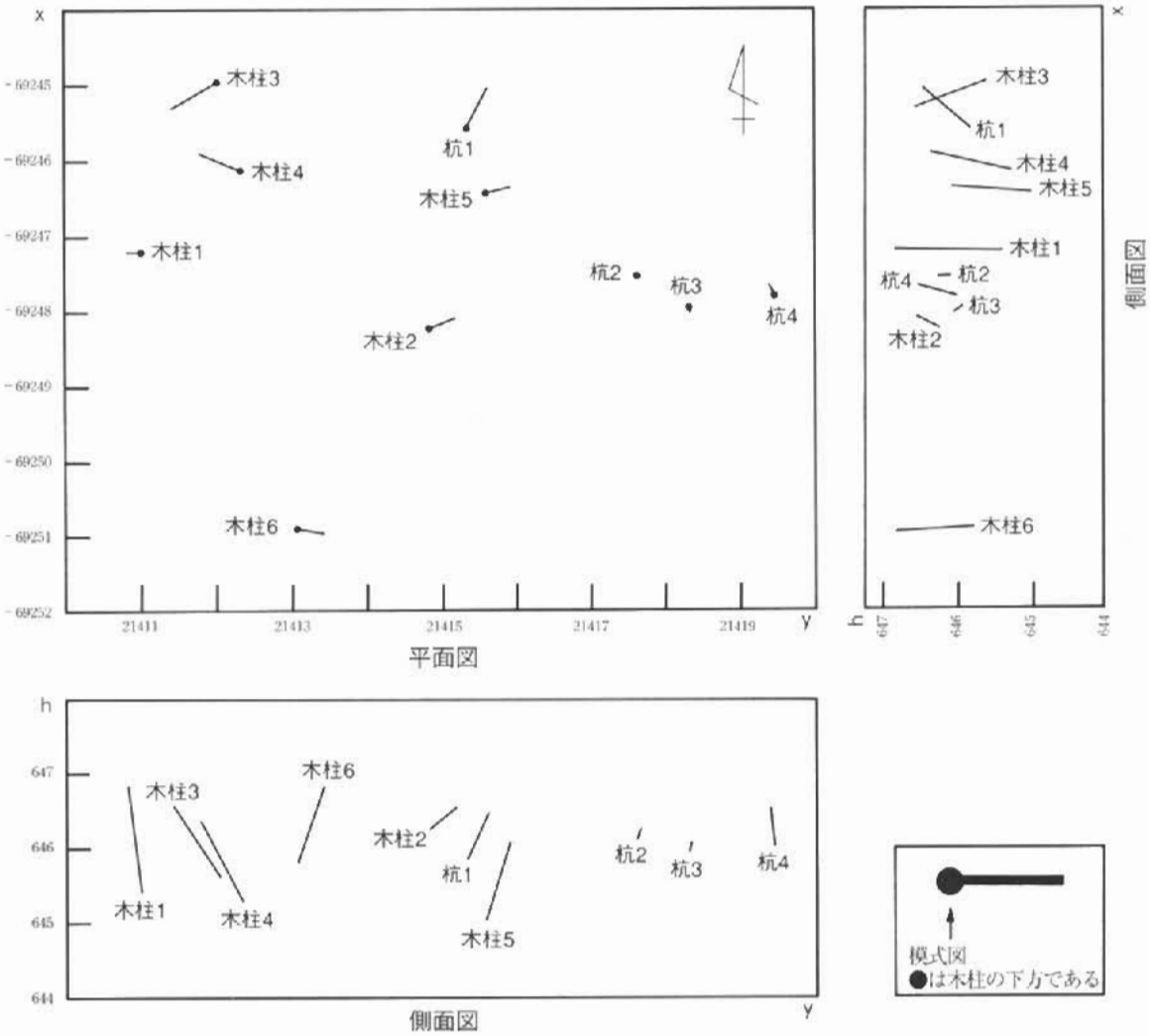


図13　木柱配置図

第5章　遺　　物

第1節　外野波豆遺跡出土の土器

外野波豆遺跡から出土した土器は、表土掘削時に出土した土器も存在するが、大部分は遺構から出土した土器である。調査区北側の遺構よりも調査区南側の遺構から多く土器が出土している。

土器の年代は、大半が縄文時代前期末から中期初頭にかけてであり、大歳山式から鷹島式の縄文土器である。

ＳＫ01出土土器（１～11）

ＳＫ01からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。１は２同様貼り付け突帯を持つ。口縁部の内面は上端に撚糸文を施しているが、下端には強いナデを施しており、撚糸文の有無を明瞭に分けている。９は北陸系新保式の深鉢で鷹島式に伴う土器である。口縁部は内面に傾斜する形で平坦面を持つ。外面には半裁竹管文が施され、内面には沈線文が一条まわっている。この土器は10、96と同一個体である。５は大歳山式で、貼り付け突帯の刻みがシグマ状をなしている。外面には撚糸文が施され、内面はナデにより成形されている。７は結晶片岩が入り縄文の撚りが淡く、他の出土遺物と相違を見せる。

８は表面に透明漆とベンガラが塗られている。時代は弥生時代前期中段階である。底径は11.2㎝、高台の高さは２㎝である。高台先端は丸く収められており、胎土は緻密である。同じ種類の土器がＳＫ02でも出土している。

ＳＫ02出土土器（12～36）

ＳＫ02からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。32は縄文の撚りが古い様相を示しており、貼り付け突帯上に施文が粗く施されている。口縁は内側に折り曲げて厚みを出している。また12も同様口縁を内側に曲げ、厚みを出している。21は撚りの方向がＬＲであり、細かく施している。28、29、98（遺構外出土）は同一個体である。30と同じく半裁竹管文が施されており、北陸系新保式の土器である。20、22は同一個体である。16、17は突帯の幅が広く、鷹島式より新しい様相を示す。33、34、35、36は五角形の底部である。

25、26、27は表面にベンガラと透明漆が塗られており、胎土も他の出土遺物と比べると緻密である。26、27は頸部と考えられ、26は外面を押さえることにより段を造りだしている。27の突帯は古い様相を示し、内外面にはミガキが施されている。25は８（ＳＫ01出土）と同様、高台を持つ土器である。低径は10.7㎝、高台の高さは1.5㎝である。時代は弥生時代前期中段階である。36はＳＫ02から出土した土器と同一個体である。

ＳＫ03出土土器（37～46）

ＳＫ03からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。37、39は同一個体であり、内面には強いナデを施している。42には結晶片岩が入り、外面に貼り付け突帯を持つ。43、44、45は前期末の土器であり、43の内面には炭化物が付着している。

ＳＫ06出土土器（47～52）

ＳＫ06からは中期初頭の鷹島式の縄文土器が出土している。47は口縁部である。52は底部から体部下半にかけて残存している土器である。底部は、角を粘土の貼付により造りだしており、五角形を示す。

ＳＫ08出土土器（53、54）

ＳＫ08からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。53、54の土器は沈線文が施されており、新保式と考えられる。

ＳＫ10出土土器（55～65）

ＳＫ10からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。55、57は同一個体であり、口縁部に平坦面を持っている。56も同様に口縁部に平坦面を持っている。64、65は撚りの形が正方形に近いことから鷹島式より古く、大歳山式の影響を受けていると考えられる土器である。

ＳＫ11出土土器（66～68）

ＳＫ11からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。68はＳＫ06出土土器（50）と同一個体である。

ＳＫ12出土土器（69～74）

ＳＫ12からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。69には補修孔が存在する。補修孔の中には炭化物が詰まっていた。また、補修孔を利用して接合していた土器の断面には炭が付着しており、補修後も使用したことが想定できる土器である。

ＳＫ14出土土器（75）

ＳＫ14からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。

ＳＫ18出土土器（76～78）

ＳＫ18からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。76、78は32（ＳＫ02）と同一個体である。

pit１、２出土土器（79～81）

pit１、２からは前期末から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。79、80がpit１、81がpit２から出土している。

遺構以外出土土器（82～98）

遺構以外出土土器とは、遺構検出のための機械掘削や人力掘削および確認調査時に出土した土器のことである。

遺構以外からは早期から中期初頭にかけての縄文土器が出土している。82、83、84は縄文時代早期の土器である。82、83は外面に山形文が施されている。84は口縁部から体部にかけての土器である。口縁内側は粘土を折り返すことにより厚みを持たせており、折り返した部分に撚糸文が施されている。口縁端部から突帯を貼り付けており、突帯上に刺突文を施している。92は突帯を貼り付けずにシグマ状工具を用いて施文している土器である。86、87、89～91、93～95、97は確認調査時に出土した土器である。これらのうち、97は条痕文、それ以外は撚糸文を施した土器である。

第２節　外野柳遺跡出土の土器

外野柳遺跡においては、ＳＫ05、ＳＫ09以外の遺構からは土器が出土していない。遺構以外から出土した土器は主に９区および焼礫集石遺構周辺（10区、11区）において散布していたものである（図14参照）。

出土した土器は縄文時代早期の黄島式、高山寺式が主である。なお表土掘削時において縄文時代中期の土器が出土している。

出土した土器の施文方法は無文、楕円押型文、楕円押型文＋沈線文、条痕文、体部は内外面の条痕文、撚糸文である。以下、施文方法別に土器の説明をおこなう。

無文（99～110、142）

出土地区は10区焼礫集石遺構周辺である。胎土は粗く、色調は全体的に明るい褐色である。器厚は7～10㎜である。99は口縁部で端部は丸く、少し外反する形態を示す。142は張り出し部を持つ底部である。

楕円押型文（111～133、149、152 ）

出土地点は10区、11区で、焼礫集石遺構周辺に広く散布している。今回、外野柳遺跡で一番多く出土した土器の施文方法である。胎土は全体的に粗く、器厚は6.5～10㎜と様々である。「押型の幅／押型の長さ」の値は、大半が0.5～0.7の範囲に入る。131は表裏に楕円押型文が施されている。149、152は人力掘削時に出土した土器である。

楕円押型文＋沈線文（134）

出土地点は10区の焼礫集石遺構東側である。胎土はやや粗く、色調は灰褐色、器厚は7.5㎜ である。

条痕文（135～138、150）

出土地点は、主に10区の焼礫集石遺構北側である。胎土はやや粗く、繊維が多く含まれている。器厚は12～13.5㎜で他の出土土器と比較すると厚い傾向にある。口縁部は若干外反し、端部は丸く収められている。135、136、137は同一個体であり、150は人力掘削時に出土した土器である。

条痕文・体部は内外に施文（139～141、147、153）

出土地区は１区のＳＫ09および10区である。胎土はやや粗く、器厚は7.5 ～11㎜である。141は底部外面のみに条痕文が施されており、底部は丸く収められている。147はＳＫ09より出土した土器である。153は確認調査時に16Ｇから出土した土器である。

撚糸文（145、146、148）

撚糸文はＳＫ05から出土している。146の口縁部は粘土を内面に貼り付け、丸く収めている。撚糸の幅は1.5㎜ 有り、密に施されている。胎土は粗く、外面には炭化物が付着している。３点の器厚は7.5～９㎜であり、同一個体である。

里木Ⅱ式(143、144、154)

出土地点は焼礫集石遺構の東側と西側で各１点、人力掘削時に１点出土している。胎土はやや粗く、色調はにぶい黄褐色、器厚は６～8.5㎜である。外面には半裁竹管文と撚糸文が施されている。なお154は人力掘削時に出土した土器である。

北白川下層Ⅱ式（151）

出土地点は１区のＳＫ09付近である。部位は頸部付近であり、胎土はやや粗く、色調はにぶい黄褐色、器厚は５㎜である。

第３節　関宮町保管資料

関宮町保管資料は高松龍暉氏による長年の踏査により採集されたものである。採集した場所は外野波豆遺跡と外野柳遺跡の中間に所在する畑および田圃である。これらの遺物は外野柳遺跡として発表されているが、土器の年代は縄文時代前期末から中期初頭であり、外野波豆遺跡と同時期の遺跡であると考えられる。

土器は縄文時代前期末から中期初頭の撚糸文土器である。暗褐色の色調が多く、外面に炭が付着している土器が多い。口縁部は丸く収められており、外面に施された撚りの方向はＲＬである。北陸系の沈線を伴う土器も採集されている。

石器は、縄文時代中期の切れ目石錘で、大きさは縦5.4cm 、幅1.9cm を測る。棒状をなしており、今回、外野波豆遺跡から出土した扁平な切れ目石錘よりも細い。半分で破砕しているが、同様の切れ目石錘が他に１点採集されている。

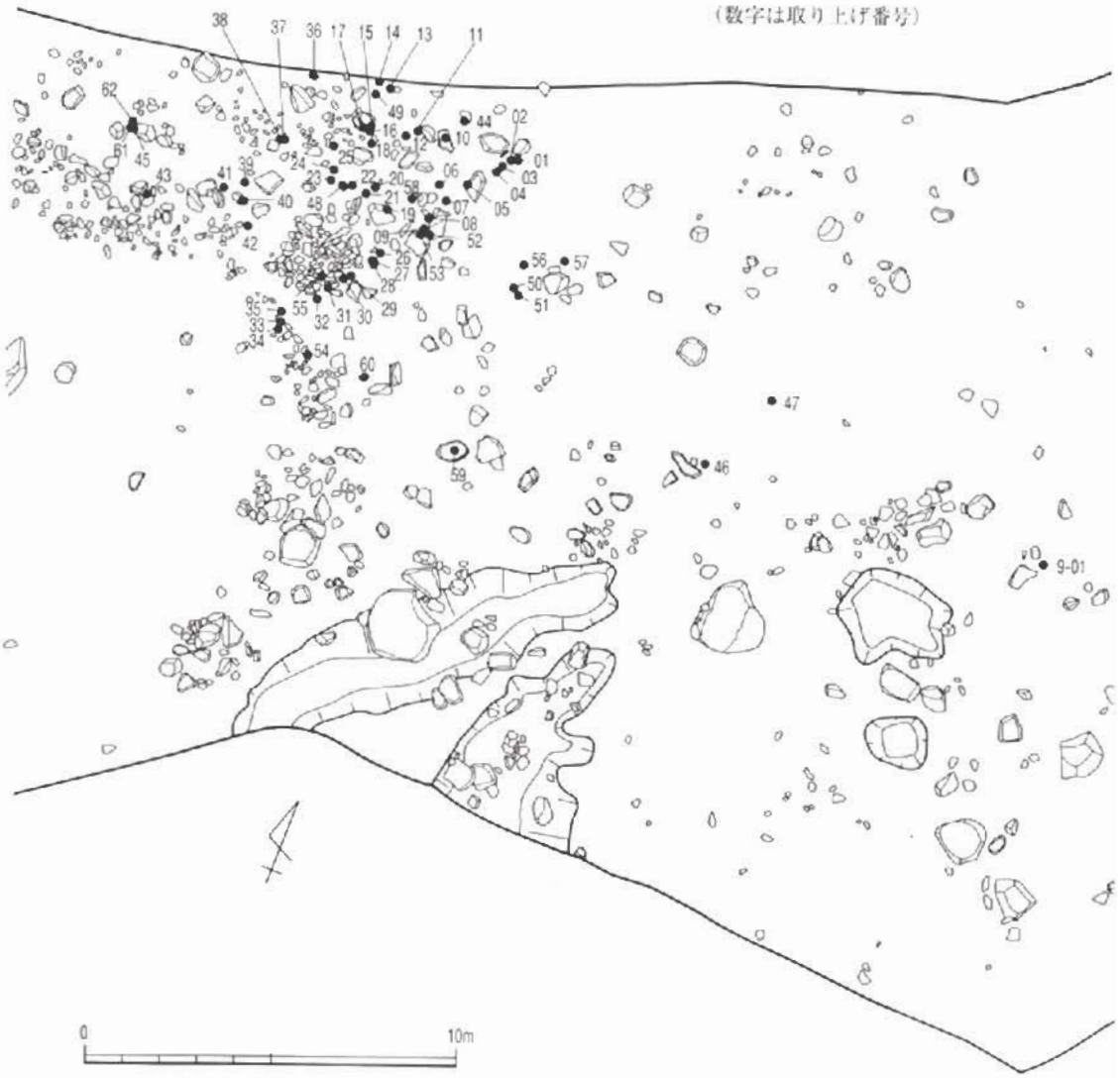


図14　焼礫集石遺構周辺の遺物分布図

第2表　外野波豆遺跡　出土土器観察表

No.1

遺物番号	出土地区	出土遺構	器厚 (mm)	縄文の幅 (mm)	縄文の長さ (mm)	幅／長さ	破片の部位	色調	胎土の粗密	胎土	外面調整	内面調整	備考
1	9区R	SK01	4.0	2.0	5.0	0.40	口縁	浅黄	やや密	石英、長石	縄文	縄文、なで	
2	9区R	SK01	4.5	2.0	4.5	0.44	口縁	にぶい黄橙	密	石英	縄文	縄文、なで	
3	9区R	SK01	5.0	2.0	4.0	0.50	口縁	にぶい黒褐	密	石英、長石	縄文	縄文、なで	
4	9区R	SK01	3.5	2.0	4.5	0.44	口縁	にぶい黄橙	粗		縄文	縄文、なで	炭付着
5	9区R	SK01	6.0	3.0	4.0	0.75	体部	にぶい黄橙	密		縄文	なで	
6	9区R	SK01	5.5	2.0	4.5	0.44	体部	にぶい黄橙	密	石英、長石	縄文	なで	
7	9区R	SK01	5.5	2.5	8.0	0.31	体部	黒	密		縄文	なで	炭付着
8	9区R	SK01	8.0				底部	橙	密	石英、雲母			高台付、赤色顔料
9	9区R	SK01	7.0				口縁	黒褐	粗	石英	半裁竹管文	沈線	北陸系
10	9区R	SK01	5.0				体部	灰黄褐	粗	石英	半裁竹管文		
11	9区R	SK01	6.5				体部	にぶい褐	粗	石英	半裁竹管文	なで	北陸系・凝口縁
12	8区R	SK02	4.0	2.5	3.0	0.83	口縁	にぶい褐	密	長石	縄文	縄文、なで	
13	9区R	SK02	6.0	2.0	3.5	0.57	口縁	にぶい黄橙	密	石英、長石	縄文	縄文、なで	
14	9区R	SK02	6.0	2.0	3.0	0.66	口縁	にぶい黄橙	密	長石	縄文	縄文、なで	
15	9区R	SK02	5.0	2.0	3.0	0.66	口縁	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	炭付着
16	9区R	SK02	4.0	2.5	7.5	0.33	体部	黒褐	やや粗				
17	9区	SK02	4.0	2.0	3.5	0.57	頸部	黒褐	やや粗				
18	9区R	SK02	3.5	2.0	4.0	0.50	口縁	にぶい黄橙	密	長石	縄文	縄文、なで	
19	9区R	SK02	4.5	3.0	4.0	0.75	体部	にぶい黄橙	密	石英、長石	縄文	なで	炭付着
20	9区R	SK02	5.0	2.0	3.0	0.66	体部	にぶい黄橙	密				炭付着
21	9区R	SK02	4.5	2.0	3.5	0.57	体部	灰黄褐	密		縄文	なで	炭付着
22	8区R	SK02	4.5	2.5	3.0	0.83	体部	黒褐	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
23	9区R	SK02	4.5	1.5	5.5	0.27	体部	にぶい黄橙	密	チャート	縄文	なで	
24	9区R	SK02	6.0	2.0	7.5	0.26	口縁	橙	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
25	9区R	SK02	6.0				底部	灰褐	密				高台付、赤色顔料
26	9区R	SK02	7.0				頸部	にぶい褐	密		みがき	なで	赤色顔料
27	9区R	SK02	6.5				頸部	にぶい褐	密	石英、長石	みがき	なで	赤色顔料
28	9区R	SK02	6.0				底部	明赤褐	やや粗	石英、長石	半裁竹管文	なで	北陸系
29	9区R	SK02	4.5				体部	橙	やや粗	石英、長石	半裁竹管文	なで	北陸系
30	9区R	SK02	7.5				体部	にぶい黄橙	やや粗	石英、長石	半裁竹管文	なで	北陸系
31	9区R	SK02	8.0	2.5	5.0	0.50	口縁～体部	にぶい赤褐			縄文	なで	
32	9区R	SK02	5.0	2.0	3.0	0.66	口縁	にぶい橙	密	石英、長石英、長石	縄文	縄文、なで	
33	9区R	SK02	5.0				底部	褐灰	やや粗				
34	9区R	SK02	3.5				底部	にぶい黄橙	やや粗	石英、長石	けずり	なで	五角形底
35	9区R	SK02	6.0				底部	にぶい黄橙	密	石英、長石			
36	9区R	SK02	5.0	2.0	4.0	0.50	底部付近	にぶい黄橙	密	石英、チャート	縄文	なで	
37	9区L	SK03	4.0	2.0	4.0	0.50	口縁	浅黄橙	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
38	9区L	SK03	5.0	2.0	4.0	0.50	口縁	にぶい黄橙	密	チャート	縄文	縄文、なで	
39	9区L	SK03	4.0	2.0	6.0	0.33	口縁	黄褐	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
40	9区L	SK03	5.0	2.5	4.5	0.55	体部	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	
41	9区L	SK03	5.0	2.0	3.0	0.66	頸部	褐灰	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
42	9区L	SK03	5.0	2.0	4.0	0.50	口縁	橙	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	結晶片岩入る
43	9区L	SK03	7.5	3.0	5.0	0.60	体部	にぶい黄褐	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
44	9区L	SK03	7.0	2.5	4.5	0.55	体部	にぶい黄橙	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
45	9区L	SK03	5.5	2.5	3.5	0.71	体部	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	炭付着
46	9区L	SK03	6.0	2.0	4.0	0.50	体部	にぶい褐	やや粗		縄文	なで	
47	7区R	SK06	6.5	2.5	8.0	0.31	口縁	にぶい黄褐	やや粗	石英、チャート	縄文	縄文	
48	7区R	SK06	6.5	2.0	7.0	0.28	体部	灰黄褐	密		縄文	なで	
49	7区R	SK06	6.5	3.0	5.0	0.60	体部	にぶい橙	やや粗	石英	縄文	なで	

No. 2

遺物番号	出土地区	出土遺構	器厚 (mm)	縄文の幅 (mm)	縄文の長さ (mm)	幅／長さ	破片の部位	色調	胎土の粗密	胎土	外面調整	内面調整	備考
50	7区R	SK06	4.5	3.5	7.0	0.50	体部	にぶい黄橙	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
51	7区R	SK06	8.0	4.0	9.0	0.44	体部	暗灰黄	密	石英、チャート	縄文	なで	
52	7区R	SK06	9.0	4.0	10.0	0.40	底部	にぶい黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	五角形底
53	9区R	SK08	9.0				体部	にぶい黄橙	密	石英、長石	沈線文	なで	北陸系
54	9区R	SK08	8.0				体部	にぶい黄橙	密	石英、長石	沈線文	なで	北陸系
55	6区R	SK10	7.5	2.0	6.5	0.30	口縁	灰黄褐	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
56	6区R	SK10	6.0				口縁	灰黄褐	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
57	6区R	SK10	6.0	2.0	7.5	0.26	体部	灰黄褐	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
58	6区R	SK10	3.0				体部	にぶい黄橙	やや密	石英、長石	縄文	なで	
59	6区R	SK10	6.0	2.0	5.5	0.36	体部	にぶい黄褐	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
60	6区R	SK10	4.0	2.0	4.5	0.44	体部	にぶい褐	密		縄文	なで	炭付着
61	6区R	SK10	4.0	1.5	4.0	0.37	体部	橙	密		縄文	なで	
62	6区R	SK10	5.5	2.0	5.5	0.36	体部	にぶい黄橙	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
63	6区R	SK10	7.0	3.0	6.0	0.50	体部	灰黄褐	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
64	6区R	SK10	5.5	3.0	4.5	0.66	体部	灰褐	密		縄文	なで	
65	6区R	SK10	7.0	2.5	4.0	0.62	体部	灰黄褐	密		縄文	なで	
66	6区R	SK11	5.5	3.0	10.0	0.30	体部	黒褐	密	石英、長石	縄文	なで	
67	6区R	SK11	7.5	3.0	5.0	0.60	体部	橙	粗	長石、チャート	縄文	なで	
68	6区R	SK11	8.0	4.0	11.0	0.36	体部	黒褐	やや粗		縄文	なで	
69	6区R	SK12	6.0	2.0	3.5	0.57	口縁	にぶい黄橙	密	石英、長石、チャート	縄文	縄文、なで	接合孔有り
70	6区R	SK12	5.0				体部	にぶい黄橙	やや粗		縄文		
71	6区R	SK12	5.0	2.5	4.0	0.62	体部	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	
72	6区R	SK12	6.5	2.0	4.0	0.50	頸部	褐灰	密		縄文	なで	
73	6区R	SK12	4.0	1.5	4.5	0.33	体部	橙	密	石英、長石	縄文	なで	
74	6区R	SK12	9.0	3.0	6.0	0.50	体部	にぶい黄橙	密	石英、長石	縄文	なで	
75	5区R	SK14	7.5	2.5	3.0	0.83	体部	にぶい赤褐	やや粗		縄文		
76	8区	SK18	4.0	2.0	4.0	0.50	口縁	にぶい褐	密	石英、長石	縄文	縄文	
77	8区	SK18	9.0				口縁	にぶい黄褐	やや粗	石英	不明	なで	
78	8区	SK18	5.0	1.5	3.0	0.50	頸部	にぶい褐	密		縄文	なで	
79	6区R	pit 1	6.5	4.0	7.0	0.57	口縁	にぶい褐	やや粗	石英、長石	縄文	縄文、なで	
80	6区R	pit 1	6.0	2.0	7.0	0.28	体部	明赤褐	粗	石英、チャート	縄文	なで	
81	7区	pit 2	7.0	2.0	3.0	0.66	体部	黄灰	密	石英、長石、チャート	縄文	なで	
82	8区R		10.0				体部	明黄褐	やや粗	石英、長石	山形押型文	なで	
83	8区R		10.5				体部	明黄褐	やや粗	石英	山形押型文	なで	
84	9区		5.5	2.0	2.5	0.80	口縁	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	縄文、なで	
85	7区		5.0	2.5	4.0	0.62	口縁	黒褐	やや粗		縄文	なで	
86	10G	確認調査	7.0	2.0	6.0	0.33	口縁	黒褐	やや粗		縄文	縄文	
87	13G	確認調査	6.5				口縁	にぶい黄橙	密	石英、長石、チャート	縄文、なで	なで	
88	6区R		5.5	2.0	5.0	0.40	頸部	灰黄褐	密	石英、長石	縄文	なで	炭付着
89	11G	確認調査	5.5	2.5	6.0	0.41	頸部	にぶい黄橙	密	石英、長石	縄文	なで	
90	11G	確認調査	4.0	2.0	5.0	0.40	体部	浅黄橙	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
91	10G	確認調査	7.0	3.0	4.0	0.75	体部	灰黄褐	やや粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
92	7区R		5.5	3.0	5.0	0.60	体部	にぶい褐	密	石英、長石、チャート	爪形文、縄文	なで	
93	10G	確認調査	5.0	3.0	7.0	0.42	体部	にぶい黄橙	粗	石英、長石、雲母	縄文	なで	
94	10GB	確認調査	5.0	2.0	6.0	0.33	体部	灰黄褐	やや粗	石英、長石	縄文	なで	
95	11G	確認調査	6.0				底部	灰黄褐	粗	石英、長石、チャート	縄文	なで	
96	8区R		6.5				頸部	橙	粗	石英、長石	半裁竹管文	なで	北陸系
97	12G	確認調査	8.0				体部	橙	粗	長石	半裁竹管文	なで	北陸系
98	10区R		6.0	2.0	3.0	0.66	体部	褐	密				北陸系

第３表　外野柳遺跡　出土土器観察表

遺物番号	出土地区	10区取り上げ番号	9区取り上げ番号	遺構番号	器厚(mm)	撚糸の幅(mm)	押型の幅(mm)	押型の長さ	幅／長さの値	器種	部位	色調	胎土の粗密	胎土	外面調整	内面調整	備考
99	10区R	5			9.0					深鉢	口縁	赤褐	粗	長石、石英	なで	なで	
100	10区R	3			8.0					深鉢	体部	明赤褐	粗	長石、石英	なで	なで	
101	10区R	9			7.5					深鉢	体部	明褐	粗	長石、石英	不明	不明	
102	10区R	10			8.0					深鉢	体部	黒褐	粗	長石、石英	なで	なで	
103	10区R	12			9.0					深鉢	体部	明赤褐	粗		なで	なで	
104	10区R	13			8.0					深鉢	口縁	赤褐	粗	長石、石英	なで	なで	
105	10区R	15・16			8.0					深鉢	口縁	明褐	粗	長石、石英	なで	なで	
106	10区R	33			10.0					深鉢	体部	橙	粗	長石、石英	なで	なで	
107	10区R	34			7.0					深鉢	体部	明褐	粗	長石、石英	不明	なで	
108	10区R	39			8.0					深鉢	体部	明赤褐	粗		なで	なで	
109	10区R	52			8.0					深鉢	口縁	明褐	粗	長石、石英	なで	なで	
110	10区	48			9.0					深鉢	体部	明赤褐	粗	長石、石英	不明	不明	
111	10区R	1			8.0					深鉢	体部	橙	粗	長石、石英	不明	なで	
112	10区R	14			9.0		4.0	7.5	0.53	深鉢	体部	褐	粗	長石、石英	楕円押型文	なで	
113	10区R	18			8.0		3.5	7.0	0.50	深鉢	体部	にぶい褐	粗		楕円押型文	なで	
114	10区R	25			9.0					深鉢	体部	暗褐	粗	長石、石英	不明	なで	
115	10区R	26			8.0		2.5	3.5	0.71	深鉢	体部	明黄褐	粗	長石、石英、チャート	楕円押型文	なで	
116	10区R	30			7.0					深鉢	体部	褐	粗	長石、石英	不明	なで	
117	10区R	36			7.5		3.0	5.0	0.60	深鉢	体部	明褐	粗	石英、長石	楕円押型文	なで	
118	10区R	37			7.5					深鉢	体部	明褐	粗	石英、長石	楕円押型文	不明	
119	10区R	38			8.5					深鉢	体部	にぶい褐	粗	石英	楕円押型文	なで	
120	10区R	41			8.0					深鉢	体部	明褐	粗		楕円押型文	なで	
121	10区L	46			6.5		5.0	9.0	0.55	深鉢	体部	にぶい赤褐	やや粗	長石、石英	押型文	斜行沈線	
122	10区	54			9.0					深鉢	体部	にぶい橙	密	長石、石英、チャート	なで、楕円押型文	なで	
123	11区R	2			8.0					深鉢	体部	明赤褐	粗	石英、長石、チャート	楕円押型文	不明	
124	10区R	6・44			8.0		4.5	8.0	0.58	深鉢	体部	にぶい褐	粗	石英	楕円押型文	なで	
125	10区R	27			8.0		5.0	8.0	0.62	深鉢	体部	赤褐	粗	石英	楕円押型文	不明	
126	10区R	28			8.0					深鉢	体部	明褐	粗	長石、石英、チャート	楕円押型文	なで	
127	10区R	40			8.0		5.0	8.0	0.62	深鉢	体部	明赤褐	粗	長石、石英	楕円押型文	なで	
128	10区R	42			8.0		3.5	8.0	0.43	深鉢	体部	明赤褐	やや粗	石英	楕円押型文	なで	
129	10区	51			9.0					深鉢	体部	明褐	粗		楕円押型文	なで	
130	10区	53			7.5		4.0	8.0	0.50	深鉢	体部	明赤褐	粗	長石、石英	楕円押型文	不明	
131	10区	49			9.0		3.5	6.0	0.58	深鉢	口縁	明赤褐	やや粗	長石、石英	楕円押型文	楕円押型文	
132	10区R	11			10.0	2.5				深鉢	体部	明赤褐	やや粗		楕円押型文	なで	
133	10区	50			9.0		3.0	4.5	0.66	深鉢	体部	橙	やや粗	長石、石英、チャート	楕円押型文	なで	
134	10区R	29			7.5					深鉢	体部	灰褐	やや粗	長石、石英	楕円押型文	なで	
135	10区R	20			12.5	4.0				深鉢	口縁	明赤褐	やや粗	石英、長石	条痕	斜行沈線	センイ多混
136	10区R	22			12.0	4.0				深鉢	体部	明赤褐	やや粗	石英、長石	条痕	斜行沈線	センイ多混
137	10区R	23			13.5	4.0				深鉢	体部	明赤褐	やや粗	石英、長石	条痕	斜行沈線	センイ多混
138	10区R	21			9.5					深鉢	口縁	明赤褐	密		なで	斜行沈線	センイ多混
139	10区R	47			9.0					深鉢	体部	にぶい黄橙	粗	石英	なで	条痕	
140	10区R	24			9.0	2.0				深鉢	体部	にぶい黄褐	やや粗		条痕？	なで	
141	10区R	12			11.0	2.0				深鉢	体部	にぶい黄橙	やや粗	石英、長石	条痕？	なで	
142	10区R	31			8.0					深鉢	底部	橙	粗	長石、石英	不明	不明	
143	10区R	4			6.0	2.0				深鉢	口縁付近	にぶい黄褐	やや粗	石英	撚糸文、半裁竹管文	半裁竹管文、なで	
144	10区R	43			8.5					深鉢	体部	にぶい黄橙	密	石英	撚糸文	なで	
145	9区R			SK05	7.5	1.5				深鉢	口縁	褐	やや粗	長石、石英	撚糸文	なで	
146	9区R		3	SK05	9.0	1.5				深鉢	口縁	灰褐	やや粗	石英、長石、チャート	撚糸文	なで	
147	2区			SK09	7.5	2.0				深鉢	体部	明褐	やや粗	石英、長石	条痕	条痕	
148	9区R			SK05	9.0	1.5				深鉢	体部	にぶい褐	やや粗	長石、石英、チャート	撚糸文	なで	
149	10区				7.5		3.5	6.0	0.58	深鉢	体部	にぶい褐	やや粗		楕円押型文	楕円押型文	
150	10~11区				12.0		4.0			深鉢	口縁	赤褐	やや粗	石英、長石	楕円押型文	斜行沈線	センイ多混
151	2区				5.0		2.5	3.0	0.83	深鉢	頸部	にぶい黄褐	やや粗	長石	なで	なで	
152	10区				9.0		3.0	5.0	0.60	深鉢	体部	にぶい褐	やや粗		楕円押型文	なで	
153	16G				9.0					深鉢	体部	灰褐	やや粗	石英、長石	二枚貝条痕	二枚貝条痕	
154	10~11区				8.0					深鉢	体部	にぶい黄褐	やや粗	石英	撚糸文、半裁竹管文	なで	

第4節　石　　器

外野波豆遺跡出土の石器（図15）

3点の石器を図化した。S1は包含層出土で打製石斧と認定した。長さ68.3㎜、幅46.7㎜、厚さ16.1㎜、重さ52.5gである。石材の詳細は不明であるが、一見サヌカイトに類似した粘板岩系の石材であろう。この石器は、元来板状の剥片素材の石核であるが、表裏面下端側縁は石斧の刃部状の形態を示している。また実測図の表面（左側）左側縁の稜が磨滅しており、同右側縁には細かな剥離痕が連続的に認められる。これらは何らかの「柄」に装着されたときについた痕跡であると考えられる。S2・S3は切目石錘で、S2はSK10出土で、長さ43.5㎜、幅35.6㎜、厚さ14.9㎜、重さ21.6gである。S3は包含層出土で、長さ57.0㎜、幅36.9㎜、厚さ 8.7㎜、重さ21.0gである。

外野柳遺跡出土の石器（図版29・図版30・図16）

8点の石器を図化した。S4・S5は楔形石器で石材はS1と同様である。S4は長さ55.3㎜、幅53.1㎜、厚さ 8.9㎜、重さ26.4gで、S5は　長さ30.8㎜、幅39.7㎜、厚さ 8.2㎜、重さ 8.2gである。これらの複数側縁に微細な連続した剥離痕が認められるので楔形石器と認定した。S4では上下側縁の2側縁に連続した微細な剥離痕が認められ、一方S5では上下左右の4側縁に連続した微細な剥離痕が認められる。S6は石核で剥片素材である。表裏の剥離痕跡の検討から、素材剥片の周縁から中心に向かって剥片が剥離されたことが考えられる。剥片の剥離に際しては剥離作業の加撃を加える「作業面」

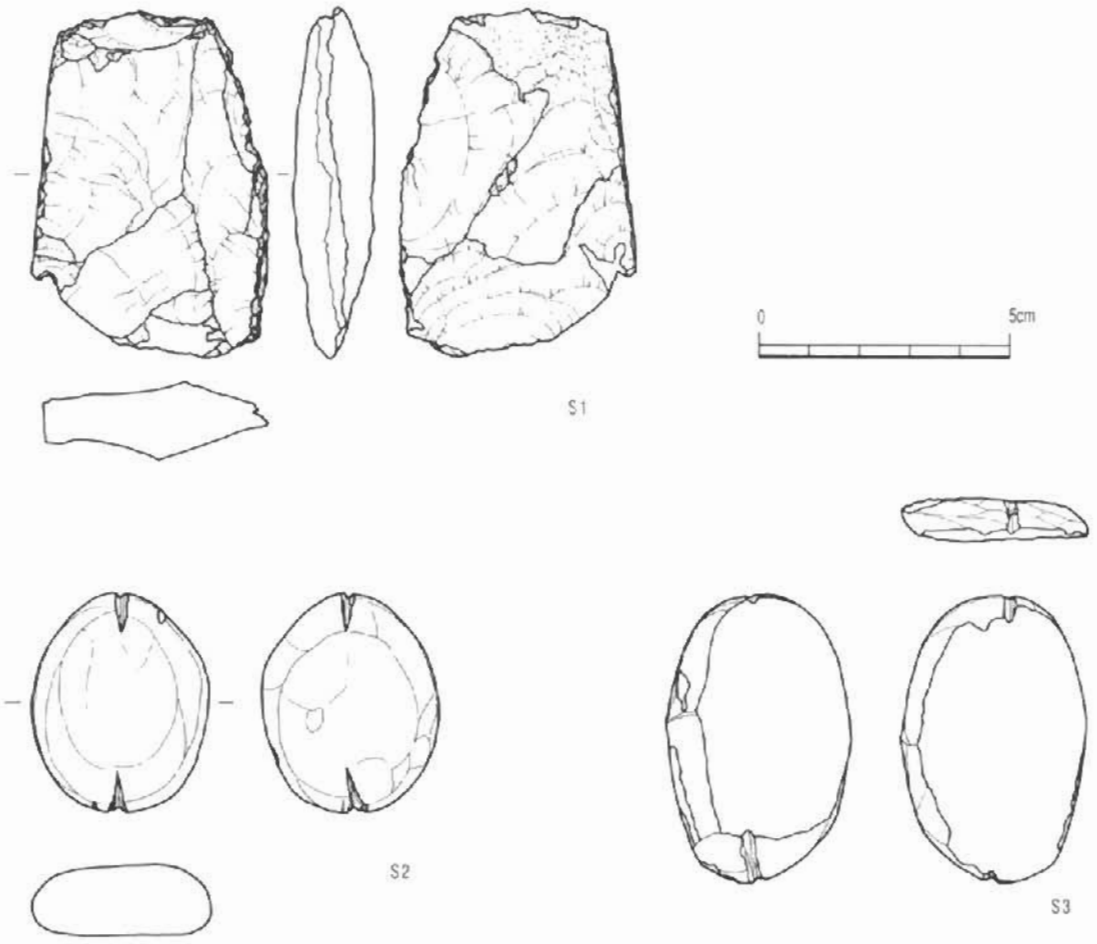


図15　外野波豆遺跡出土石器

と目的とした剥片を剥離した「剥離面」とを交互に入れ換えたもので、瀬戸内地方を中心とした中四国・近畿地方では旧石器時代から剥片素材の石核に対して行われてきた一般的な剥離方法である。長さ62.9㎜、幅49.1㎜、長さ11.1㎜、重さ24.6ｇで、石材はこれもＳ１と同様である。Ｓ７、Ｓ８はともに磨石で、石材は軟質安山岩である。Ｓ７は長さ89.0㎜、幅66.1㎜、厚さ44.5㎜、重さ335.0ｇである。Ｓ８は長さ109.0㎜ 、幅75.1㎜、厚さ51.4㎜、重さ547.1 ｇである。Ｓ９は砥石で、全周面を砥面として使用しているようである。石材は中粒～粗粒の砂岩である。実測図上端のスクリーントーンで図示した部分は受熱の痕跡が認められる。長さ152.0㎜ 、幅65.3㎜、厚さ69.3㎜、重さ 894.8ｇである。Ｓ10も砥石で、長さ 227.5㎜、幅 138.3㎜、厚さ87.2㎜、重さ350ｇである。これも全周面に使用の痕跡が認められる。Ｓ11は大型の石皿で、長さ 403.8㎜、幅 270.9㎜、厚さ81.2㎜、重さ11,600ｇである。石材は脆い粘板岩である。これらＳ４～Ｓ11はすべて包含層出土の遺物で、明確な遺構にともなったものは認められなかった。

石器からみた外野波豆遺跡と外野柳遺跡

このように外野柳遺跡では、石皿・砥石と磨石が包含層出土ではあるが、セット関係をもって出土していることから、植物食に対しての作業を行っていたことが容易に想像され、礫群も存在することからこの地で煮炊きをともなったキャンプ生活をおこなっていたと考えられる。また石鏃や石槍が全く認められないことは、この地ではこの時期には狩猟活動を行っていなかったと想像される。一方、外野波豆遺跡では、生活に関する石器や遺構の存在がなく、多くの「陥穴」が認められ、中小動物の狩猟活動が盛んであったようで、時期によって遺跡の利用形態が異なっていることが予想され、興味深い。

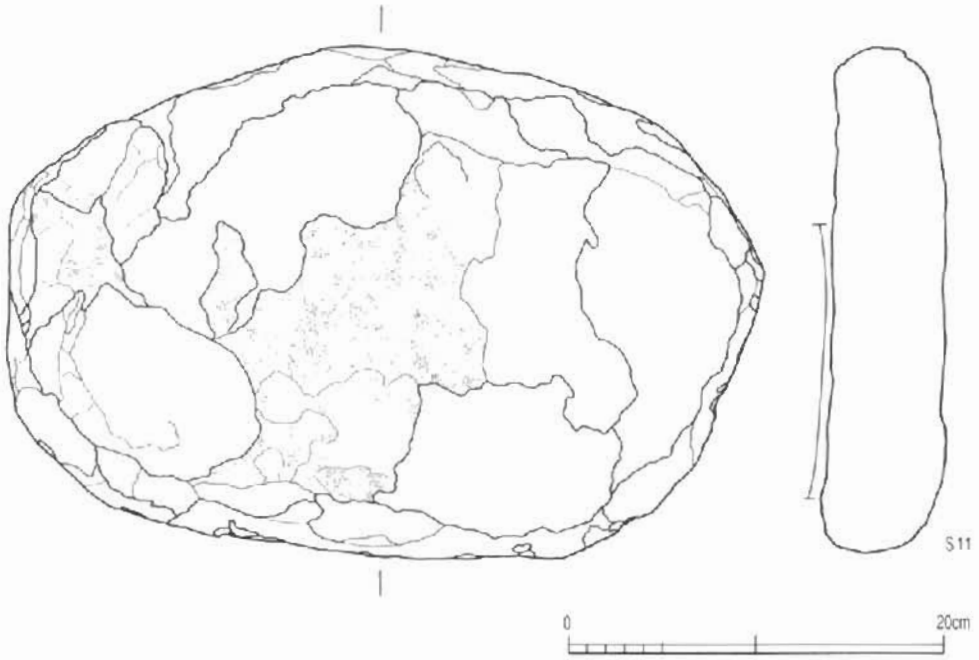


図16　外野柳遺跡出土石器

第6章　自然科学的分析

第1節　兵庫県外野波豆遺跡出土の赤色物質付着土器表面の断面観察

（株）吉田生物研究所

兵庫県所在の外野波豆遺跡から出土した土器の高台部分の表面にみられる、赤色物質について調査したので、以下に報告する。

図17　No.2の表面（×15）

1．調査した資料

今回調査した資料は、平安時代に比定されている土器2点で、ともに底部と高台部分の一部が残存している。その高台の外面に黒色物質と赤色物質がかすかに付着している様子が観察できる（図17）。

2．調査方法

赤色物質が残る部分を、カッターナイフを用いて数mm四方の破片をサンプリングした。その試料をエポキシ樹脂に包埋し、研磨して土器表面の断面薄片プレパラートを作製し、透過光並びに落射光の下、生物顕微鏡で観察した。

3．観察結果

＜観察表＞

No.	出土遺構	断　面　構　造（下層から）	図 No.
1	SK01	土器／黒色物質／透明漆／ベンガラ＋膠着剤	18
2	SK02	土器／黒色物質／透明漆／ベンガラ＋膠着剤	19

4．まとめ

①黒色物質

2点共に土器の直上に黒色物質が観察された。ただしNo.1では土器表面と透明漆層とにはさまれた状態で、黒色物質のみの層が存在する。No.2では透明漆の層の中に混入した状態で存在する。黒色物質は極めて微小な粒子で、煤の可能性がある。

②透明漆

No.2に単独の層として観察される透明漆層には気泡がみられないため、精製度の高い漆であることがわかる。

③赤色物質

赤色物質は、朱の粒子が観察されなかったことから、ベンガラと判断する。また、層中のベンガラの密度が高いため、その膠着剤については不明である。

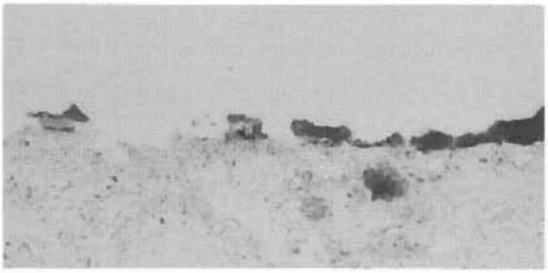


図18　No.1の断面（×400）

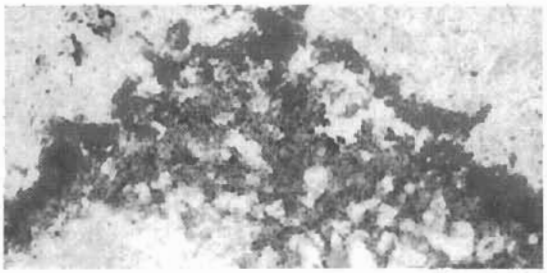


図19　No.2の断面（×400）

第２節　土器片に付着した炭化物について（外野波豆遺跡）

外野波豆遺跡のＳＫ12からは、補修孔が認められる縄文時代中期の土器が２片出土しており（遺物番号69）、このうちの１片の孔内には炭化物が認められた。この炭化物は、２片の土器を緊縛した植物繊維ではないかと考えられた。

この資料を分析することにより、土器を補修する際にどのような繊維を使用したかがわかるのではないかと考え、この炭化物の素材の鑑定を、パリノ・サーヴェイ株式会社へ依頼した。同社では、双眼実態顕微鏡ならびに電子顕微鏡により炭化物の断面観察を行い、合わせて写真撮影を行い、断面の組織の形状から種類の特定を試みている。

分析の結果、「この炭化物の断面では、繊維状の組織が観察されたが、撚りをつけた形跡はないことから縄ではないと判断」でき、「放射組織がみられないことから広葉樹や針葉樹などの木材とも考えにくい」と報告されている。そして「断面の保存が悪く、組織がつぶれてしまっていることから、断面形態から種類を特定することは難しい」としながらも、「放射組織がないこと、繊維状に見えること、補修などに使える強度の強い植物であること、炭化しても残りやすいこと、などの状況から推測すると、タケ・ササなどの茎が木質化になるイネ科植物である可能性が考えられる」との結論がえられている。

（「　」内はパリノ・サーヴェイ株式会社「外野波遺跡の炭化物同定報告」より抜粋。）

第３節　木柱の埋土について（外野柳遺跡）

外野柳遺跡７・８区の谷地形部分から出土した木柱は、土壌の堆積状況の観察から、褐灰色シルト層の下面から穴を掘り込み、その掘り方内に立てられていたと考えられる。

この褐灰色シルト層の上層には厚くクロボク層が堆積しているが、一方、10区の焼礫集石遺構周辺から出土した縄文時代早期の土器もまたクロボク層中から出土している。従って現地調査時には、木柱は縄文時代早期以前のものの可能性が強いと判断していた。

しかし、この木柱の周囲および掘り方内からは遺物は全く出土しておらず、他の遺構や遺物と遊離しているため、前記のような判断が妥当であるかどうかの確証をえることができなかった。肉眼観察上は、褐灰色シルトが掘り方を覆っているように見えるが、上層のクロボク層に堆積している火山灰などが掘り方に入っていれば、前記のような推論はできないことになる。

掘り方がクロボク層中から掘られていないことの傍証資料とするため、木柱の掘り方埋土の火山灰分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。依頼した試料は、木柱１の埋土の上層部分（木柱１埋土１）、同中層部分（木柱１埋土３）同底部（木柱１埋土５）、褐灰色シルト上層の黒ボク土（木柱１上層クロボク）及び掘り方周辺の地山の土（木柱１周辺地山）の５点である。

試料は処理を施された後、実態顕微鏡により観察された。また、検出された火山ガラスについては、そのテフラの特定のために火山ガラスの屈折率の測定も行われた。

分析の結果、木柱１埋土１と木柱１上層クロボクの２点にＡＴ火山灰に由来する少量の火山ガラスが認められた。この２点以外の試料には、軽石、スコリア、火山ガラスともに全く認められることができなかった。

（パリノ・サーヴェイ株式会社報告「外野柳遺跡のテフラ分析報告」より）

第4節　外野柳遺跡出土木材の樹種

京都大学木材科学研究所　伊　東　隆　夫

縄文時代早期の焼礫集石遺構・配石遺構、土坑が検出された外野柳遺跡は兵庫県養父郡関宮町外野に所在する。焼礫集石遺構周辺からは縄文時代早期の押型文土器が60点余りと、石皿、すり石がまとまって出土。定住した痕跡がないことからキャンプ跡と考えられている。本遺跡の谷部付近から木柱6本、杭4本が、まとまって出土する。また、木柱及び杭は樹皮がついたままの状態で出土している。これら木製品10点につき、樹種の同定をおこなった。

これら、木片から安全カミソリで薄い切片を作製し、スライドガラスに載せて、カバーガラスを被せ、ガムクロラールで封じた。

樹種同定上の顕微鏡的特徴

コナラ節（*Quercus*, Sect. *Prinus*）:環孔材。孔圏導管は大形で、孔圏外導管は小さくかつ接線方向に幅広く分布する。放射組織は単列放射組織と広放射組織からなる。

ケヤキ（*Zelkova serrata* Makino）：孔圏導管は単列で、孔圏外導管と集団をなして接線方向ないし斜線方向に分布する。放射組織は異性で6－8列近くに達し、直立細胞に大形結晶がみられることがある。

クリ（*Castanea crenata* S. et Z.）：環孔材。孔圏導管は大形で1列ときに2、3列となり、孔圏外導管は火炎状に配列する。

ブナ（*Fagus crenata* Blume）：散孔材。導管は単穿孔と段階穿孔を有する。放射組織は単列放射組織から広放射組織まで様々な幅のものが分布する。

センダン（*Melia azudarach* L. var. *subtripinnata* Miquel）：環孔材。孔圏導管は大型。導管は単穿孔を有する。小導管にらせん肥厚。軸方向柔組織が集団をなして周囲状ないし翼状に配列する。放射組織は異性。

外野柳遺跡出土木材の樹種同定結果は表4の通りである。表の結果を整理すると以下の通りである。

柱：クリ　2点、コナラ節　1点、ケヤキ　1点、センダン？　1点、ブナ　1点

杭：コナラ節　2点、クリ　1点、ケヤキ　1点

本遺跡の縄文時代の地層から出土した柱材にクリが用いられたことはこれまでの縄文時代の遺跡と共通する点である。クリ以外の種類も含め、いずれの樹種も大径木になる種類である。それ以外の傾向については点数に限りがあるので明らかではない。

表4　外野柳遺跡出土木材の樹種

資料No.	遺構名	遺物名	樹　種	木器No.
1	木柱1	柱	クリ	990140-1
2	木柱2	柱	コナラ節	990140-2
3	木柱3	柱	クリ	990140-3
4	木柱4	柱	ケヤキ	990140-4
5	木柱5	柱	センダン？	990140-5
6	木柱6	柱	ブナ	990140-6
7	杭　1	杭	クリ	990140-7
8	杭　2	杭	コナラ節	990140-8
9	杭　3	杭	コナラ節	990140-9
10	杭　4	杭	ケヤキ	990140-10

第5節　木柱の^{14}C年代について（外野柳遺跡）

外野柳遺跡から出土した木柱は、土壌の堆積状況の観察から縄文時代早期以前という年代観を漠然と得ていたが、確証は得られなかった。そのため木柱自体を分析し、直接年代観を得るために、^{14}Cによる年代測定を実施した。測定は、名古屋大学年代測定資料研究センタータンデトロン加速器年代測定実験室の中村俊夫教授に依頼した。

分析は、同センターのタンデトロン加速器質量分析計の2号機を用いて行われた。測定した試料は、木柱1の切片及び上層に堆積しているクロボク土壌である。木柱1の切片は、木柱1の下部（樹皮を含む）から採取した。

この両試料の測定の結果は、以下のとおりである。

(1)　木柱1（測定番号：NUTA2－228）

^{14}C年代値：1040±70yrBP

δ^{13}C：－26.3‰(permil)

較正暦年代：(a)較正曲線と^{14}C年代値の交点に当たる暦年代

calAD1001,1013,1015

(b)1標準偏差の誤差を考慮した確率的な範囲予想によると

calAD 897－ 924（13%）

940－1039（78%）

〔但し5%以下は削除した〕

(2)　クロボク土壌（測定番号：NUTA2－228）

^{14}C年代値：8870±110yrBP　（炭素同位体分別の補正はほどこしてある　但し、δ^{13}Cは未測定なため、－25‰を用いた）

δ^{13}C：未測定

較正暦年代：(a)較正曲線と^{14}C年代値の交点に当たる暦年代

calBC8160,8132,8078,8072,8057,8051,7970

(b)1標準偏差の誤差を考慮した確率的な範囲予想によると

calBC8216－7940（84.5%）

7897－7875（ 7.5%）

7857－7841（ 5.1%）

〔但し5%以下は削除した〕

第7章　まとめ

第1節　外野波豆遺跡について

外野波豆遺跡では28基の土坑を調査したが、そのうちには、一見して共通点が見られるものが18基ある（SK01～SK08・SK10-1・SK10-2・SK11・SK13～SK17・SK23・SK28）。これら土坑の平面形は、概ね円形あるいは楕円形をしており、底に小さな穴が見られるものが多い。

これら18基の土坑のうちには、「大きく深いもの」・「浅いもの」といった印象を受けるものがある。この印象を「深さ／長径」の値として数値化すると以下のようになる。

※（　）内は「深さ／長径」の値

値が0.5以上のもの・・・・・・SK10-1（0.84）、SK13（0.51）、SK14（0.54）·SK15（0.55）、SK16（0.59）、SK17（0.92）、SK23（0.75）

値が0.3前後のもの・・・・・・SK01（0.28）、SK02（0.30）、SK03（0.30）·SK04（0.31）、SK05（0.25）、SK07（0.38）、SK08（0.27）

値が0.2未満のもの・・・・・・SK06（0.12）、SK10-2（0.20）、SK11（0.17）

（ただし、SK10-2は推定値により計算）

「深さ／長径」の値だけでは、「浅くて小さいもの」と「深くて大きいもの」とが同程度として分類されることがある。しかし、深さの数値を各グループ内で比較すると概ね近似値をとっており、「浅くて小さいもの」と「深くて大きいもの」とが同程度として分類されていることはないと考える。

この3つのグループを、便宜上、それぞれAグループ・Bグループ・Cグループとする。なお、SK28は調査区壁面でしか確認できていないため平面の規模が不明であるが、深さが約30cmであり、Cグループに含めて考える。Bグループは「大きく深いもの」、Cグループは「浅いもの」といった印象を受ける土坑であり、Aグループは両者以外の土坑である。

Aグループの7基の土坑のうち、SK23を除く6基については、底面に直径15cm前後の小穴が1個認められた。また、このグループの土坑は調査区の北半分にあり、ほぼ等高線に沿うような位置に並んでいる。Bグループの7基のうち、大きなもの3基の底面には小穴が1個認められる。この小穴は、直径が25cm前後とAグループの穴よりも太い。このグループの土坑は、調査区の南半にある尾根の平坦面上に分布している。SK1とSK2はほぼ同規模であり、他の土坑に比べて規模が著しく大きい。Cグループの4基は、調査区の中央部付近で検出され、AグループとBグループの分布地域の間に位置する。「浅い」印象を受ける土坑である。

これらのうち、Aグループの土坑は、その規模や形状からいわゆる「陥穴（おとしあな）」と呼ばれる遺構に類似している。底面の小穴は、逆茂木を据えた跡ではないかと推定される。

Cグループの4基の土坑は、遺構検出面からの深さが20cm前後であり、陥穴としては浅すぎる。SK11は、穴の側面が内側に傾斜しており、巾着状の断面形をしている。兵庫県日高町神鍋遺跡で検出された貯蔵穴と形状が似ている。その埋土は、クロボク層と黄色の地山のブロックが混じっており、人為的に埋めた可能性がある。SK10-2では、底面中央部に小穴が見られる。この穴には、逆茂木の跡の他に、土坑の蓋を支える支柱のようなものの可能性も考えられる。

Bグループの土坑は、通常「陥穴」と呼ばれる遺構と比較して、規模が大きい。従って「陥穴」とするには否定的な意見も多い。しかし、形態上は「陥穴」と同じであり、可能性は否定できない。ただし、

SK05では、底部の穴が斜めになって検出されており、逆茂木あるいは支柱が倒れた様子を示している。SK01・SK02については、他と比べても大きく、住居跡とすることもできる規模を持っている。また他の遺跡での出土例から、貯蔵穴や墓との推定も可能であるが、木の実や人骨も出土しておらず、断定する根拠に欠ける。その埋土は自然に堆積した状況を示しており、人為的に埋め戻したものではない。

外野波豆遺跡の遺物の出土状況は、ほとんどがこれら土坑の埋土からである。また、その上層のクロボク層から出土した土器についても出土地点が土坑群と重なっており、土坑の埋土中のものである可能性が高い。その他のクロボク層中からは遺物は出土しておらず、外野波豆遺跡では、明確な遺物包含層は認められない。

外野波豆遺跡で検出したこれらの土坑は、陥穴あるいは貯蔵穴と推定されるものである。土坑から出土した土器のほとんどは、縄文時代前期末～中期初頭のものである。土坑の周囲に遺物包含層が見られないため、包含層に含まれる土器が混入したとは考えにくく、土坑が埋まっていく過程で入り込んだものであろう。とすれば、これらの土坑の時期は、出土した土器の時代としてもそれほど離れていないといえよう。また、土坑内から出土した遺物の中で、別々の土坑から出土した土器が接合する例がある。SK02・SK03・SK08出土遺物の間に接合関係があり、SK06・SK11出土の出土遺物の間に接合関係がある。従ってそれぞれの土坑は、ほぼ同時期に存在したと考えられる。

ただし、SK01・SK02からは弥生時代あるいはより新しい時期のものと推定される土器も出土している。今回の調査地域には、そのような時期の遺跡は存在しないので、これらの土器が入った原因を推し量る手だてはない。Bグループの土坑が、縄文時代より後世のものである可能性もあるが、土坑から出土した土器量は、圧倒的に縄文土器が多く、縄文時代の遺構に後世土器が混入したと考える方が妥当ではないかと思う。

今回調査した外野波豆遺跡は、集落とは離れた場所に位置する狩猟場及び食料の貯蔵場であると考えられる。

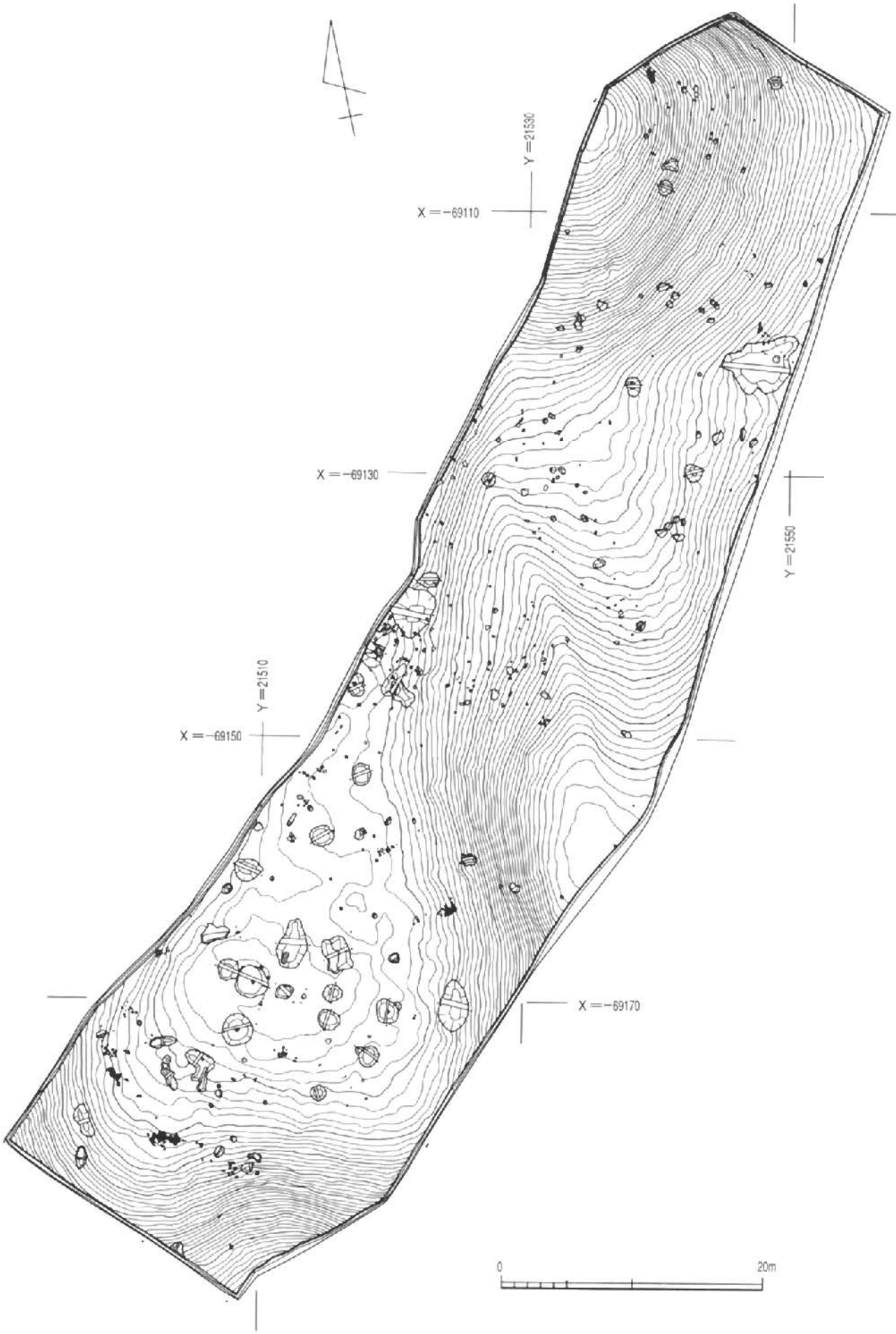
第2節　外野柳遺跡について

今回調査した外野柳遺跡では、遺物はほとんどが焼礫集石遺構の周囲から出土している。縄文時代早期の土器が多く、同一個体と思われるものも多い。その上層では縄文時代中期の土器が少量出土したが、連続性はない。出土した石器も、磨り石はあるものの明確な石皿は出土しておらず、石皿として使用したのではないかと思われる平たい自然石が1点出土したのみである。遺物量の少なさから集落とは考えにくく、キャンプ場所のような性格の遺跡であろうと想像される。

外野柳遺跡は、高松龍暉氏の分布調査によりその存在を知られたが、当時採集された土器は縄文中期の里木Ⅱ式のものであり、今回の調査地区の遺構とは関連性がない。従前知られた外野柳遺跡は、時代的には今回調査した外野波豆遺跡に近い。外野波豆遺跡・外野柳遺跡の前には、現在の外野の集落からと別宮の集落を結ぶ山道が通っており、遺跡は、外野の集落から山を登り、傾斜が緩くなった地点にある。今回調査した外野柳遺跡は、山の上にある別宮家野遺跡のような拠点的集落と山裾からとを結ぶ道中の、一時の宿泊地的な遺跡だと想像できる。

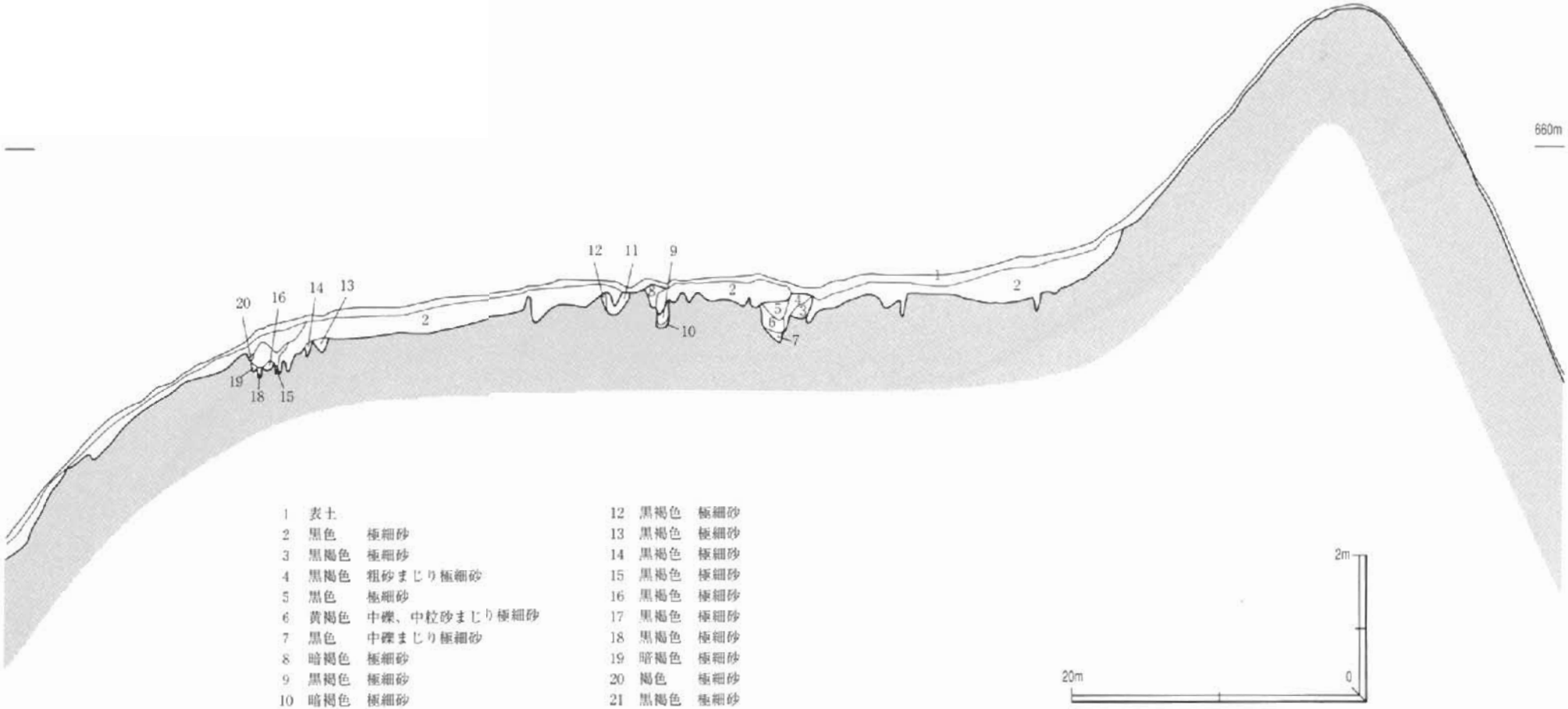
木柱については、その並び方に規則性がみられず、建物に伴う柱とは考えにくい。また、現地調査時の肉眼観察による見解と^{14}Cの年代観に齟齬を生じている。どちらにしても木柱の性格については不明である。

図　　版

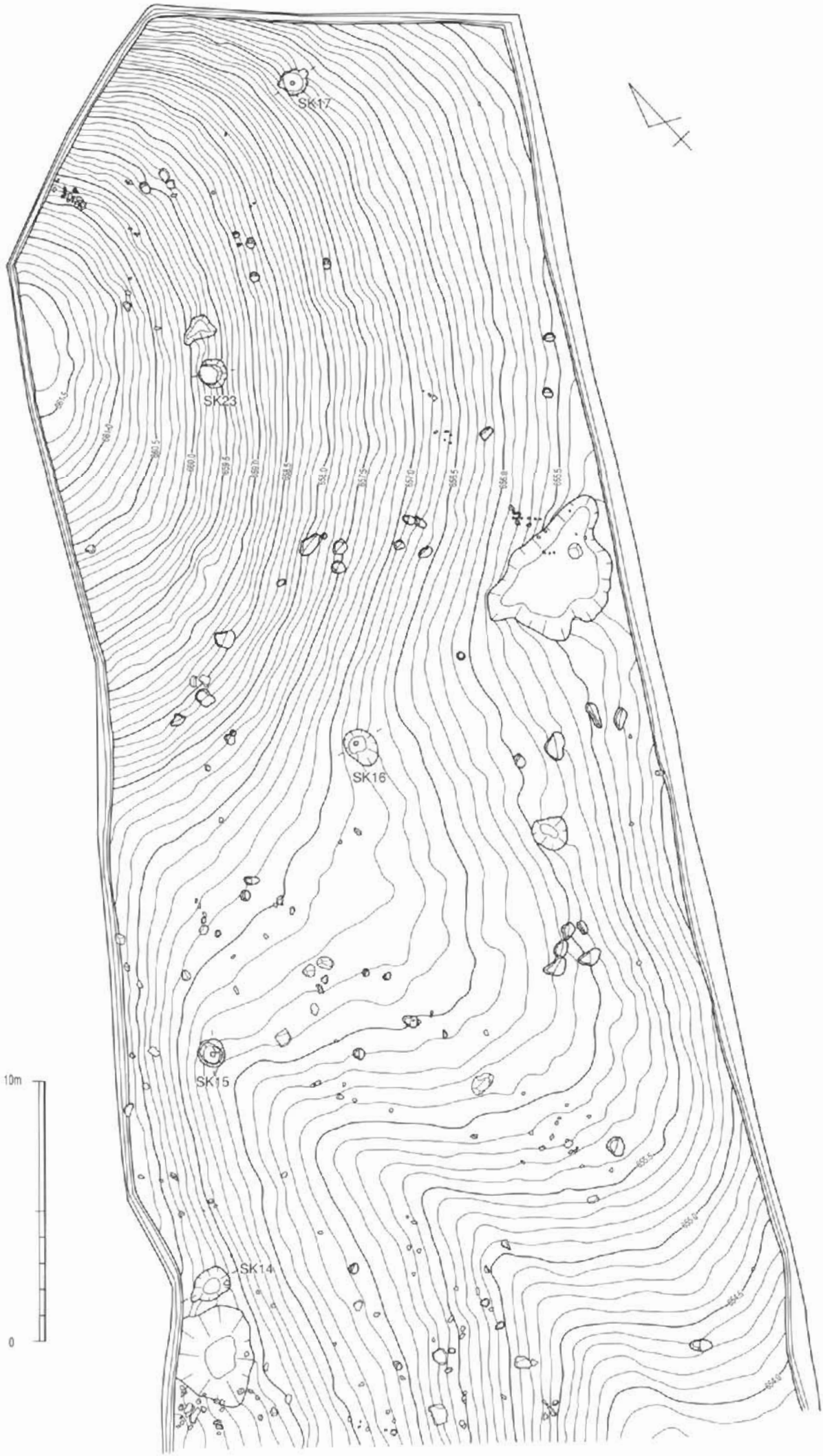


図版1　外野波豆遺跡　全体図

図版2　外野波豆遺跡　調査区西壁土層断面図

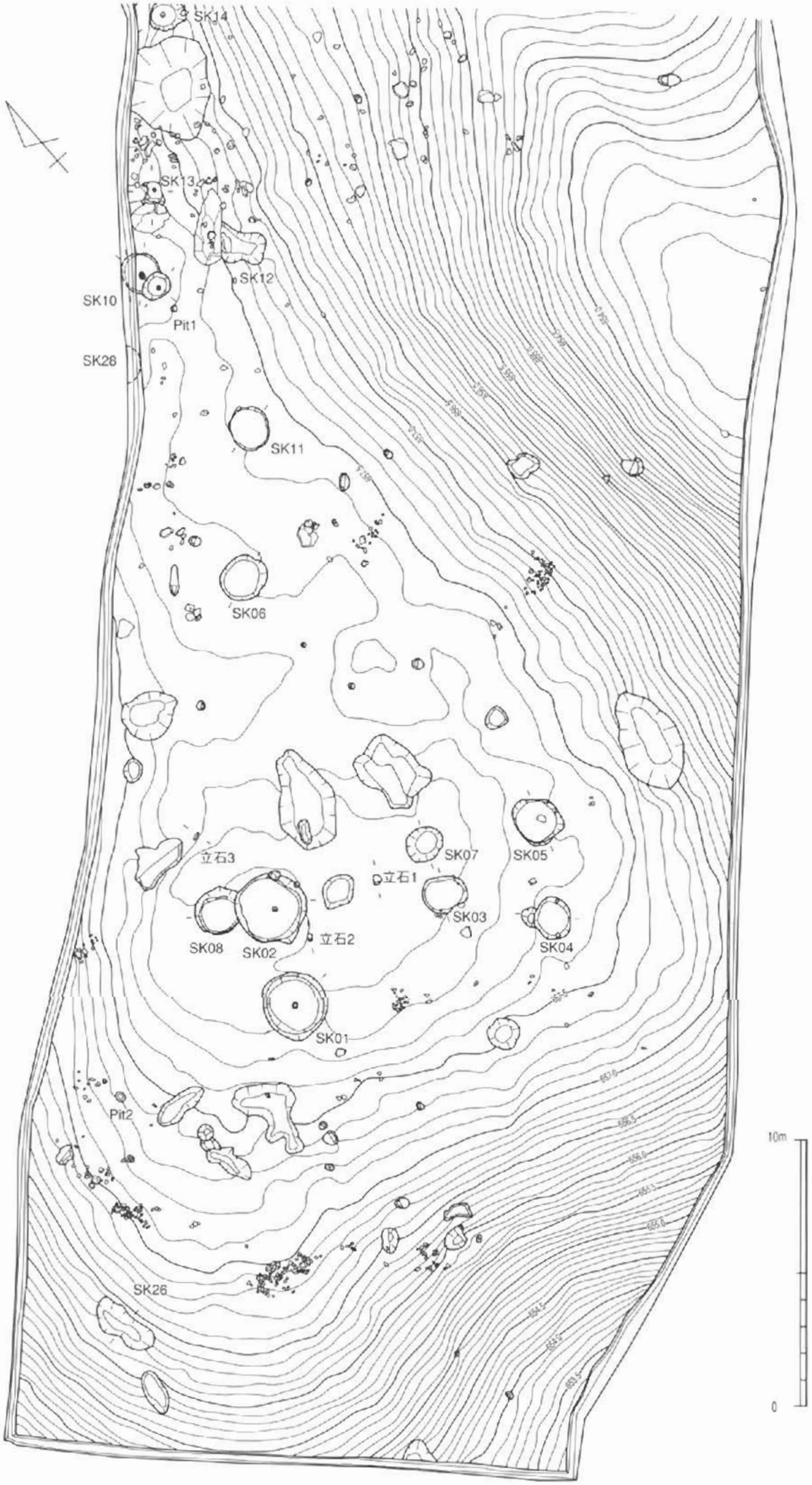


1　表土
2　黒色　極細砂
3　黒褐色　極細砂
4　黒褐色　粗砂まじり極細砂
5　黒色　極細砂
6　黄褐色　中礫、中粒砂まじり極細砂
7　黒色　中礫まじり極細砂
8　暗褐色　極細砂
9　黒褐色　極細砂
10　暗褐色　極細砂
11　暗褐色　極細砂
12　黒褐色　極細砂
13　黒褐色　極細砂
14　黒褐色　極細砂
15　黒褐色　極細砂
16　黒褐色　極細砂
17　黒褐色　極細砂
18　黒褐色　極細砂
19　暗褐色　極細砂
20　褐色　極細砂
21　黒褐色　極細砂



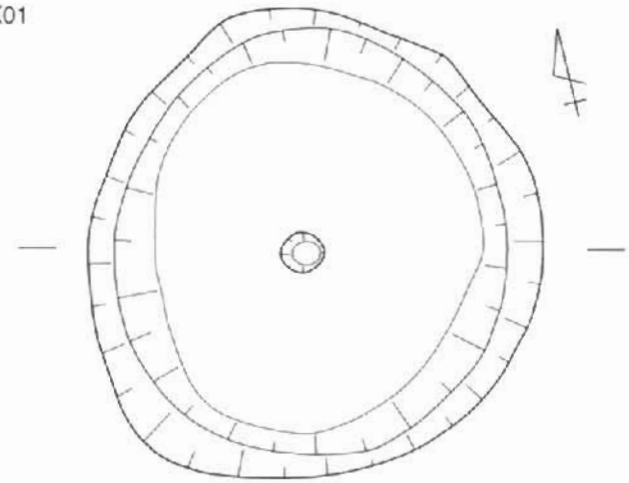
図版3　外野波豆遺跡　遺構配置図（1）

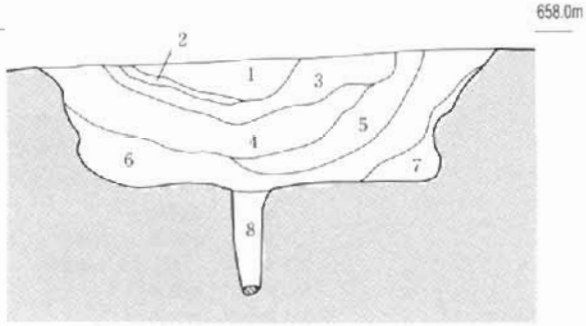
図版4　外野波豆遺跡　遺構配置図（2）



図版5　外野波豆遺跡　遺構図（1）

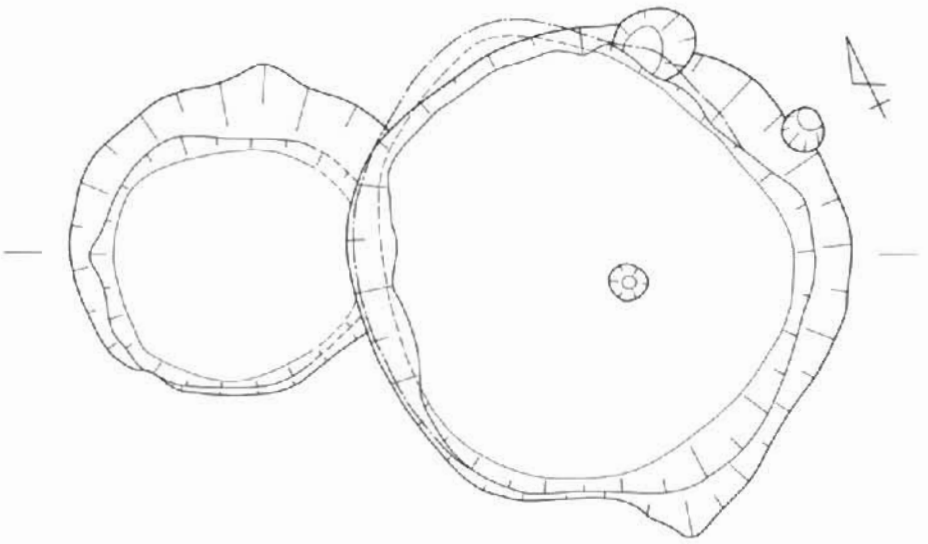
SK01



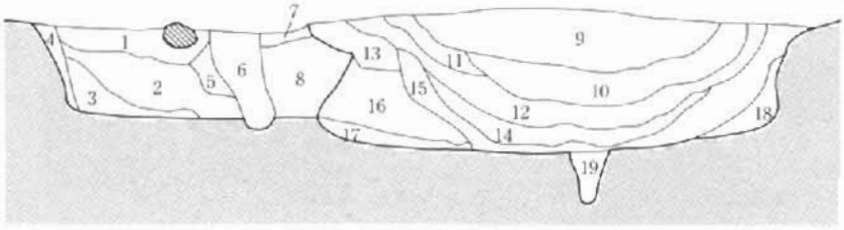


1　黒色　シルト
2　黒褐色　シルト
3　黒褐色　細砂質シルト
4　黒褐色　シルトまじり細砂
5　灰黄褐色　細砂まじりシルト　炭まじる
6　暗褐色　細砂まじりシルト　炭まじる
7　褐色　細砂まじり極細砂
8　暗褐色　細砂まじりシルト

0　2m



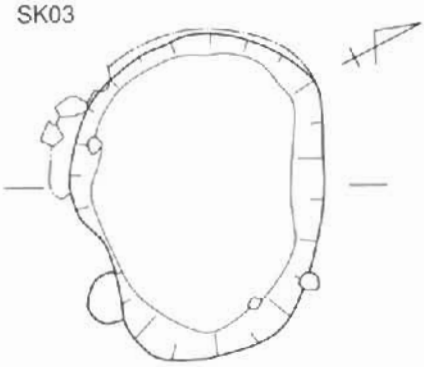
SK08　SK02

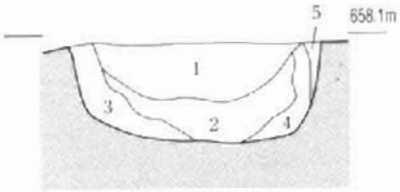


1　暗褐色　極細砂
2　褐色　中礫まじり極細砂　炭少量まじる
3　暗褐色　シルト、粗砂まじり極細砂　炭少量まじる
4　黄褐色　シルトまじり極細砂
5　暗褐色　粗砂まじり極細砂
6　黒色　極細砂
7　黒褐色　極細砂
8　にぶい黄褐色　粗砂まじり極細砂
9　黒色　極細砂
10　黒色　極細砂　炭まじる
11　黒褐色　極細砂
12　暗褐色　シルト、粗砂まじり極細砂　炭まじる
13　黒褐色　極細砂
14　黒褐色　シルトまじり極細砂　炭まじる
15　暗褐色　シルトまじり極細砂
16　灰黄褐色　粗砂まじり極細砂　炭まじる
17　黒褐色　シルトまじり極細砂、土器まじる
18　黒褐色　シルト、粗砂まじり極細砂
19　暗褐色　シルトまじり極細砂

図版6　外野波豆遺跡　遺構図（2）

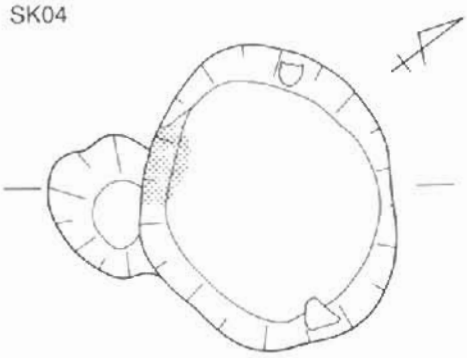
SK03

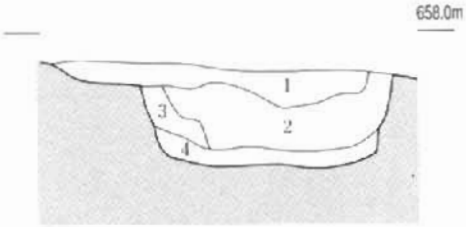




1　黒褐色　細砂
2　にぶい黄橙色　礫まじり極細砂
3　灰黄褐色　粗砂まじり極細砂
4　黒褐色　シルトまじり極細砂
5　褐色　シルトまじり極細砂

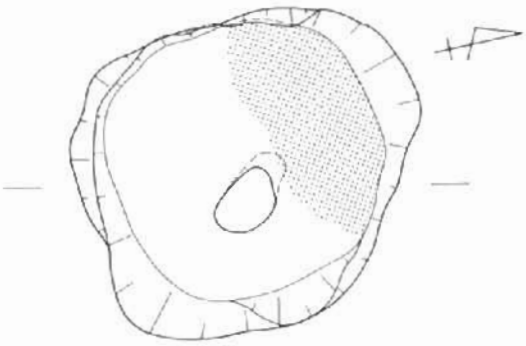
SK04

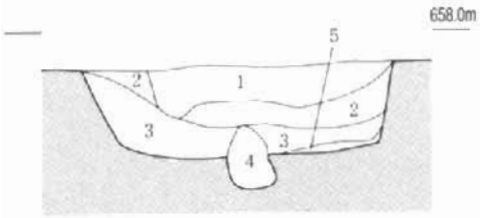




1　黒色　極細砂
2　暗褐色　粗砂まじり極細砂
3　黄褐色　シルトまじり極細砂
4　黒色　極細砂
※　網がけは炭と焼土

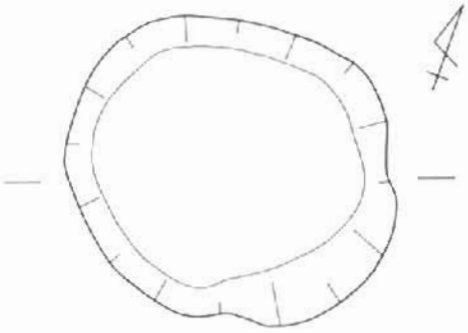
SK05

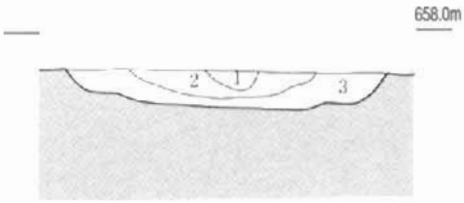




1　黒色　極細砂
2　黒褐色　粗砂まじり極細砂
3　褐色　シルト、中礫まじり極細砂
4　黒褐色　極細砂　杭跡
5　赤褐色　極細砂　炭多量に入る。焼土
※　網がけは炭と焼上

SK06

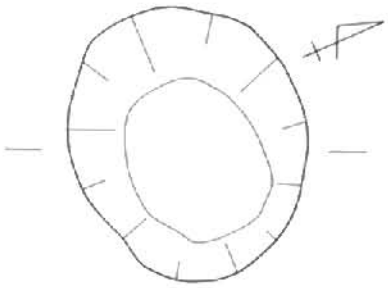


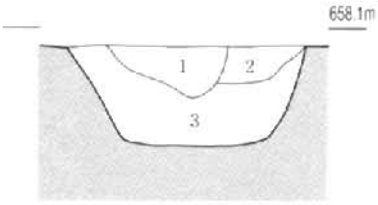


1　黒褐色　極細砂
2　黒色　細砂
3　黒褐色　極細砂

図版7　外野波豆遺跡　遺構図（3）

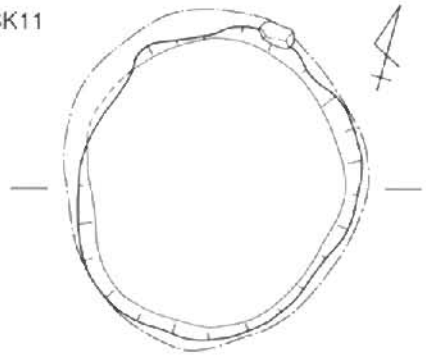
SK07

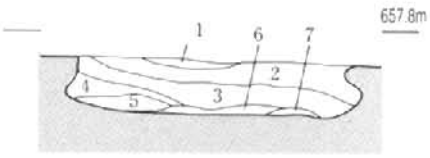




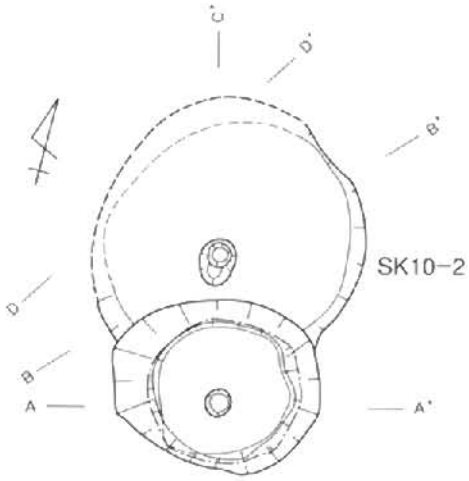
1　黒色　極細砂
2　黒褐色　極細砂
3　暗褐色　中礫まじり極細砂

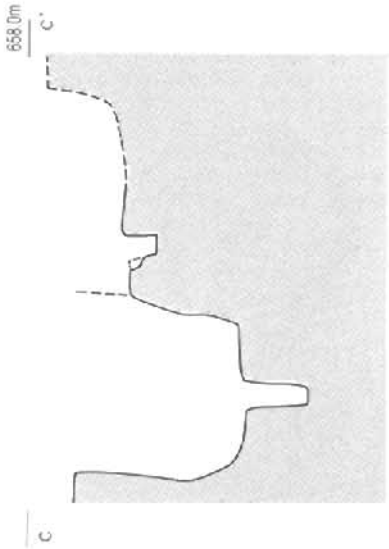
SK11

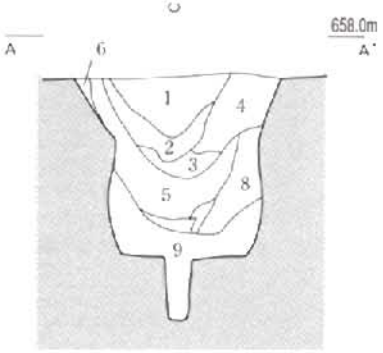


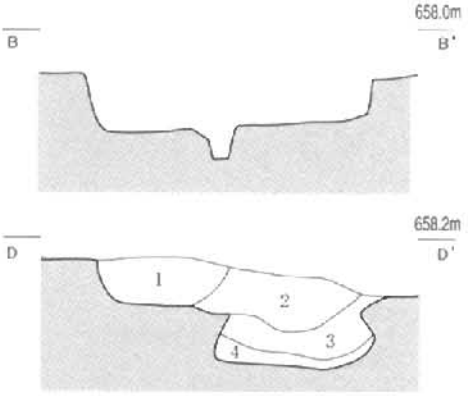


1　黒色　細砂
2　暗褐色　細砂
3　にぶい黄褐色　細礫まじり極細砂
4　黒褐色　中粒砂まじり極細砂　炭まじる
5　褐色　極細砂
6　暗褐色　極細砂
7　黒色　極細砂





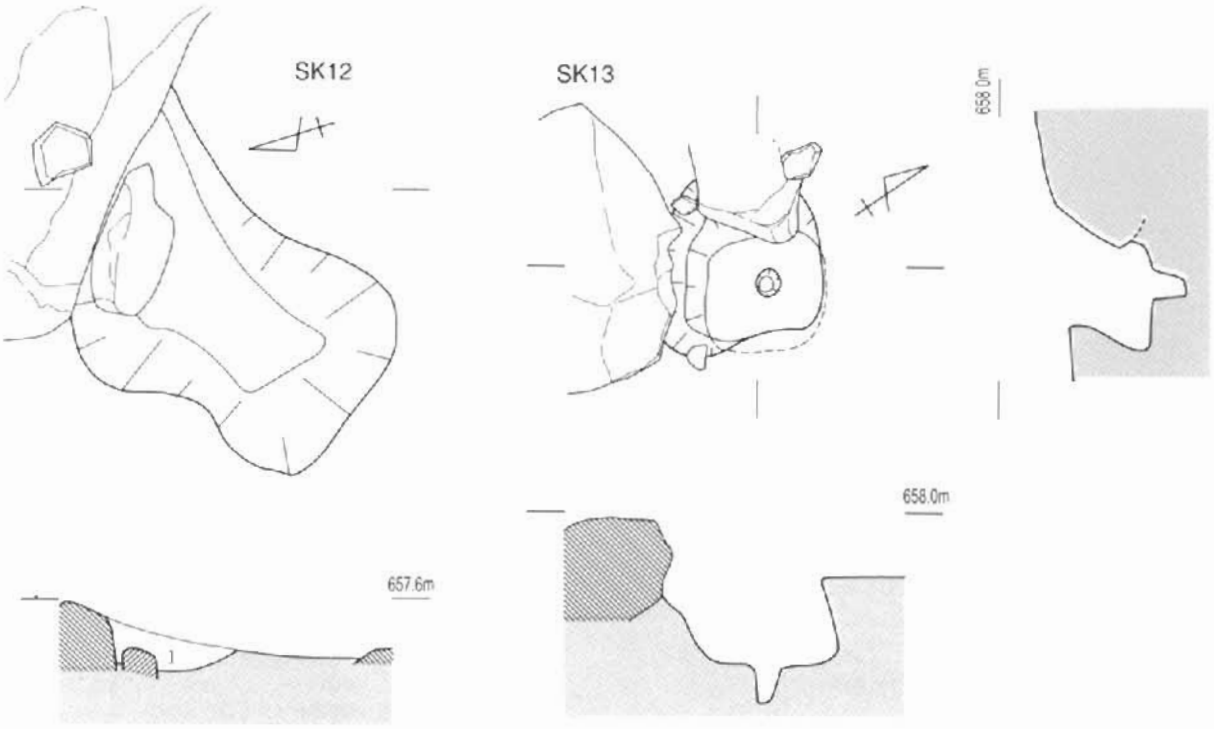




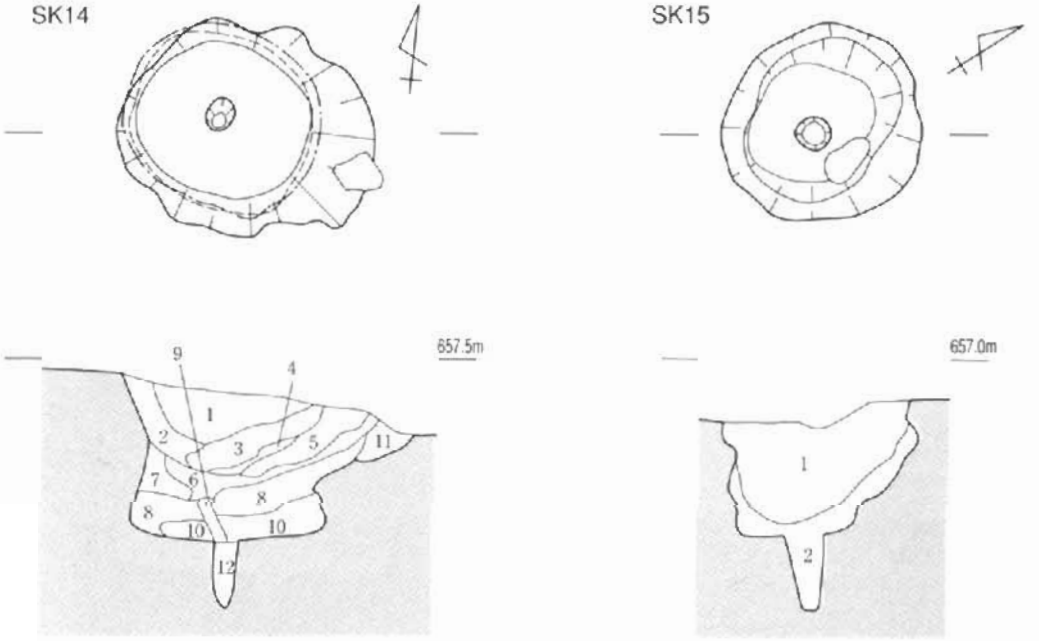
1　極細砂
2　黒色　シルト、粗砂まじり極細砂　炭まじる
3　黒色　極細砂
4　黒褐色　粗砂まじり極細砂　炭まじる
5　黒褐色　粗砂まじり極細砂　炭まじる
6　灰褐色　中礫まじり極細砂　炭まじる
7　明黄褐色　細砂まじり極細砂
8　黒褐色　中礫まじり極細砂
9　黒褐色　細砂、粗砂まじり極細砂　炭まじる

1　暗褐色　極細砂
2　黒色　極細砂
3　黒褐色　極細砂
4　黒褐色　極細砂

図版8　外野波豆遺跡　遺構図（4）



1　暗褐色　細砂　炭まじる



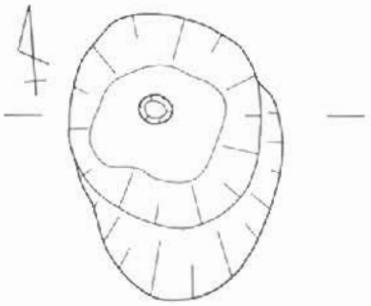
1　黒色　中礫まじり極細砂　炭まじる
2　褐色　極細砂　灰まじる
3　黄褐色　シルトまじり細砂
4　黒褐色　細砂
5　黄褐色　シルトまじり細砂
6　黒褐色　シルト、粗砂まじり極細砂
7　褐色　極細砂
8　黒色　粗砂まじり極細砂
9　黒色　シルト、粗砂まじり極細砂
10　黒色　シルト、粗砂まじり極細砂
11　褐色　粗砂まじり極細砂
12　黒色　細砂まじりシルト

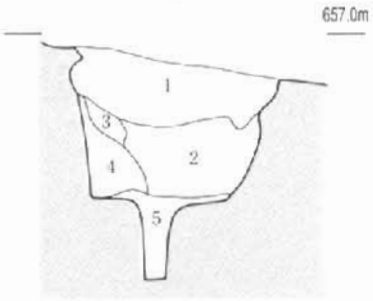
1　黒色　シルトまじり極細砂
2　黒色　シルト、粗砂まじり極細砂

0　2m

図版9　外野波豆遺跡　遺構図（5）

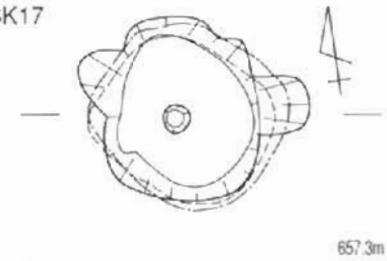
SK16

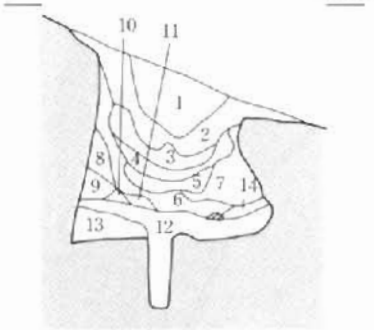




1　黒色　極細砂
2　黒褐色　中礫まじり極細砂
3　黒色　粗砂まじり極細砂
4　黒色　中礫まじり極細砂
5　黒色　シルトまじり極細砂

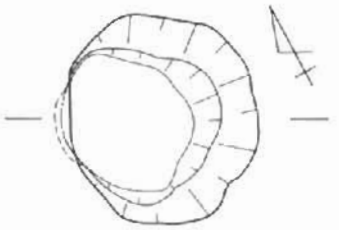
SK17

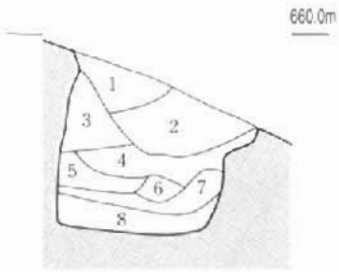




1　黒色　極細砂
2　黒色　極細砂
3　黒色　極細砂
4　黒色　極細砂
5　黒色　シルトまじり極細砂
6　黒褐色　粗砂まじり極細砂
7　黒褐色　粗砂まじり極細砂
8　明黄褐色　極細砂
9　明黄褐色　極細砂
10　黒褐色　粗砂まじり極細砂
11　黒色　シルトまじり極細砂
12　黒色　細砂シルトまじり極細砂
13　暗褐色　粗砂まじり極細砂
14　黒褐色　粗砂まじり極細砂

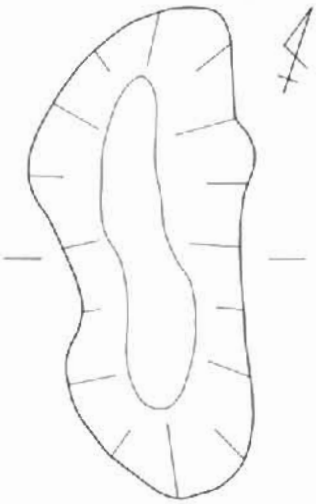
SK23

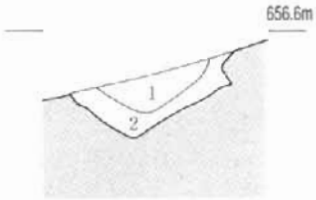




1　暗褐色　極細砂
2　黒色　細砂
3　褐色　細砂
4　黒褐色　極細砂　炭まじる
5　黒褐色　極細砂
6　褐色　極細砂
7　黒褐色　極細砂　炭まじる
8　にぶい黄橙シルトまじり極細砂

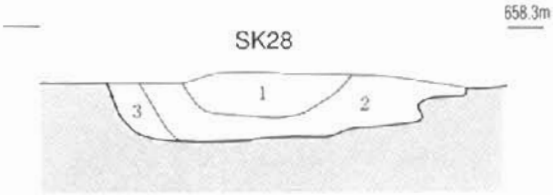
SK26





1　黒褐色　極細砂　炭まじる
2　にぶい黄橙色　中礫まじり極細砂

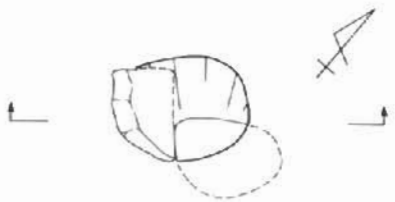
SK28

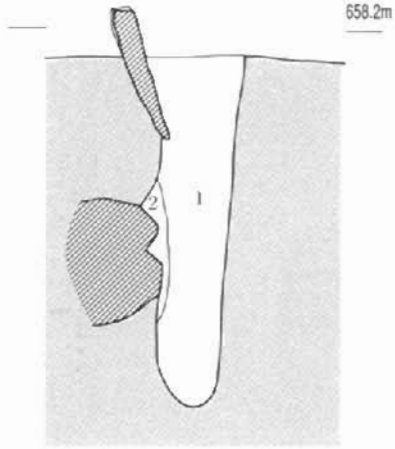


1　黒褐色　極細砂
2　暗褐色　極細砂
3　黒褐色　細砂

図版10　外野波豆遺跡　遺構図（6）

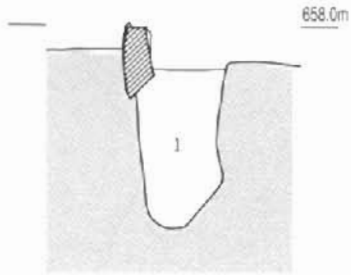
立石1





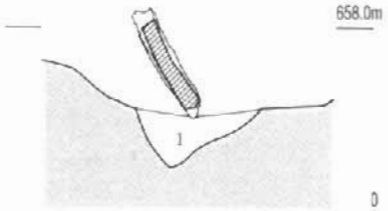
1　黒褐色　シルトまじり極細砂　炭少量まじる
2　褐色　　シルトまじり極細砂　炭少量まじる

立石2



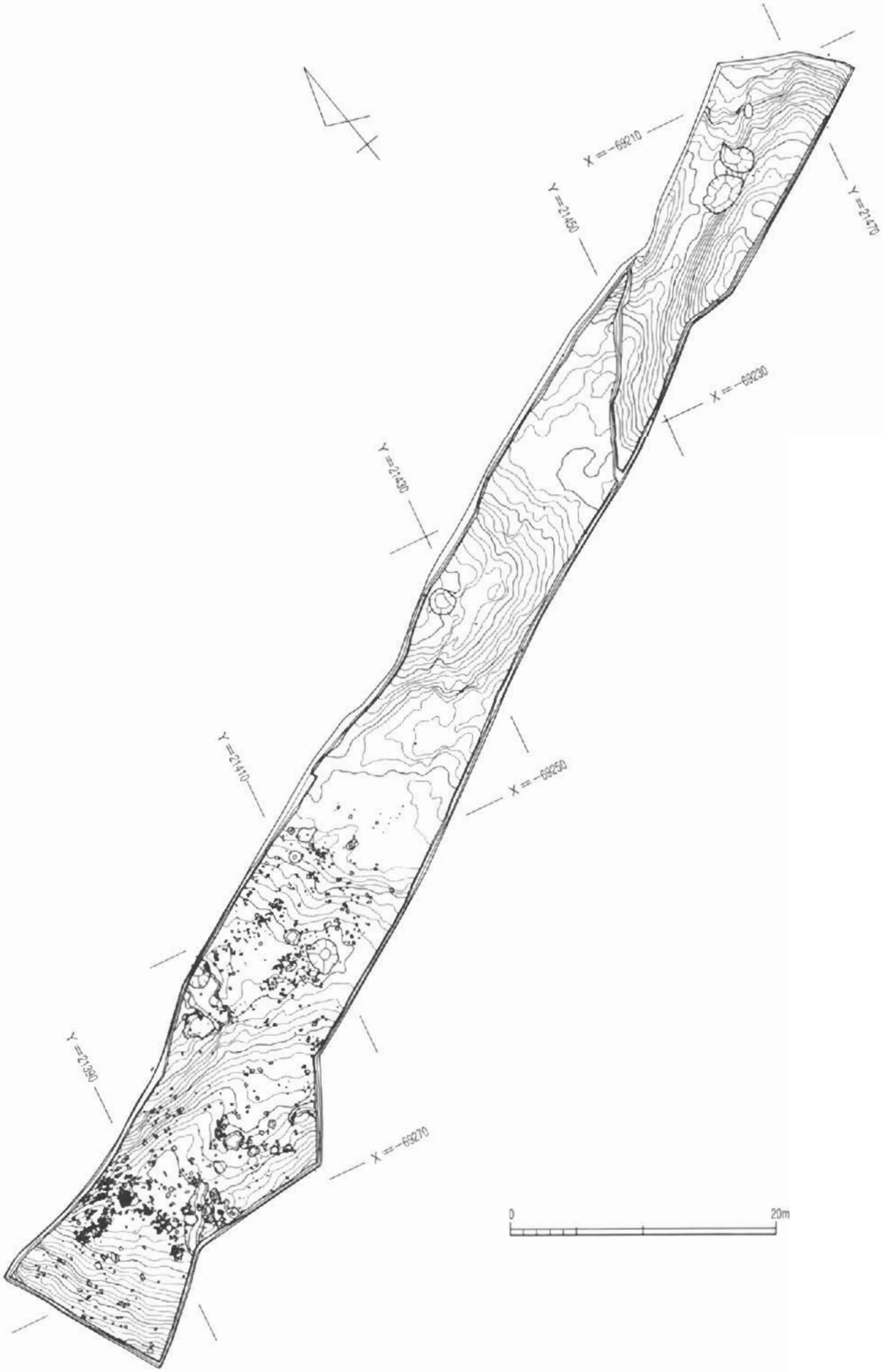
1　黒褐色　粗砂まじりシルト質極細砂

立石3

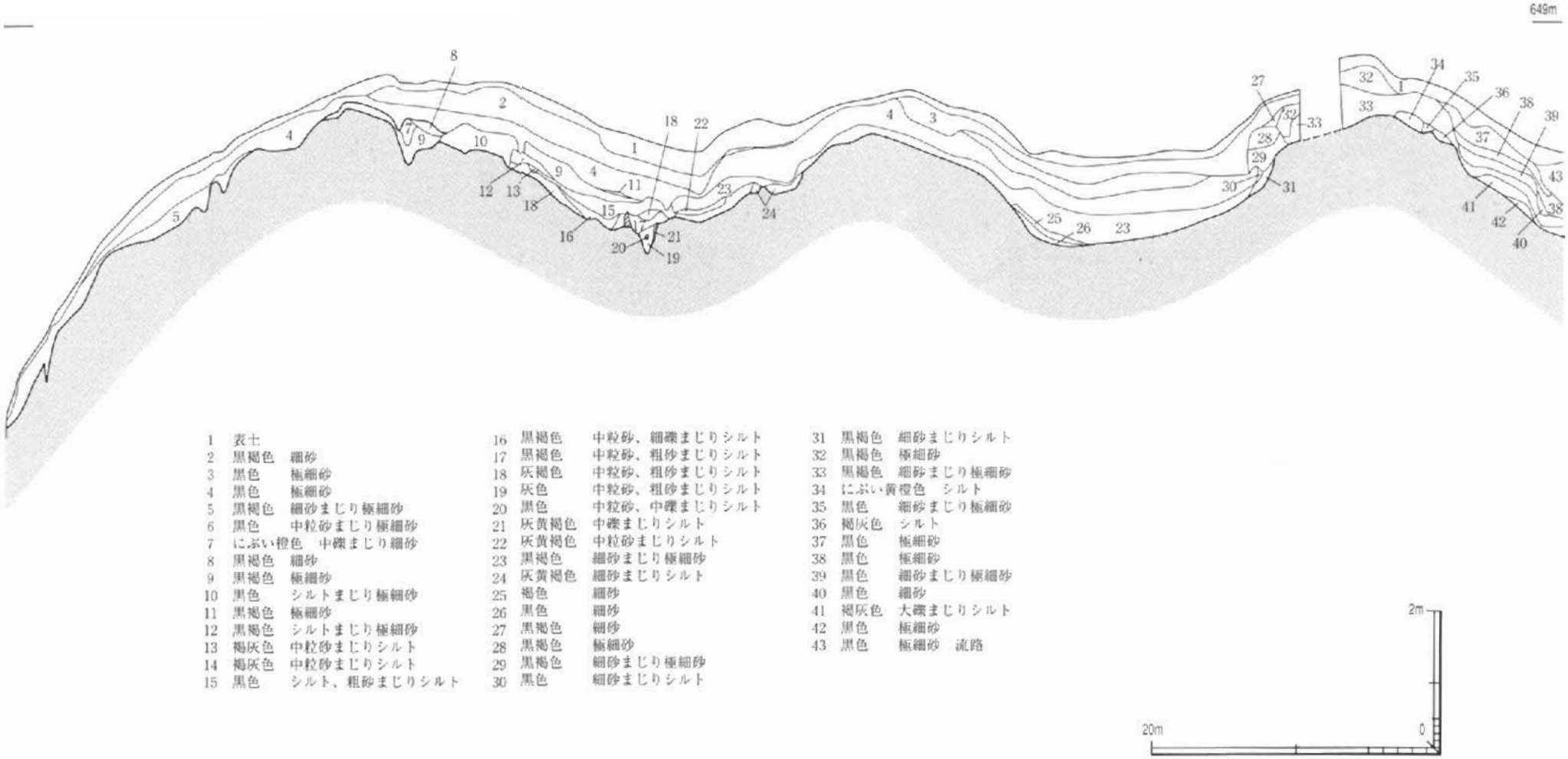


1　黒褐色　シルト質極細砂

図版11　外野柳遺跡　全体図

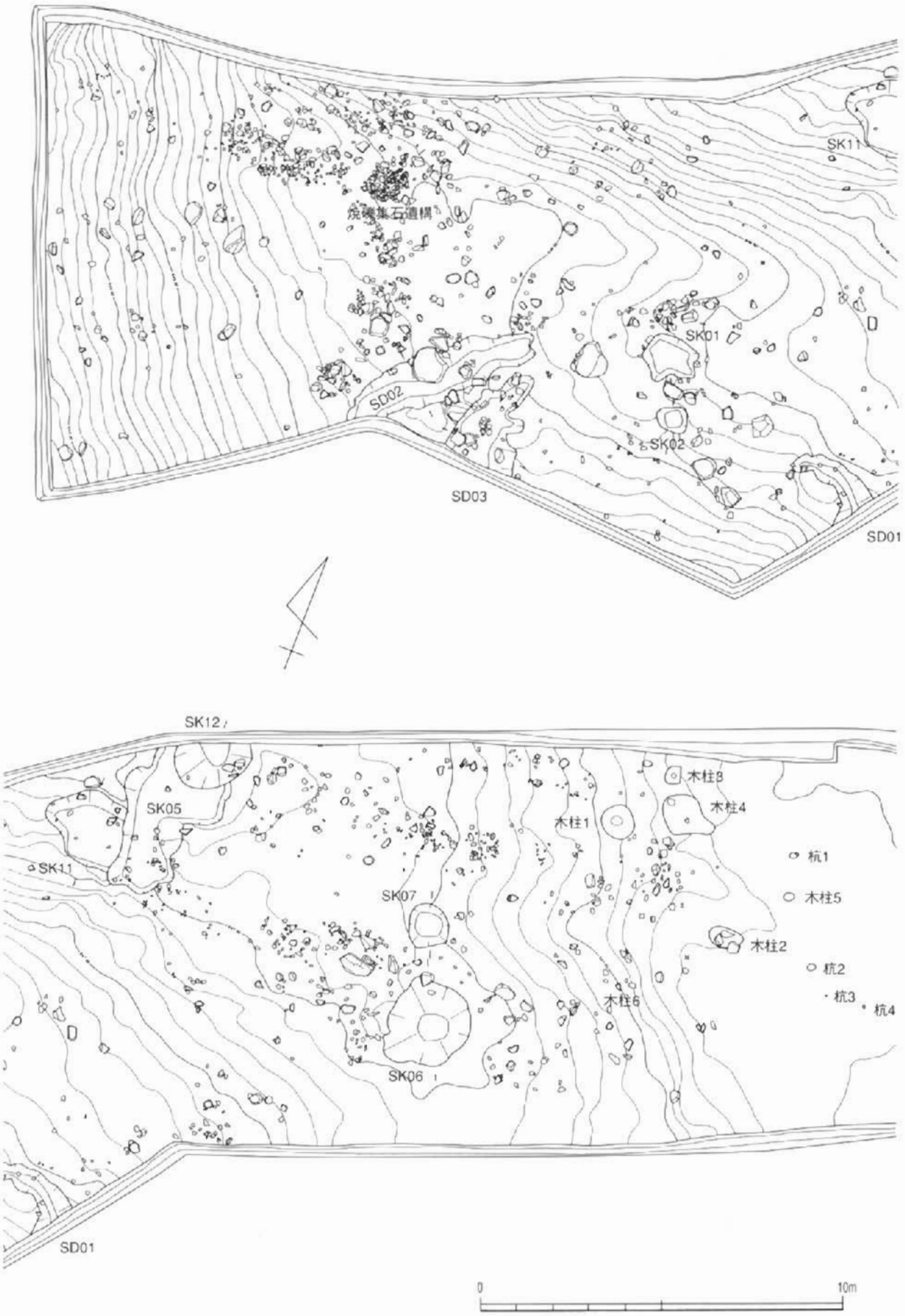


図版12 外野柳遺跡 調査区北壁土層断面図



1 表土
2 黒褐色 細砂
3 黒色 極細砂
4 黒色 極細砂
5 黒褐色 細砂まじり極細砂
6 黒色 中粒砂まじり極細砂
7 にぶい橙色 中礫まじり細砂
8 黒褐色 細砂
9 黒褐色 極細砂
10 黒色 シルトまじり極細砂
11 黒褐色 極細砂
12 黒褐色 シルトまじり極細砂
13 褐灰色 中粒砂まじりシルト
14 褐灰色 中粒砂まじりシルト
15 黒色 シルト、粗砂まじりシルト
16 黒褐色 中粒砂、細礫まじりシルト
17 黒褐色 中粒砂、粗砂まじりシルト
18 灰褐色 中粒砂、粗砂まじりシルト
19 灰色 中粒砂、粗砂まじりシルト
20 黒色 中粒砂、中礫まじりシルト
21 灰黄褐色 中礫まじりシルト
22 灰黄褐色 中粒砂まじりシルト
23 黒褐色 細砂まじり極細砂
24 灰黄褐色 細砂まじりシルト
25 褐色 細砂
26 黒色 細砂
27 黒褐色 細砂
28 黒褐色 極細砂
29 黒褐色 細砂まじり極細砂
30 黒色 細砂まじりシルト
31 黒褐色 細砂まじりシルト
32 黒褐色 極細砂
33 黒褐色 細砂まじり極細砂
34 にぶい黄橙色 シルト
35 黒色 細砂まじり極細砂
36 褐灰色 シルト
37 黒色 極細砂
38 黒色 極細砂
39 黒色 細砂まじり極細砂
40 黒色 細砂
41 褐灰色 大礫まじりシルト
42 黒色 極細砂
43 黒色 極細砂 流路

図版13　外野柳遺跡　遺構配置図（1）　調査区西部・中央部



図版14　外野柳遺跡　遺構断面図

646.7m

SK01

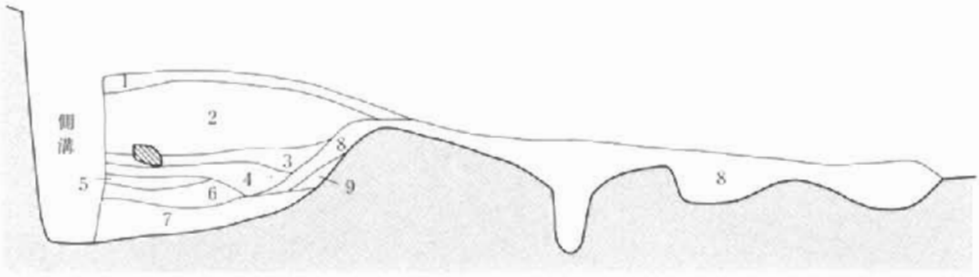
1　黒色　極細砂

646.5m

SK02

1　黒褐色　極細砂

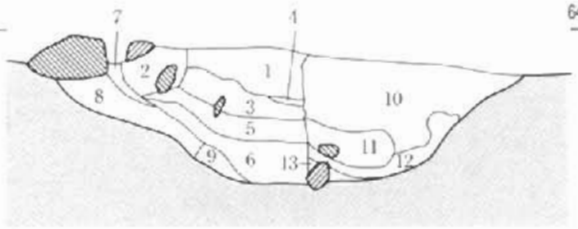
648.7m



SK05

1　黒色　極細砂
2　褐色　シルトまじり極細砂
3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂
4　にぶい黄褐色　シルト質極細砂
5　黒褐色　シルトまじり細砂
6　黄褐色　礫まじりシルト質細砂
7　黒色　細砂まじりシルト
8　黒色　細砂
9　にぶい黄褐色　細砂まじりシルト

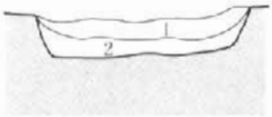
648.8m



SK06

1　にぶい黄橙色　中礫まじり細砂
2　灰黄褐色　中礫まじり細砂
3　にぶい黄橙色　シルトまじり細砂
4　黒褐色　シルトまじり細砂
5　灰黄褐色　中粒砂まじり細砂
6　にぶい黄橙色　シルト質細砂
7　黒褐色　シルトまじり極細砂
8　黒褐色　シルトまじり極細砂
9　灰黄褐色　中粒砂まじりシルト質極細砂
10　黒色　極細砂
11　灰黄褐色　大礫まじりシルト質極細砂
12　褐灰色　シルト質細砂
13　にぶい黄褐色　極細砂

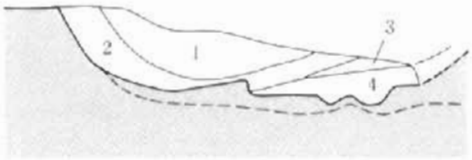
647.7m



SK07

1　黒色　シルト質細砂
2　黒色　粗砂砂まじりシルト質細砂

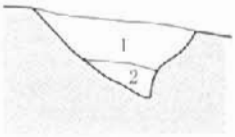
648.3m



SK11

1　明黄褐色　中礫まじり細砂
2　黒褐色　シルトまじり細砂
3　にぶい黄褐色　細砂
4　黒褐色　粗砂まじり細砂

646.7m



SD01

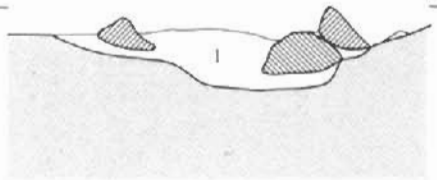
1　黒色　細砂
2　明黄褐色　シルトまじり極細砂

648.2m

SD02

1　黒褐色　粗砂砂まじりシルト質極細砂

646.0m

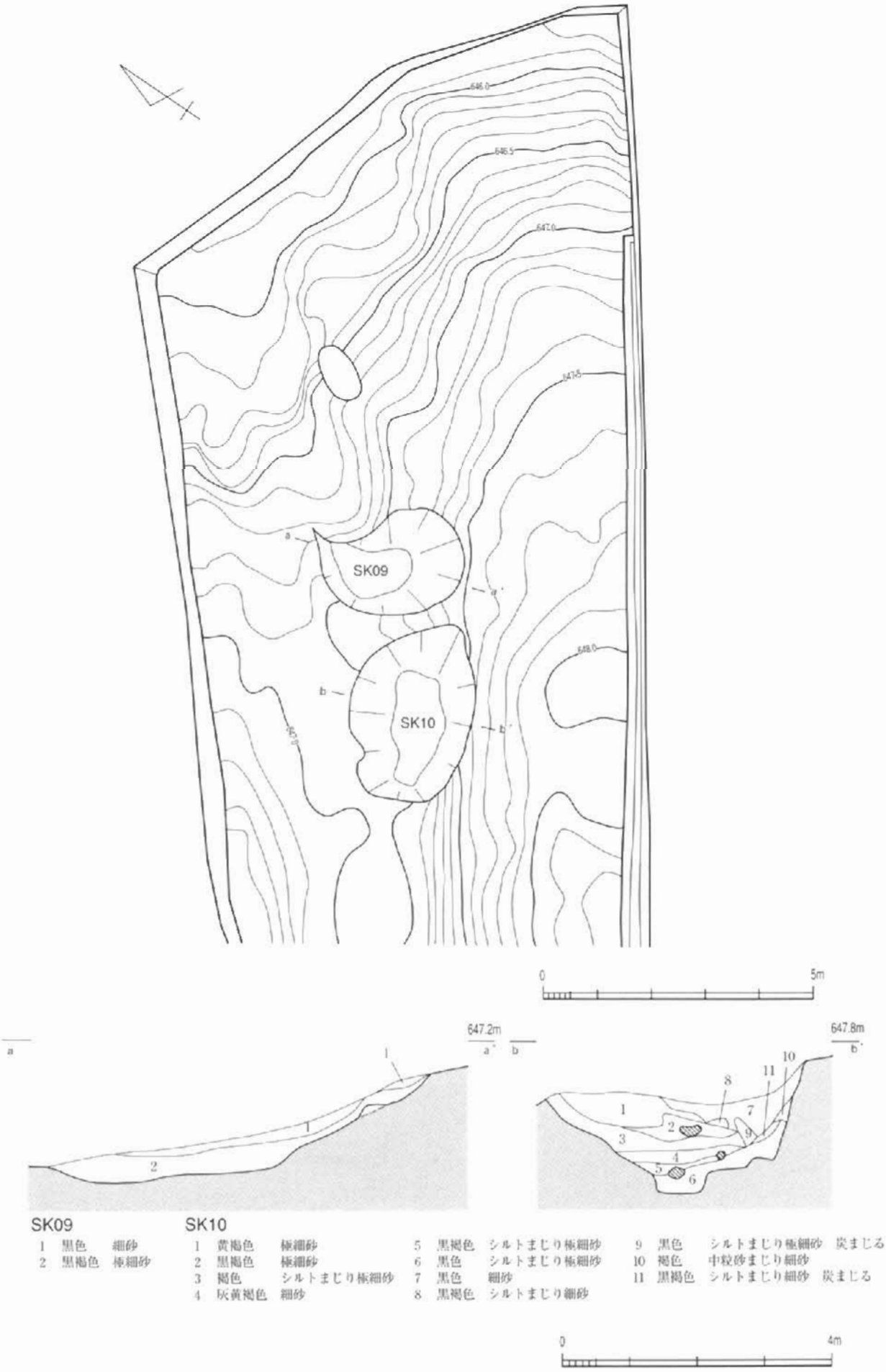


SD03

1　黒色　細砂

0　2m

図版15　外野柳遺跡　遺構配置図（2）　調査区東部



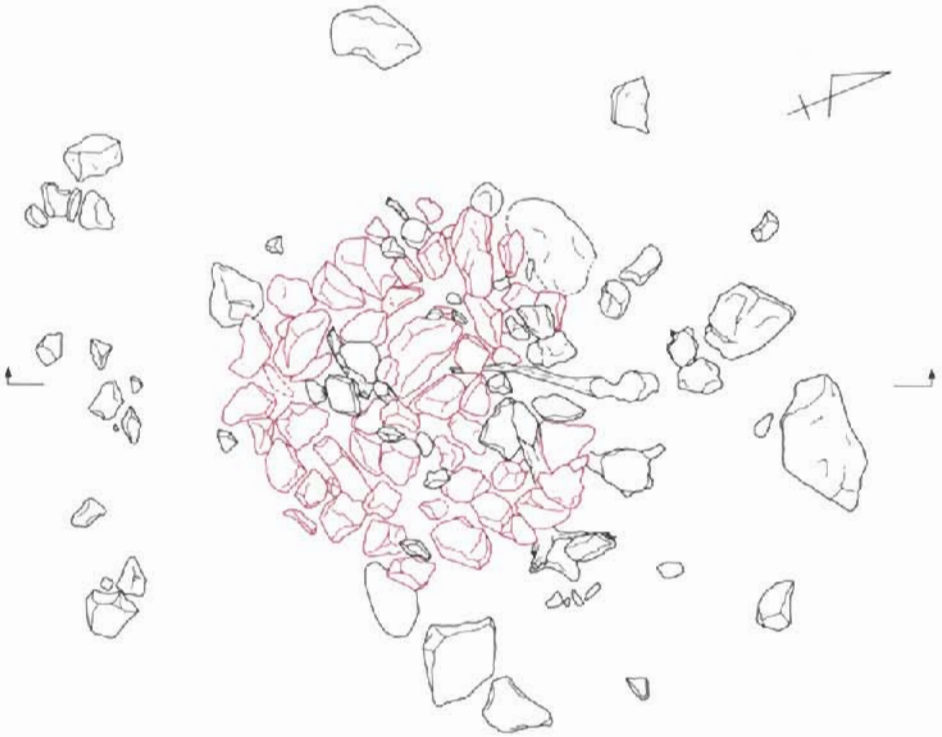
SK09

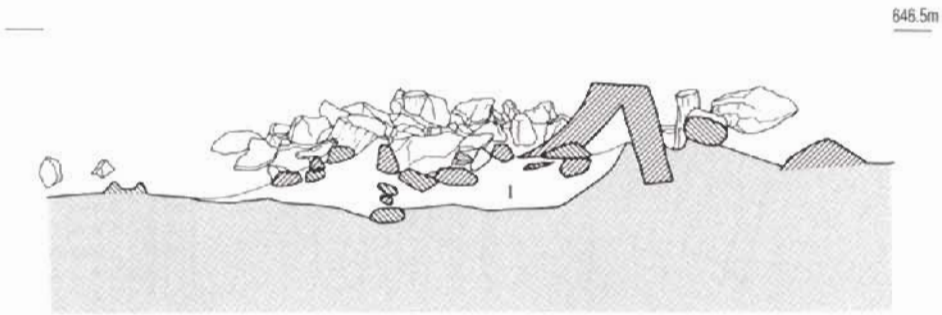
1　黒色　細砂
2　黒褐色　極細砂

SK10

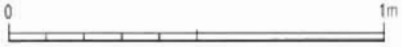
1　黄褐色　極細砂
2　黒褐色　極細砂
3　褐色　シルトまじり極細砂
4　灰黄褐色　細砂
5　黒褐色　シルトまじり極細砂
6　黒色　シルトまじり極細砂
7　黒色　細砂
8　黒褐色　シルトまじり細砂
9　黒色　シルトまじり極細砂　炭まじる
10　褐色　中粒砂まじり細砂
11　黒褐色　シルトまじり細砂　炭まじる

図版16　外野柳遺跡　遺構図（1）　焼礫集石遺構

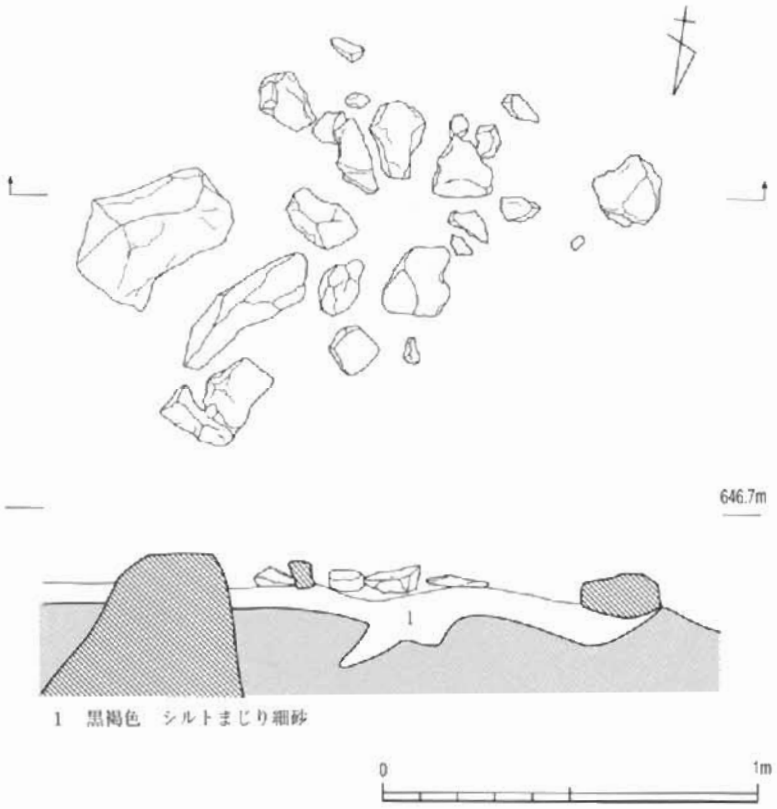




1　黒色　極細砂



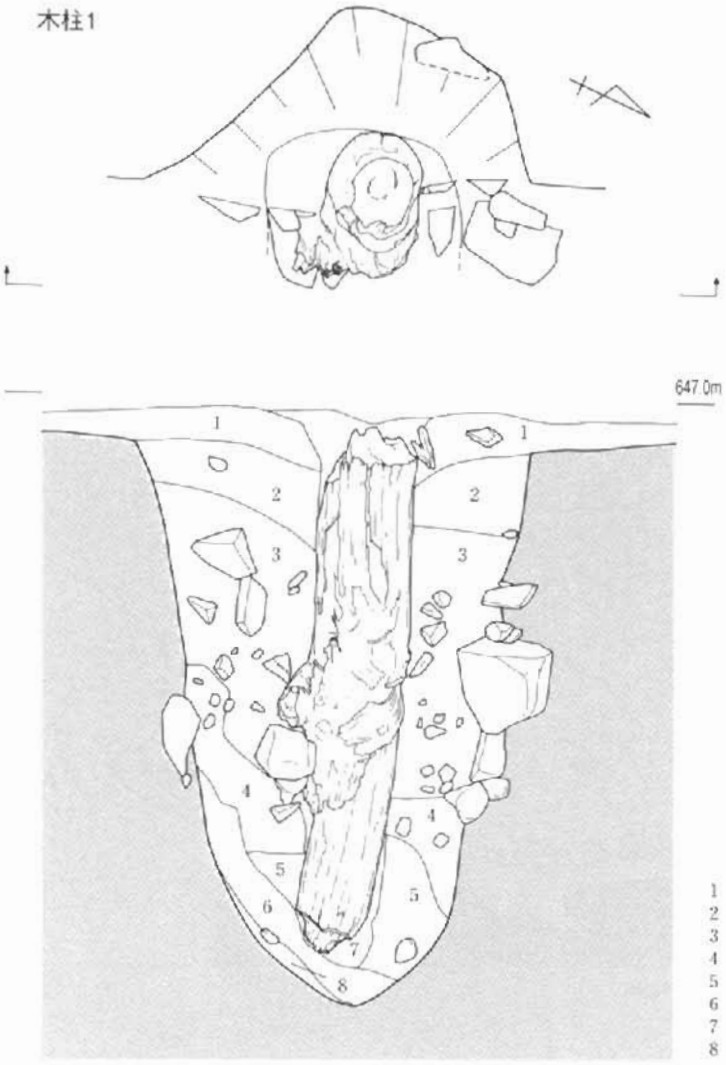
図版17　外野柳遺跡　遺構図（2）　配石遺構



1　黒褐色　シルトまじり細砂

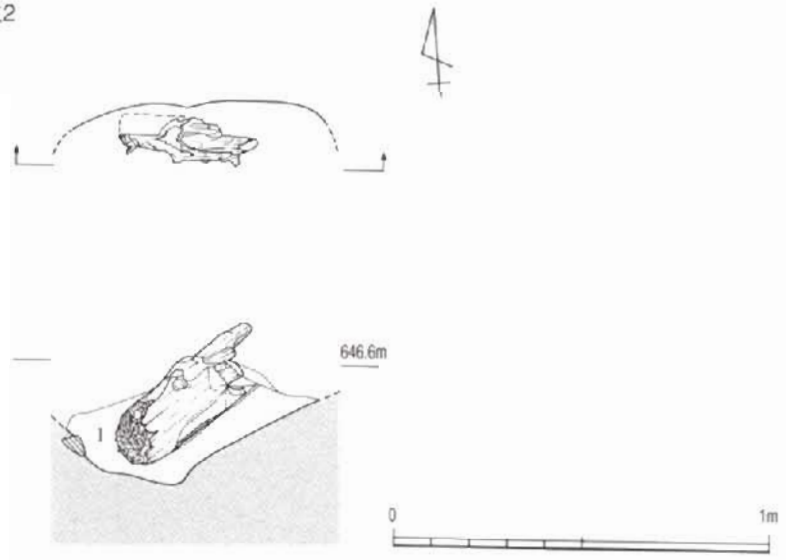
図版18　外野柳遺跡　遺構図（3）

木柱1



1　灰褐色　シルト
2　にぶい黄褐色　シルト
3　暗灰黄色　中粒砂まじりシルト
4　黒褐色　粗砂、中粒砂まじりシルト
5　褐色　シルト
6　灰褐色　シルト質粗砂
7　灰黄褐色　シルト
8　褐色　極細砂まじりシルト

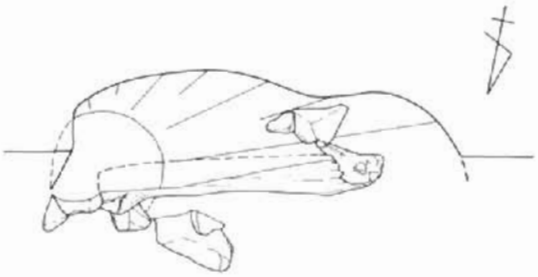
木柱2



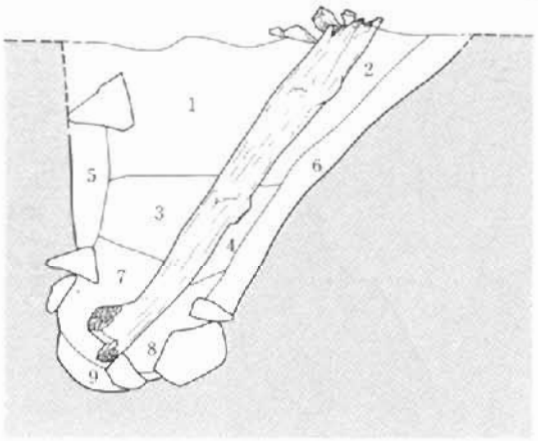
1　灰黄褐色　シルト

図版19　外野柳遺跡　遺構図（4）

木柱3

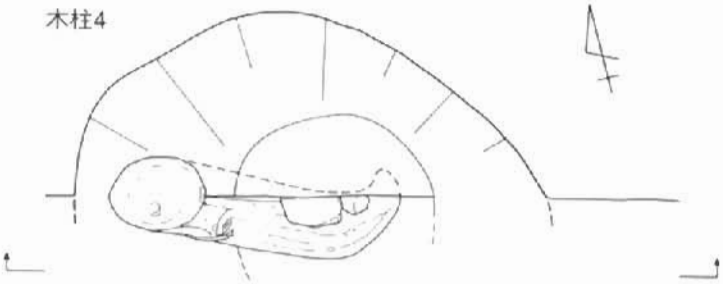


646.7m

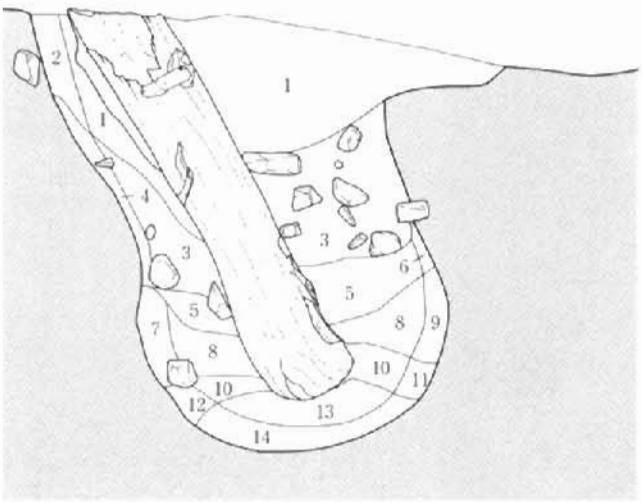


1	にぶい黄褐色	粗砂、礫まじりシルト
2	オリーブ灰色	中粒砂、礫まじりシルト
3	青灰色	中粒砂まじりシルト
4	灰色	中粒砂まじりシルト
5	明黄褐色	中粒砂まじりシルト
6	明黄褐色	細砂まじりシルト
7	灰色	粗砂まじりシルト
8	青灰色	粗砂まじりシルト
9	にぶい黄褐色	粗砂、中粒砂まじりシルト

木柱4



646.5m

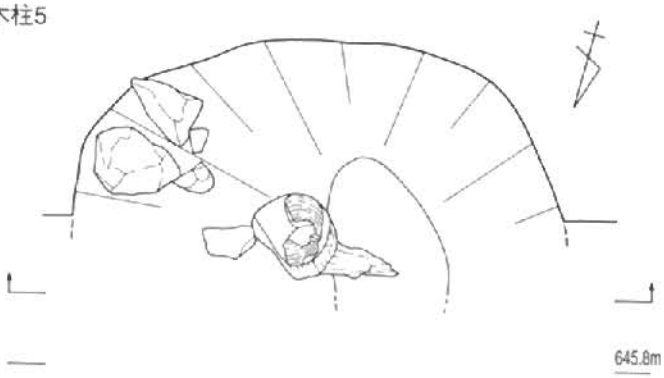


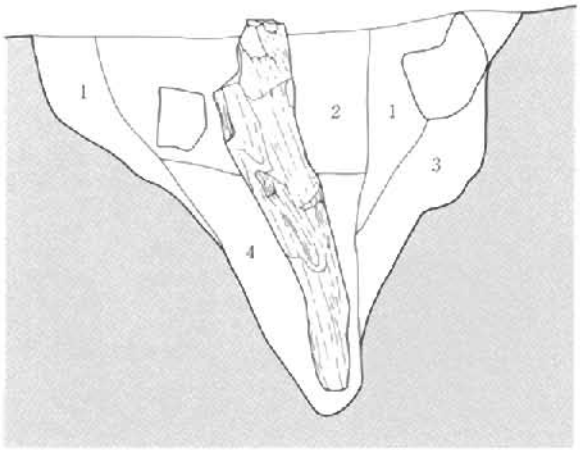
1	褐灰色	細砂まじりシルト
2	明黄褐色	細砂まじりシルト
3	青灰色	粗砂まじりシルト
4	黄褐色	シルトまじり粗砂
5	灰色	細砂質シルト
6	にぶい黄色	細砂質シルト
7	黄褐色	シルト質細砂
8	黄灰色	シルト質細砂
9	明黄褐色	シルトまじり細砂
10	黄灰色	細砂まじりシルト
11	明黄褐色	細砂まじりシルト
12	黄褐色	細砂まじりシルト
13	明青灰色	シルトまじり粗砂
14	黄灰色	シルトまじり粗砂

0　1m

図版20　外野柳遺跡　遺構図(5)

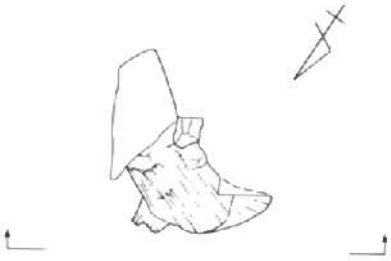
木柱5

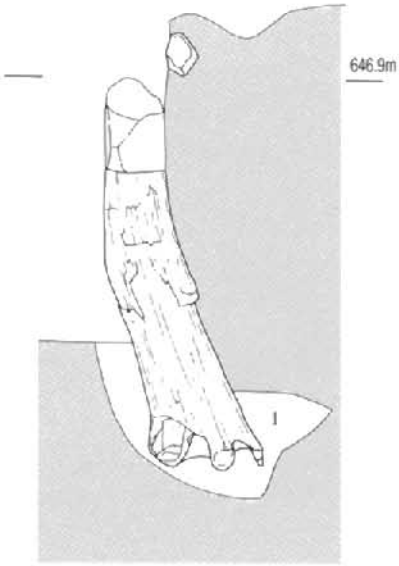




1　明黄褐色　細砂まじりシルト
2　明青灰色　中粒砂まじりシルト
3　明黄褐色　細砂まじりシルト
4　明青灰色　細砂まじりシルト

木柱6

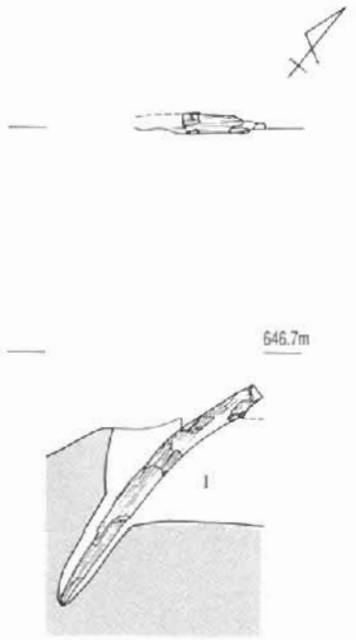




1　にぶい黄橙色　シルト
2　にぶい黄橙色　シルト
3　灰黄褐色　中粒砂まじりシルト
4　灰黄褐色　シルト
5　暗灰黄色　細砂まじりシルト
6　黒褐色　シルトまじり粗砂

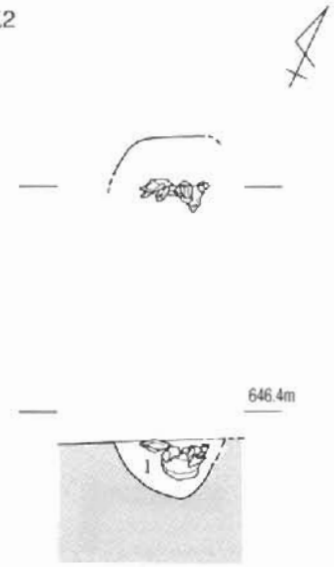
図版21 外野柳遺跡 遺構図(6)

杭1



1　明オリーブ灰色　細砂まじりシルト

杭2

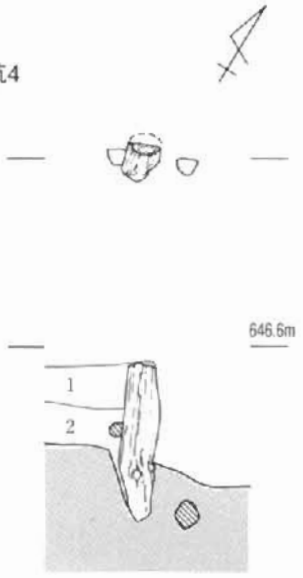


1　黒色　極細砂まじりシルト

杭3

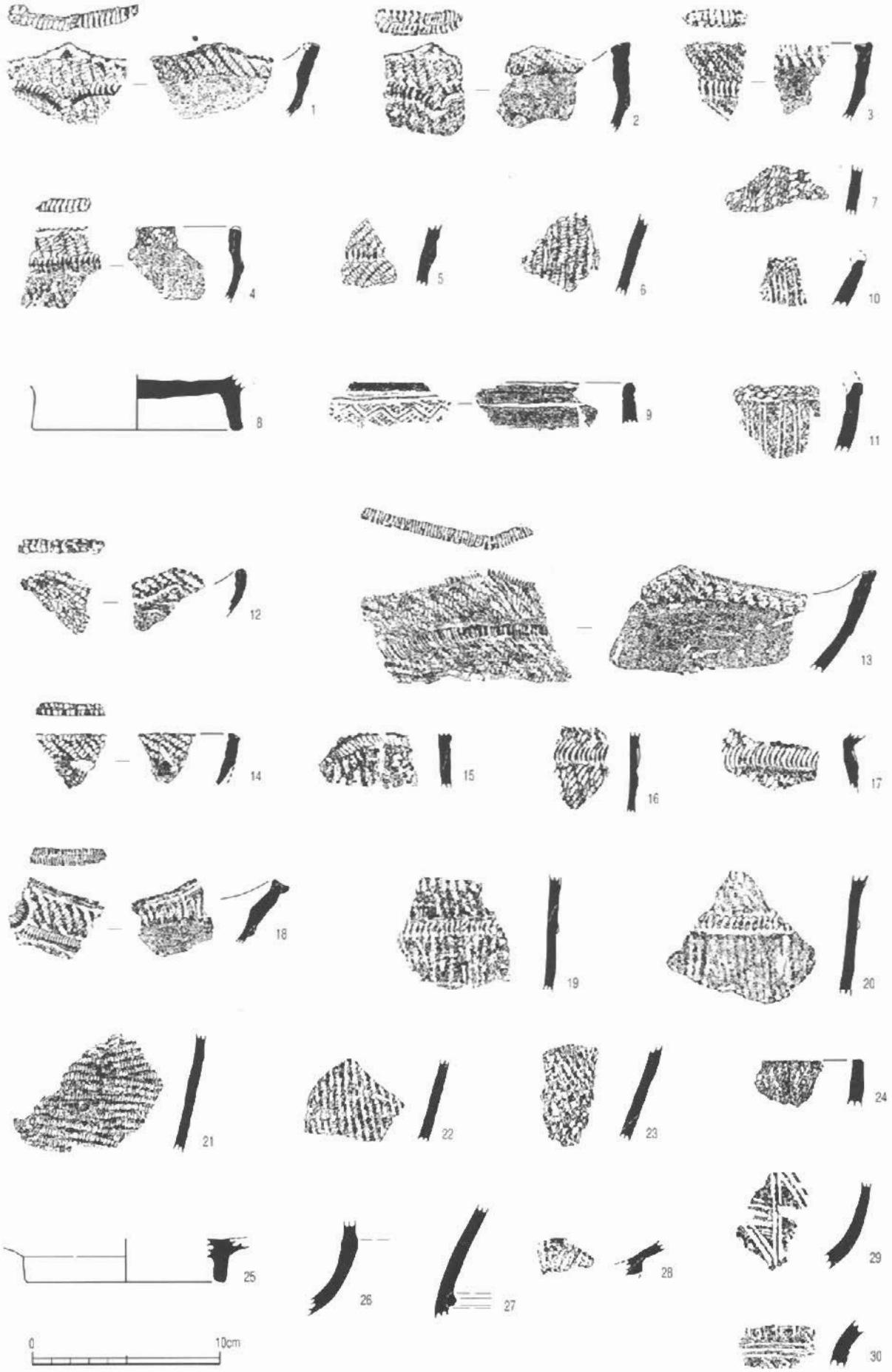
1　青灰色　中粒砂まじりシルト　地山
2　明黄褐色　中粒砂まじりシルト　地山

杭4



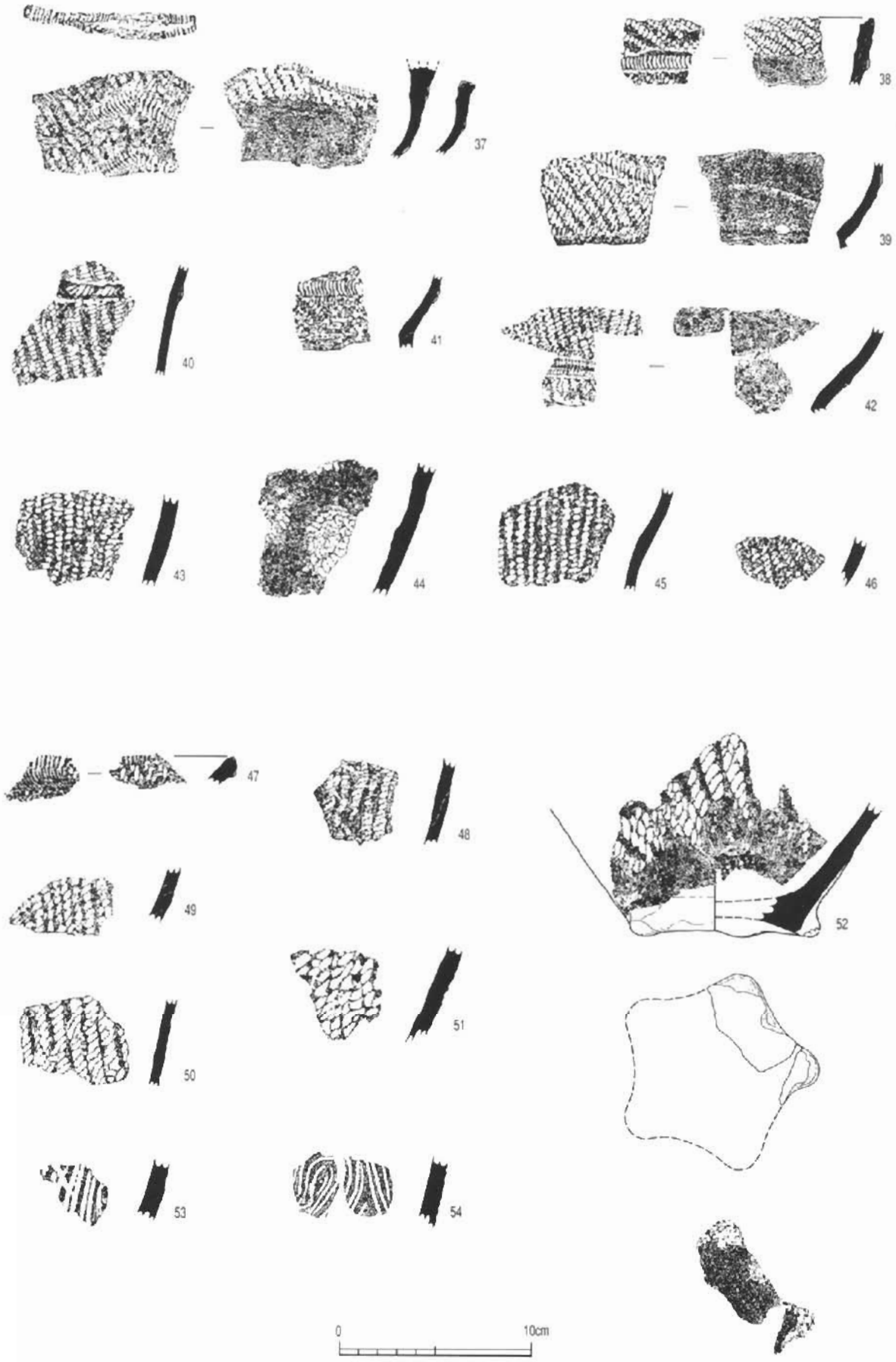
1　黒色　中粒砂まじりシルト
2　明緑灰色　細砂まじりシルト

図版22　外野波豆遺跡　出土土器（1）

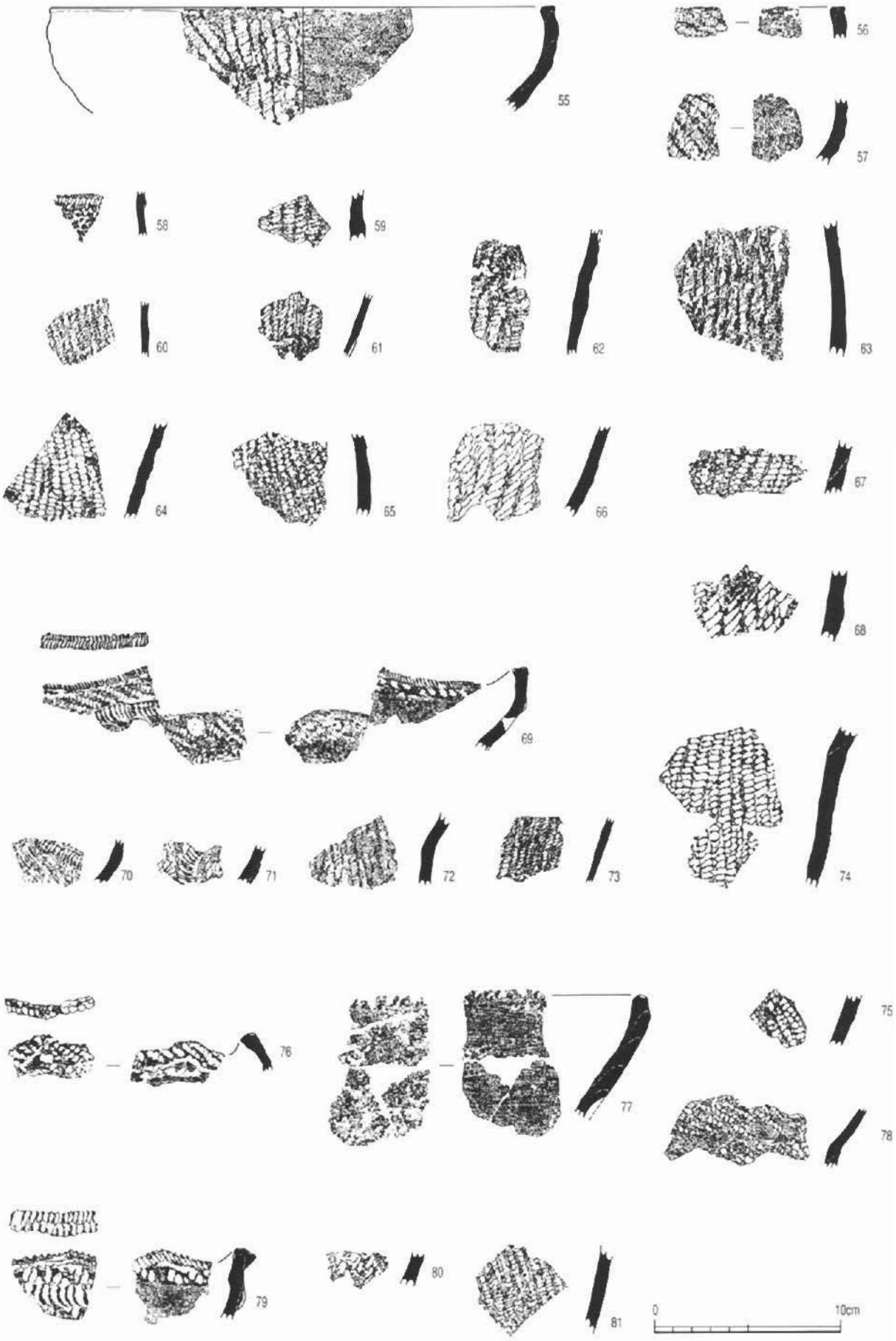


図版23　外野波豆遺跡　出土土器（2）

図版24　外野波豆遺跡　出土土器（3）

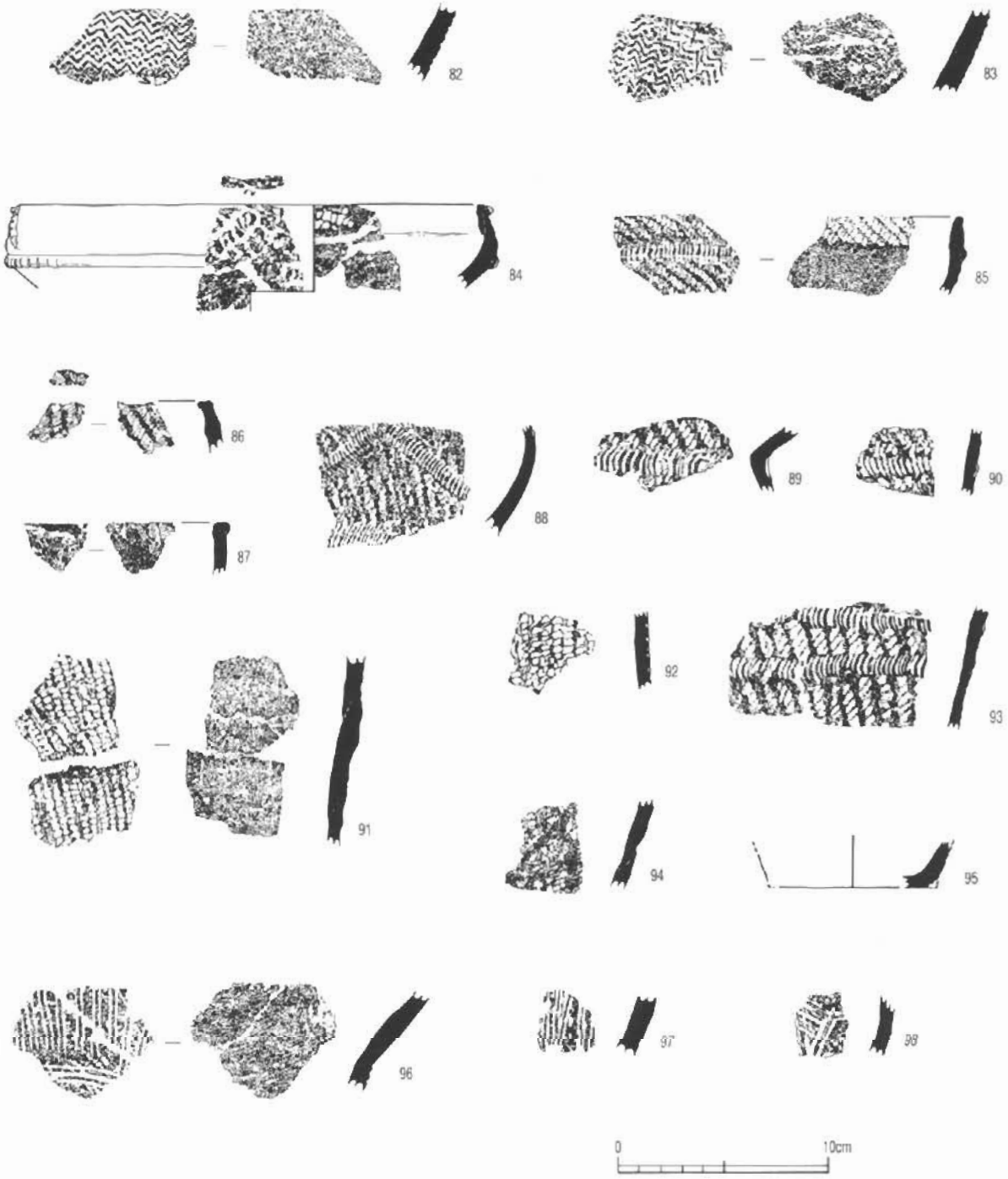


図版25　外野波豆遺跡　出土土器（4）

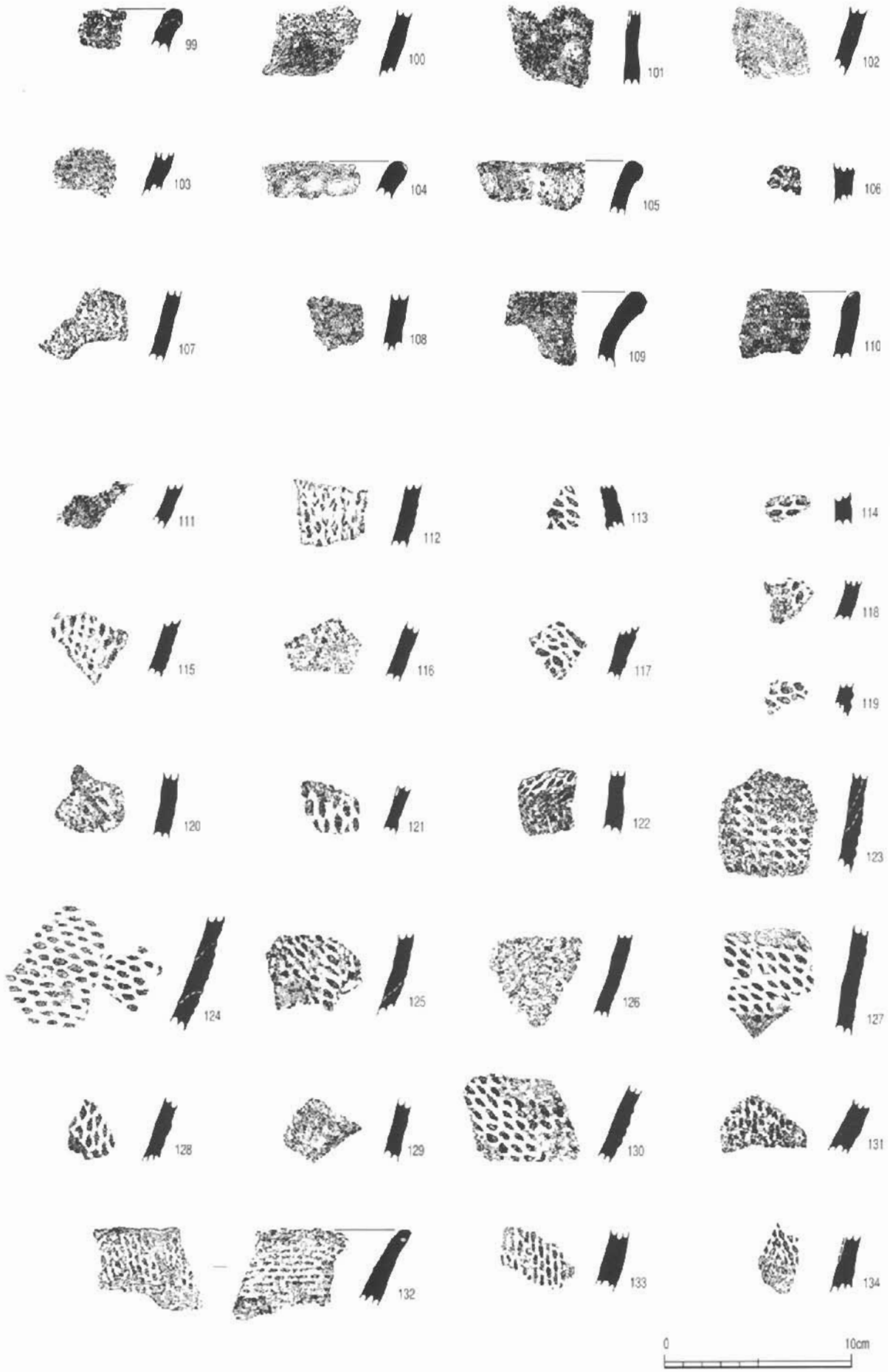


図版26

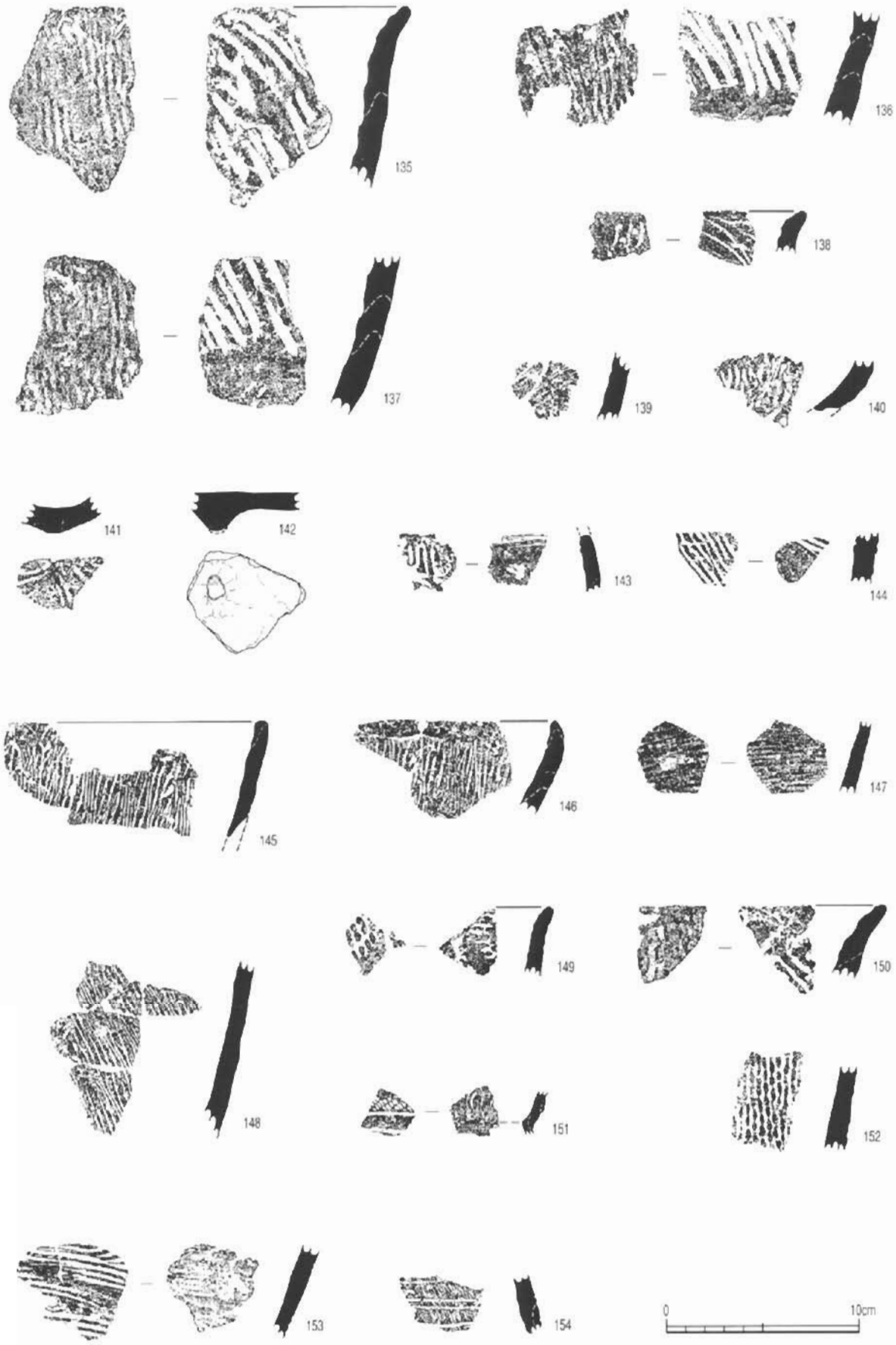
外野波豆遺跡　出土土器（5）



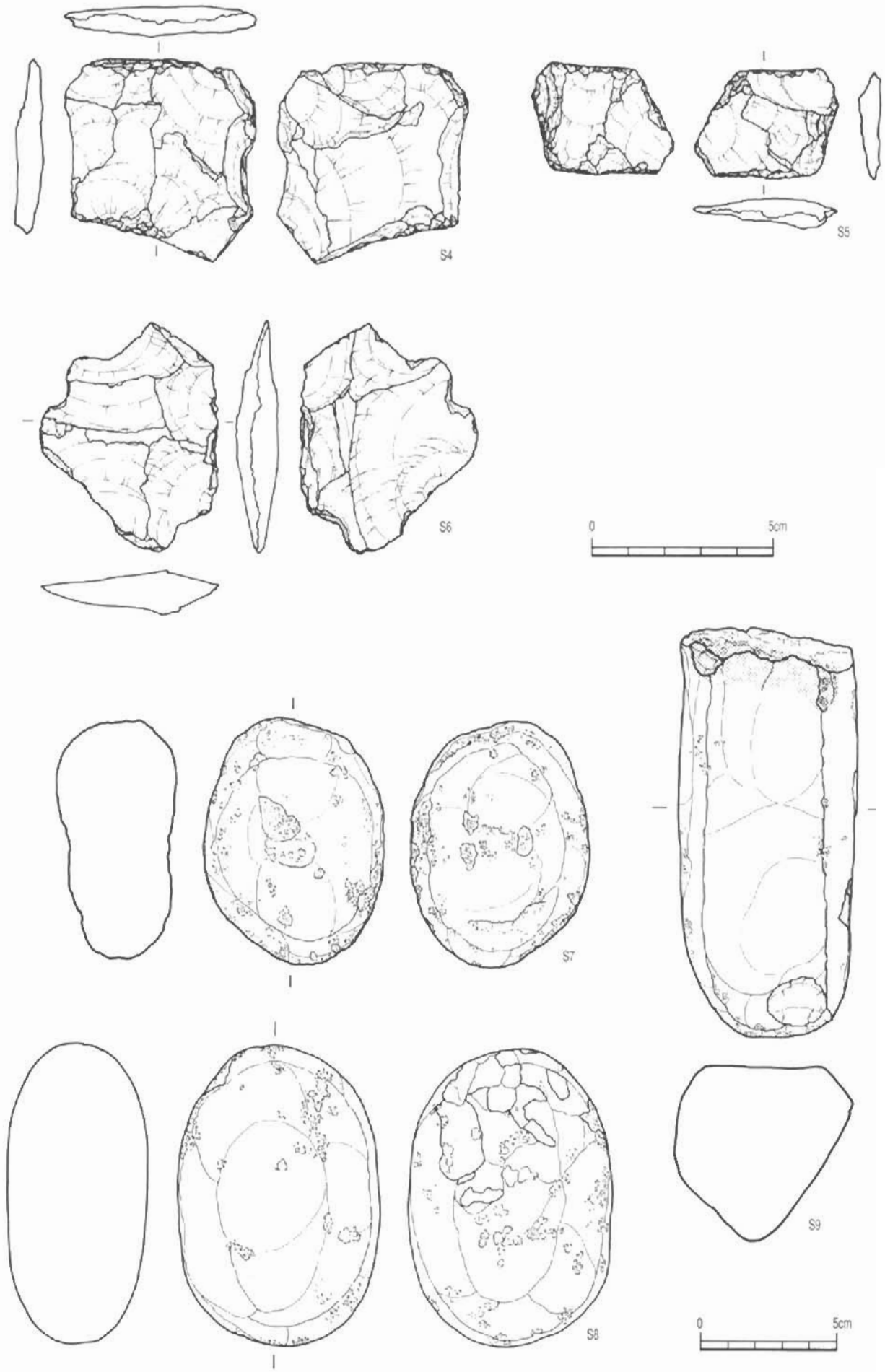
図版27　外野柳遺跡　出土土器（1）



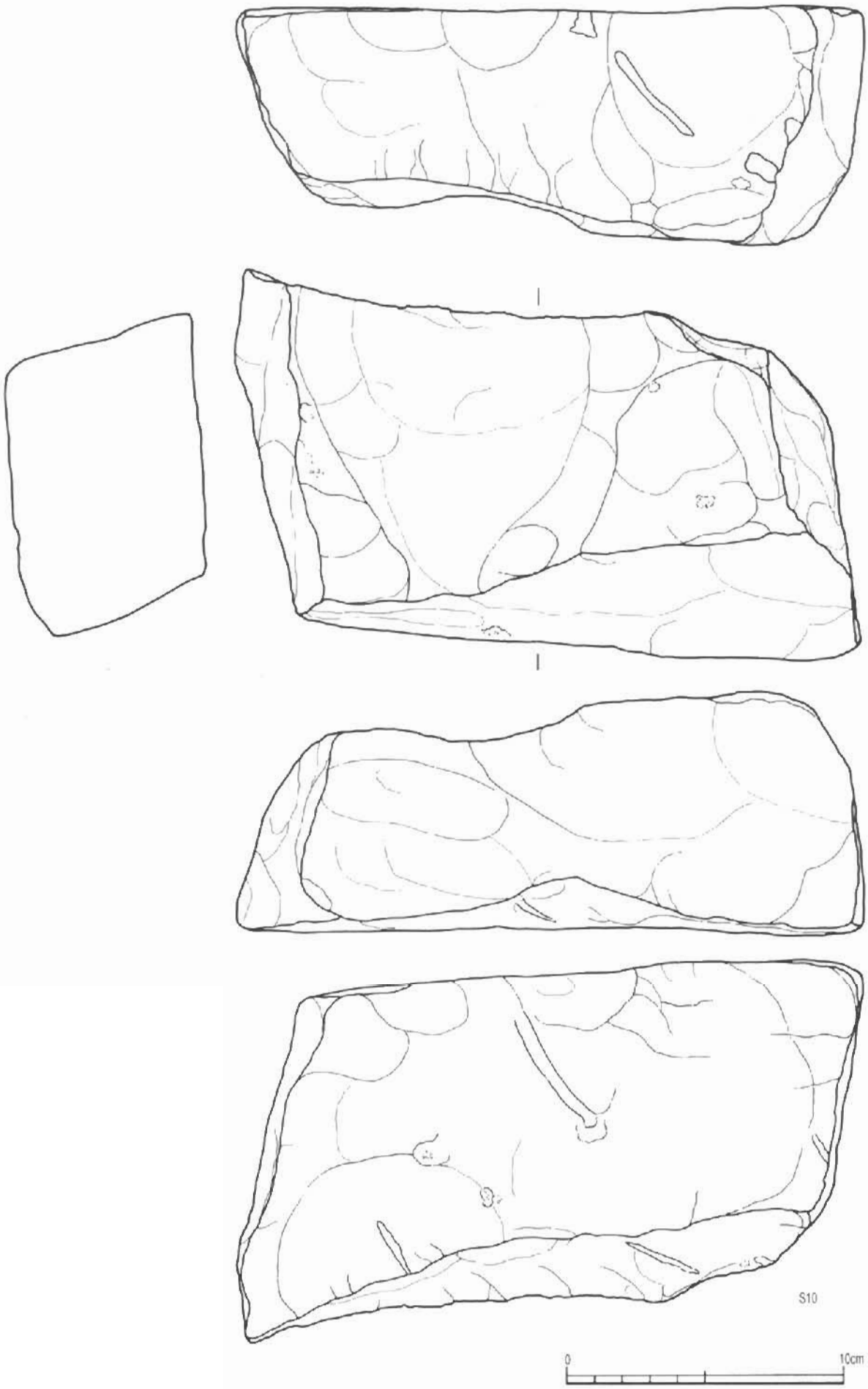
図版28　外野柳遺跡　出土土器（2）



図版29　外野柳遺跡　出土石器（1）



図版30　外野柳遺跡　出土石器（2）



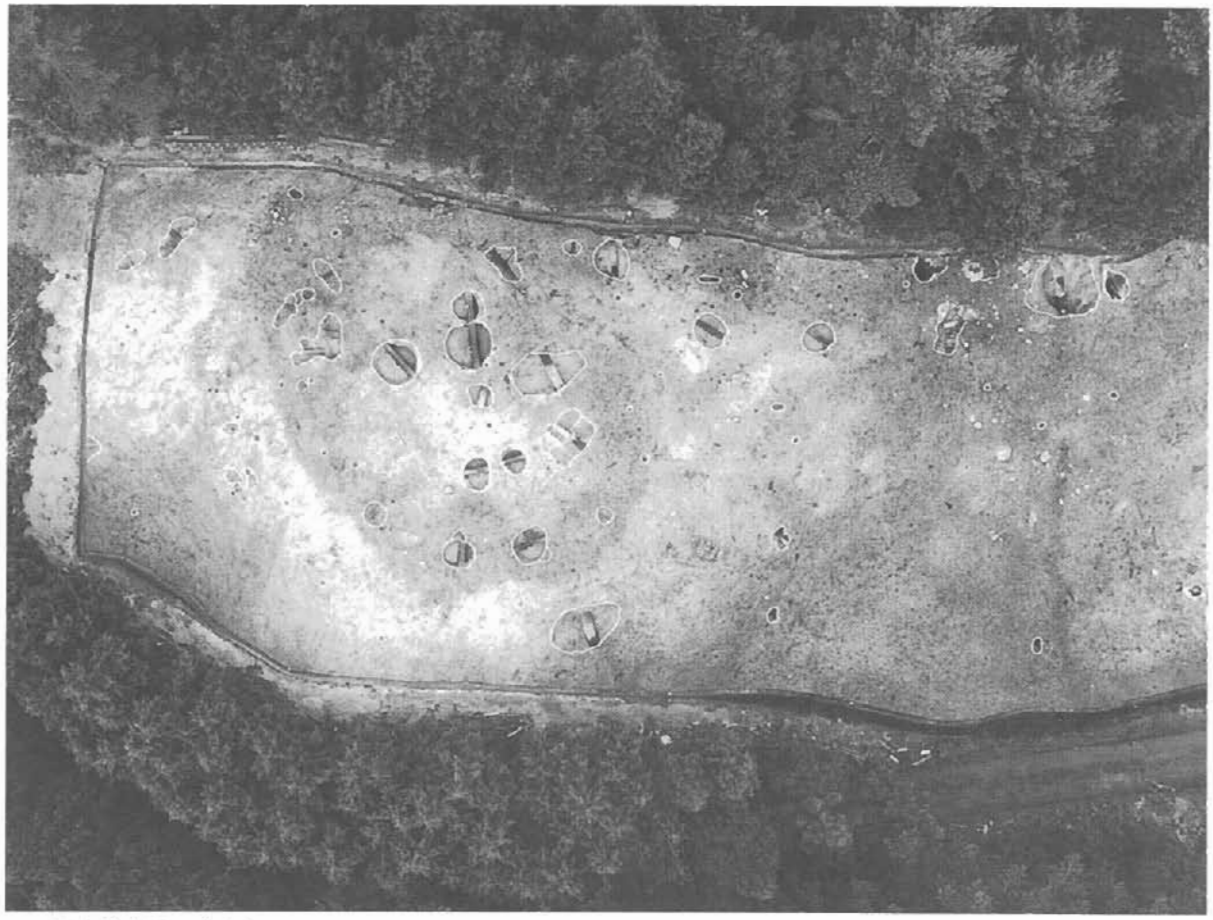
写真図版1　外野波豆遺跡　遠景・調査前全景

1．遠景（轟の集落付近から）

2．調査前全景（北から）

3．調査前全景（南西から）

写真図版2　外野波豆遺跡　調査後全景(1)



1．調査後全景－南半部

2．調査後全景－北半部

写真図版3　外野波豆遺跡　調査後全景(2)

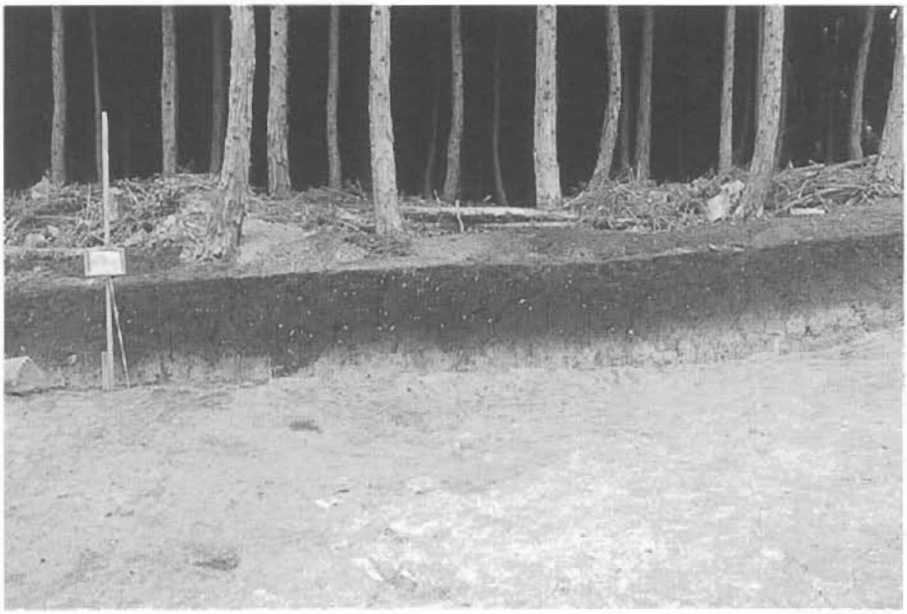
1．調査後全景－南半部
(東から)

2．調査後全景－南半部
(北から)

3．調査後全景－北半部
(南から)

写真図版4　外野波豆遺跡　土層堆積状況

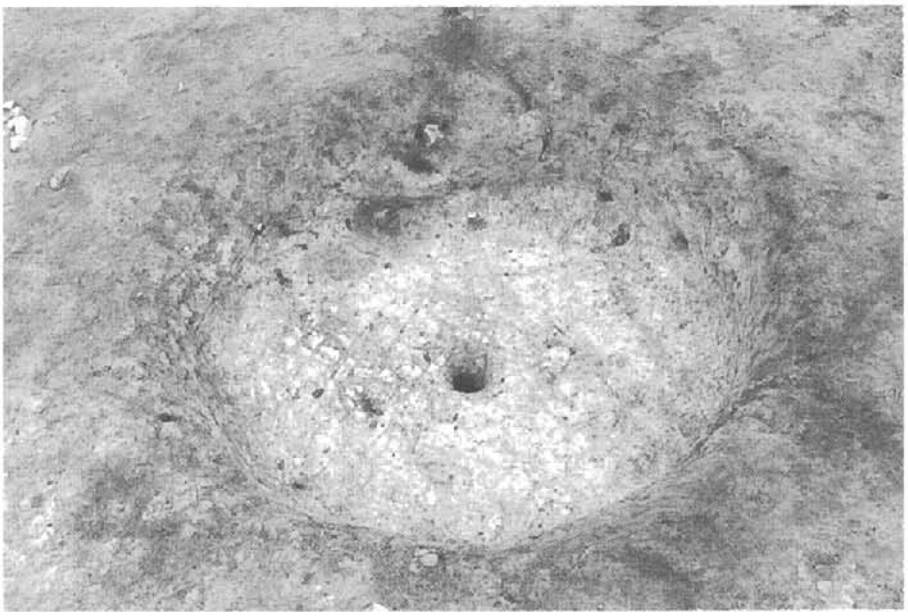
1．10区　西壁



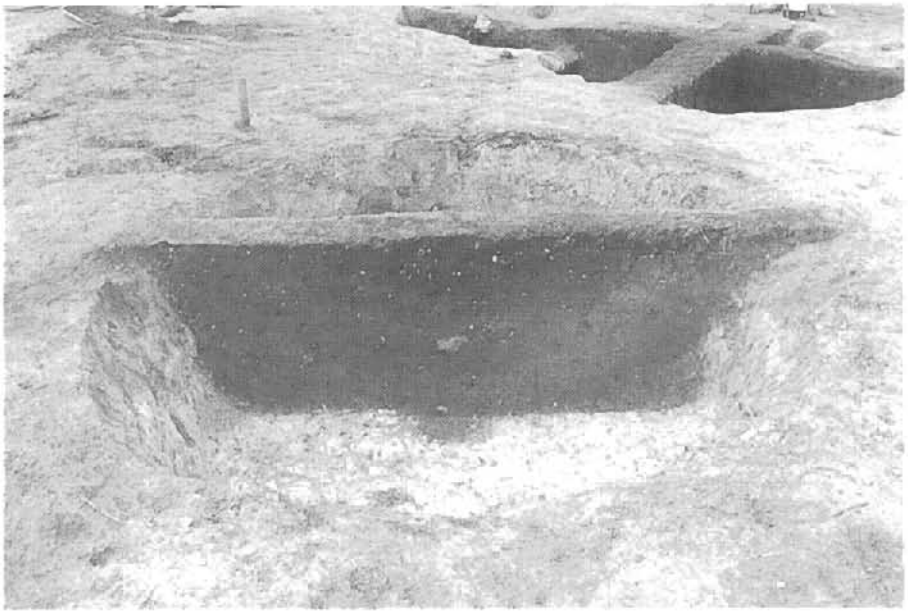
2．4区　西壁

3．1区　西壁

1．SK01　検出状況
（東から）

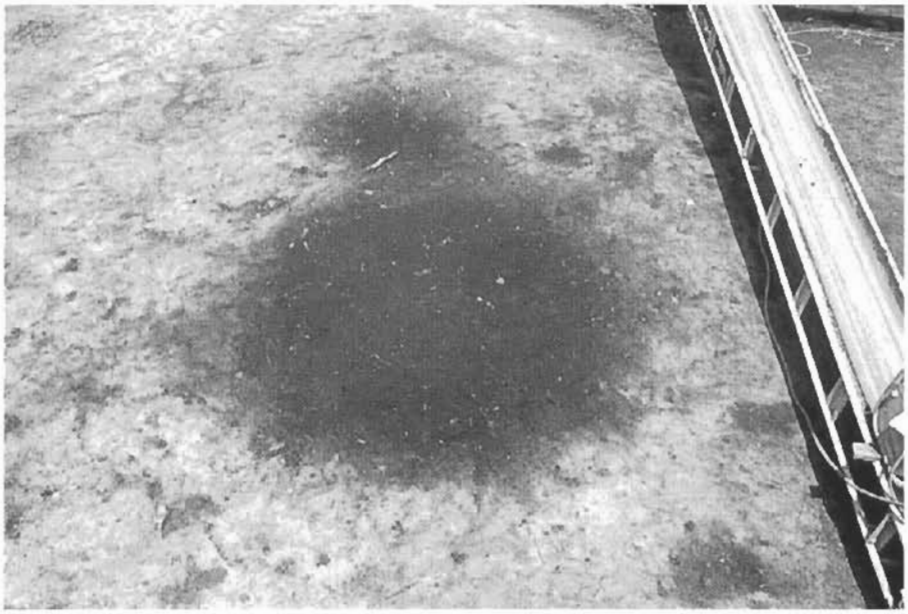


2．SK01　完掘状況
（南から）

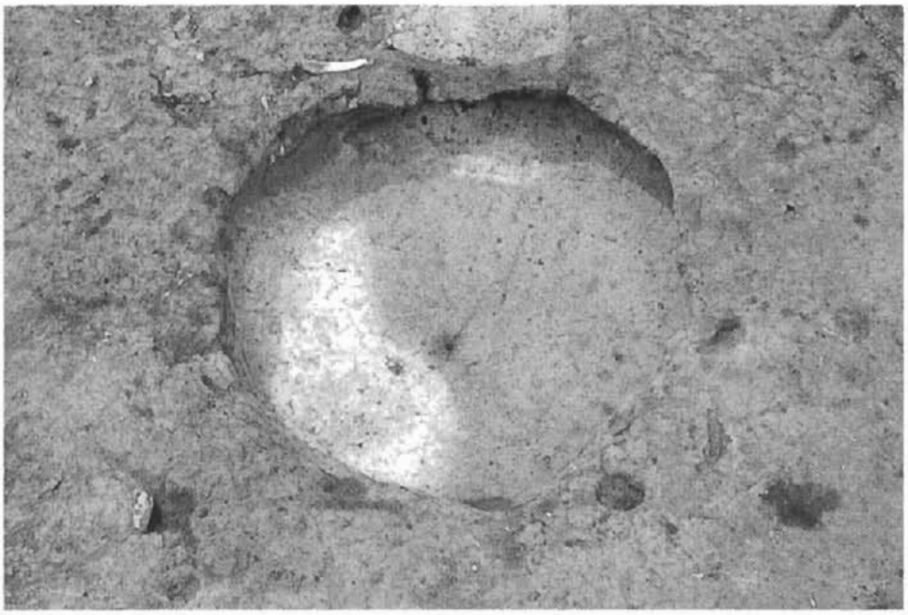


3．SK01　土層堆積状況
（南から）

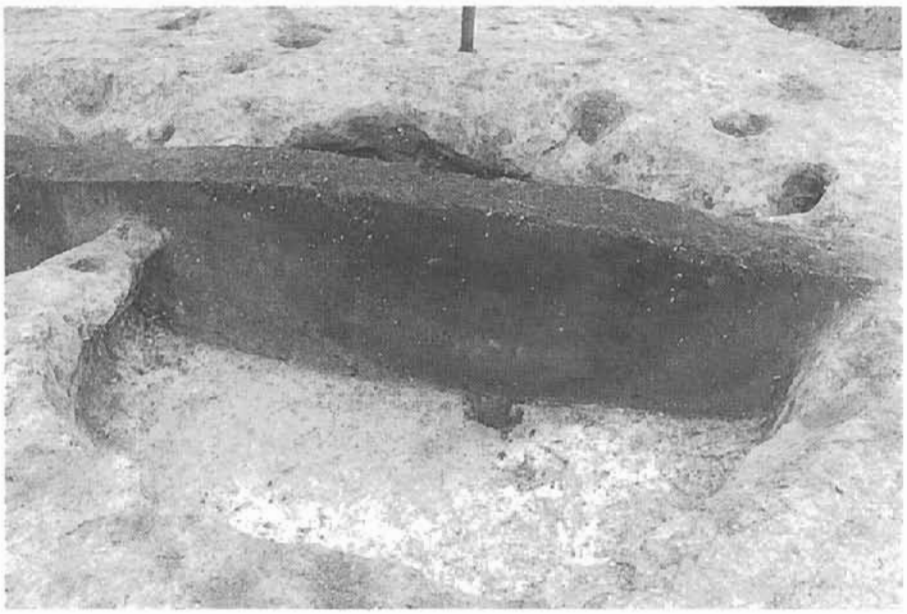
写真図版6　外野波豆遺跡　遺構(2)



1．ＳＫ０２　検出状況
（南東から）

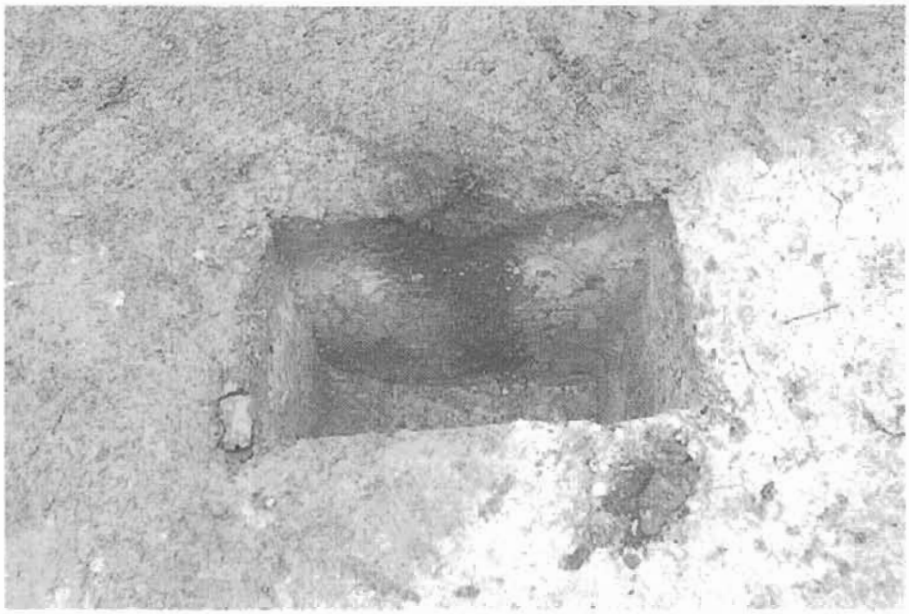


2．ＳＫ０２　完掘状況
（南東から）

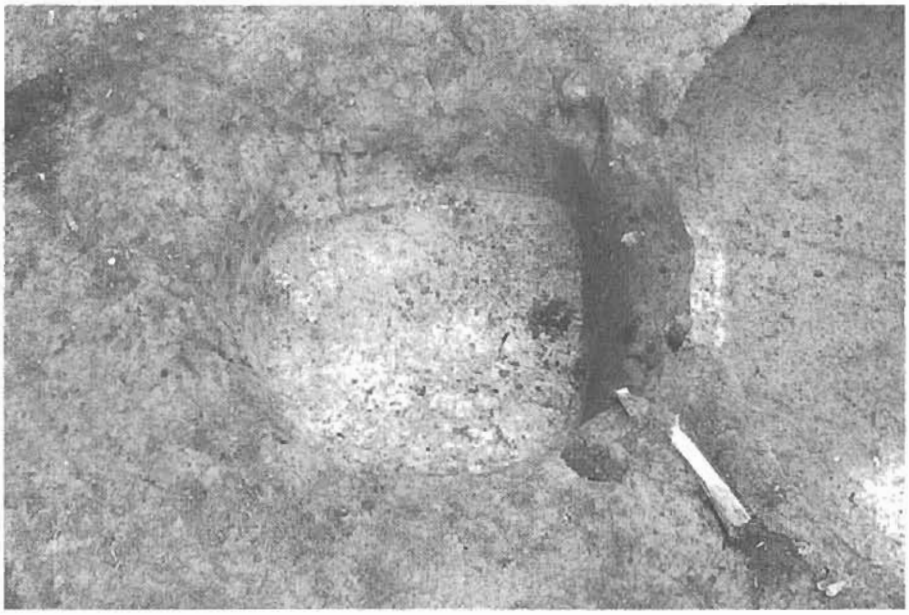


3．ＳＫ０２　土層堆積状況
（南西から）

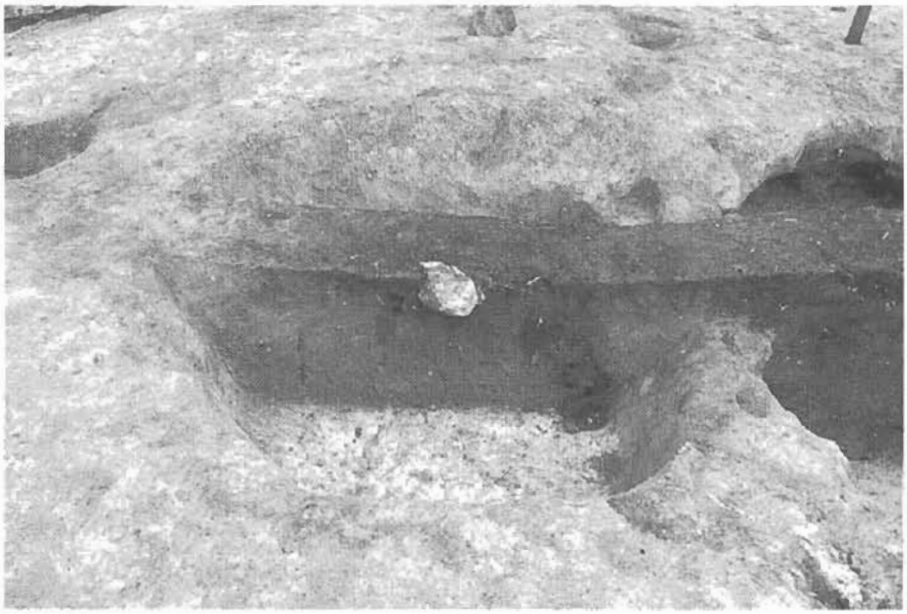
写真図版7　外野波豆遺跡　遺構(3)



1．SK02　小穴断面
(南西から)

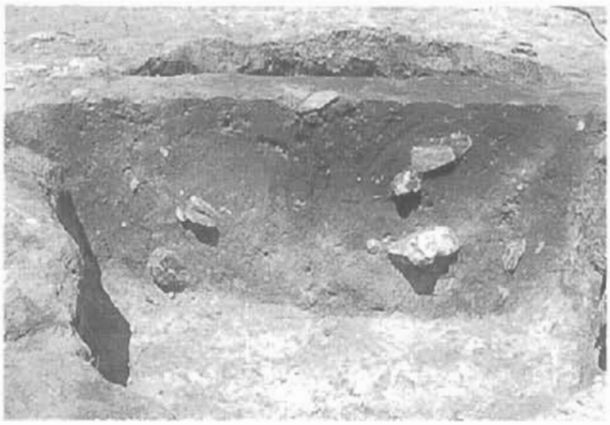


2．SK08　完掘状況
(南西から)

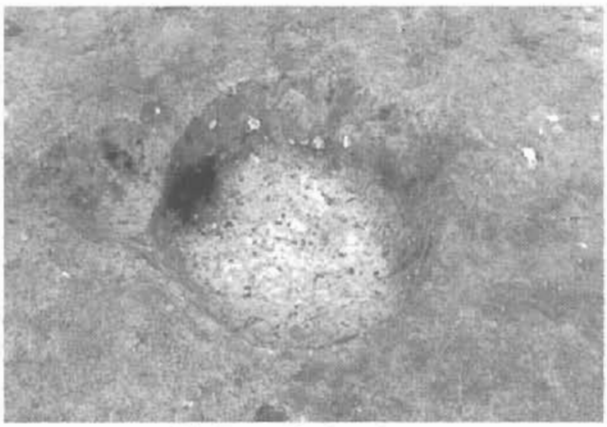


3．SK08　土層堆積状況
(南西から)

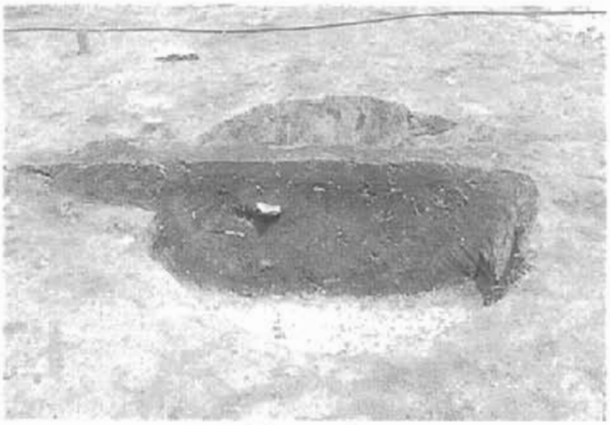
1．ＳＫ０３　完掘状況（南東から）



2．ＳＫ０３　土層堆積状況（南東から）

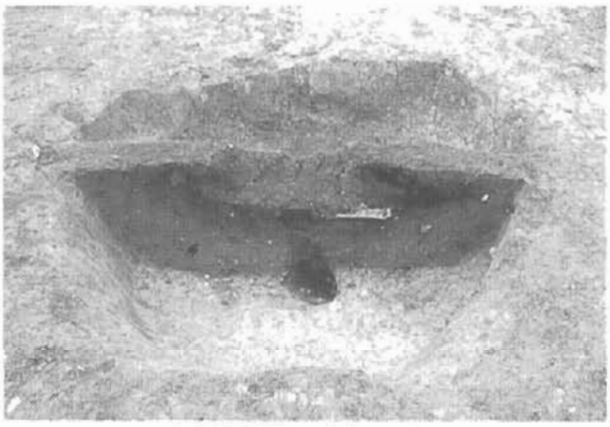


3．ＳＫ０４　完掘状況（南西から）

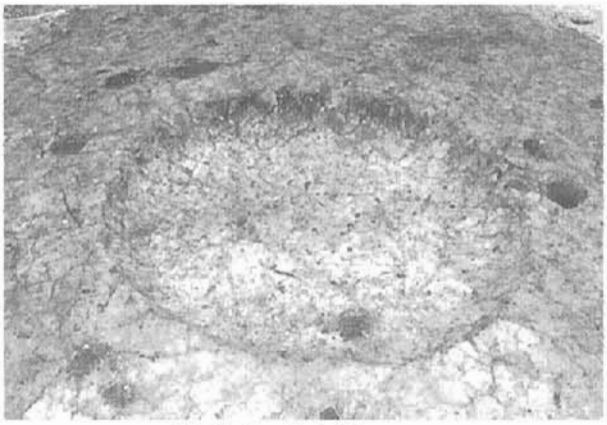


4．ＳＫ０４　土層堆積状況（南西から）

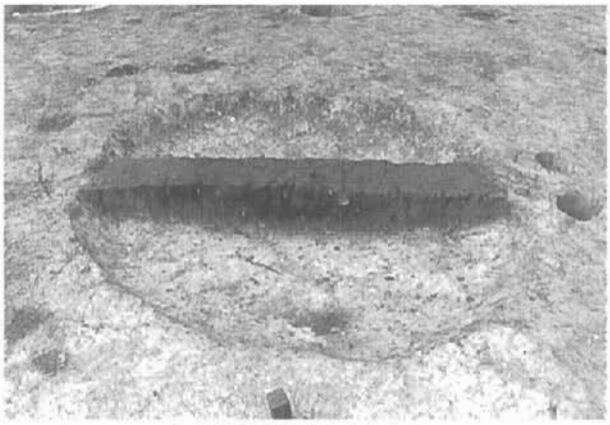
5．ＳＫ０５　完掘状況（東から）



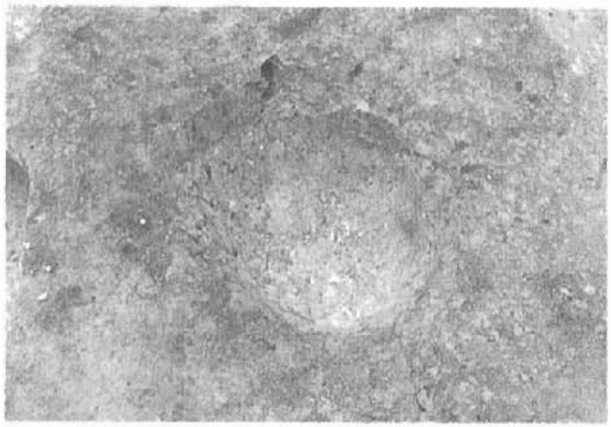
6．ＳＫ０５　土層堆積状況（東から）



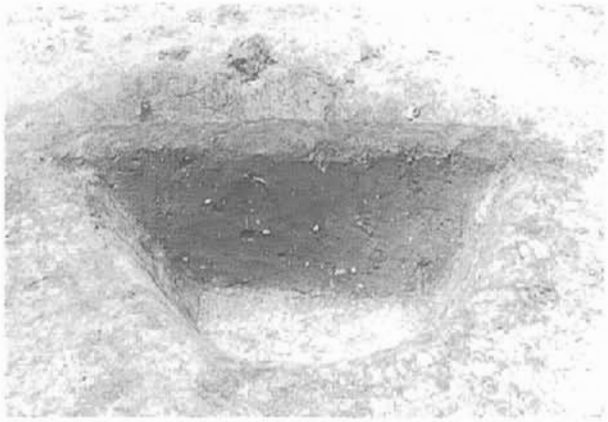
7．ＳＫ０６　完掘状況（南から）



8．ＳＫ０６　土層堆積状況（南から）

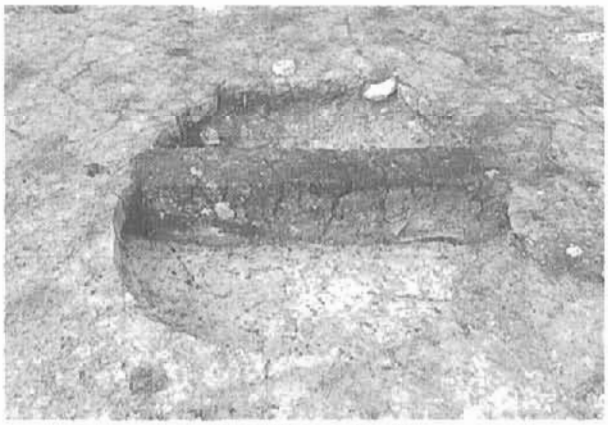


1．ＳＫ０７　完掘状況（東から）

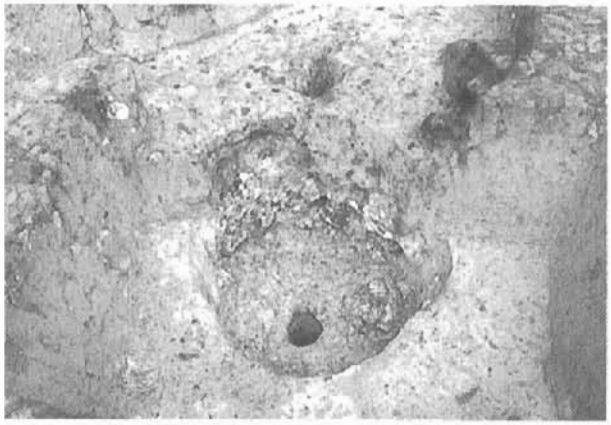


2．ＳＫ０７　土層堆積状況（東から）

3．ＳＫ１１　完掘状況（南から）



4．ＳＫ１１　土層堆積状況（南から）

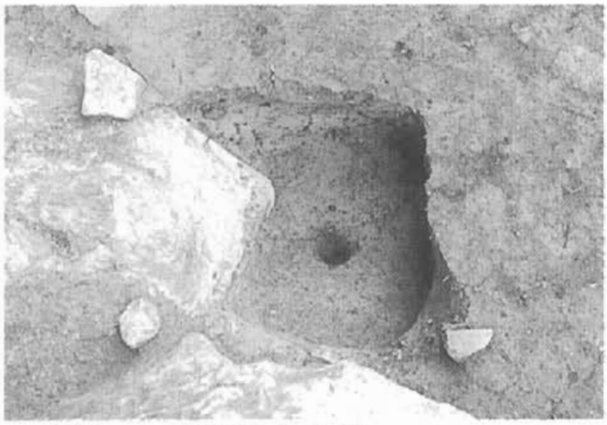


5．ＳＫ１０－１　完掘状況（南から）

6．ＳＫ１０－１　土層堆積状況（南から）

7．ＳＫ１０－２　完掘状況（南から）

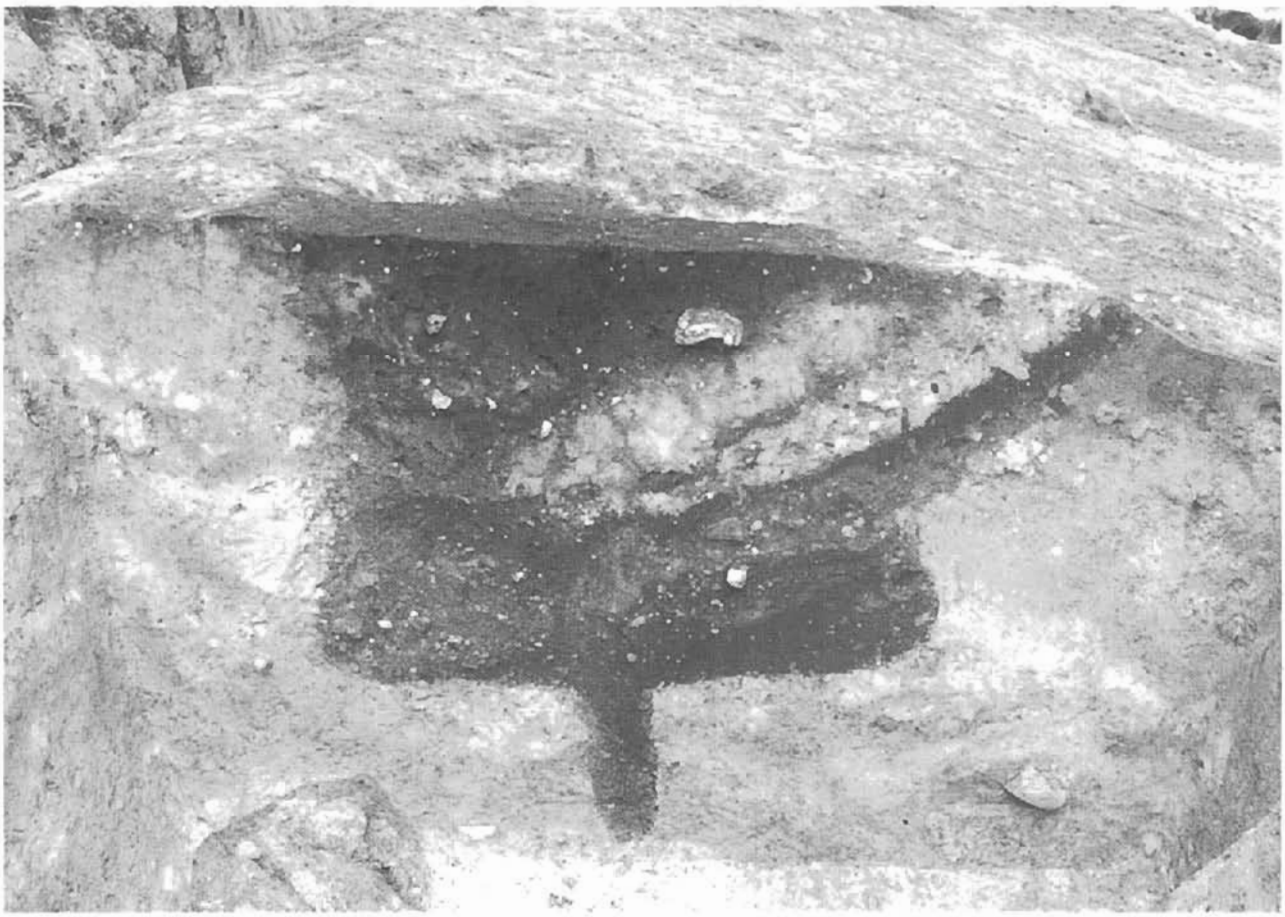
8．ＳＫ１０－１　土層堆積状況（西から）



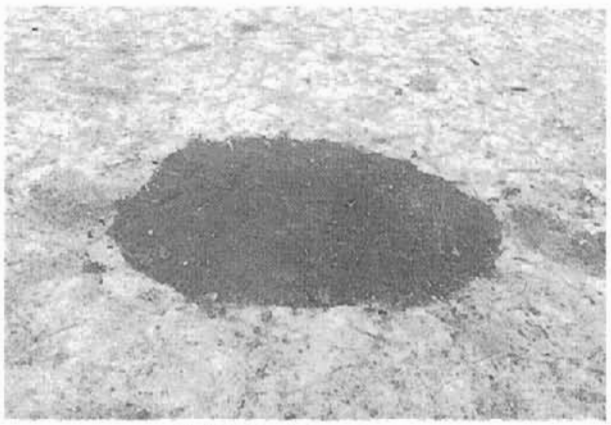
1．SK13　完掘状況（南から）

2．SK14　土層堆積状況（南東から）

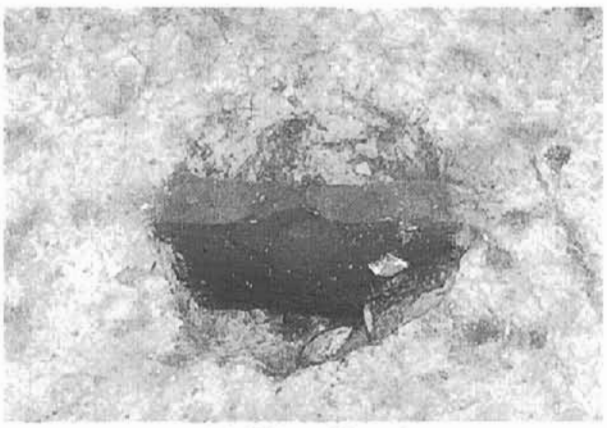
4．SK14　完掘状況（南東から）



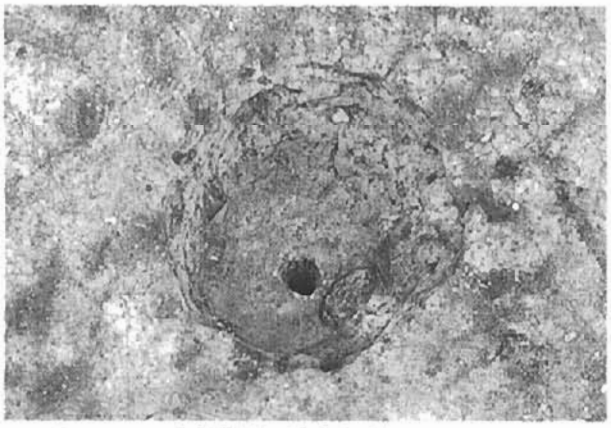
3．SK14　土層堆積状況（南から）



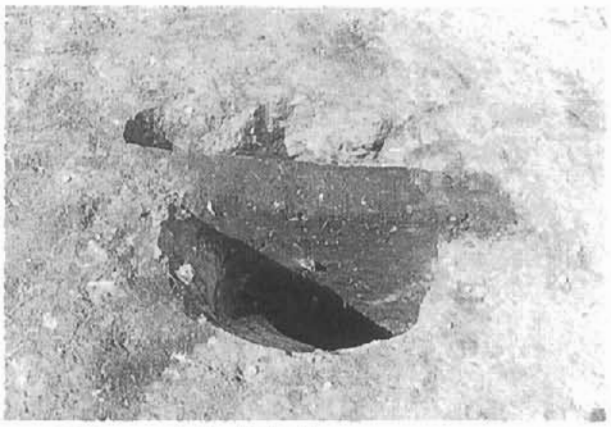
1．ＳＫ１５　検出状況（西から）



2．ＳＫ１５　土層堆積状況（東から）



3．ＳＫ１５　完掘状況（南東から）

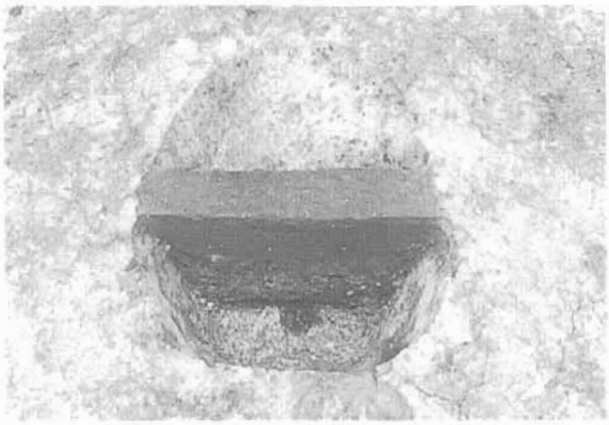


4．ＳＫ１７　全景（南から）

5．ＳＫ１７　土層堆積状況（南から）

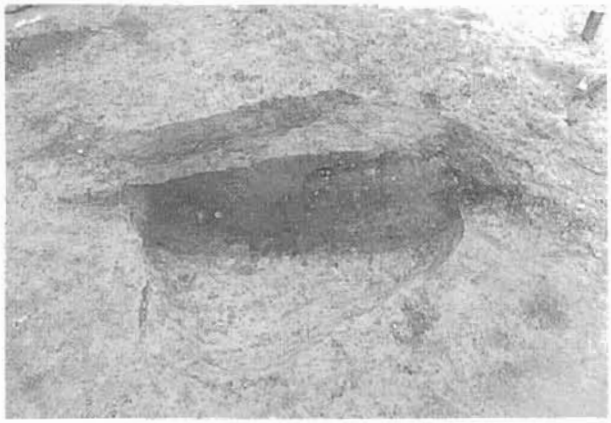
6．ＳＫ１７　完掘状況（南から）

1．ＳＫ１６　完掘状況（南から）



2．ＳＫ１６　土層堆積状況（北から）

3．ＳＫ１８　完掘状況（南東から）



4．ＳＫ１８　土層堆積状況（南東から）

5．ＳＫ２３　完掘状況（南東から）

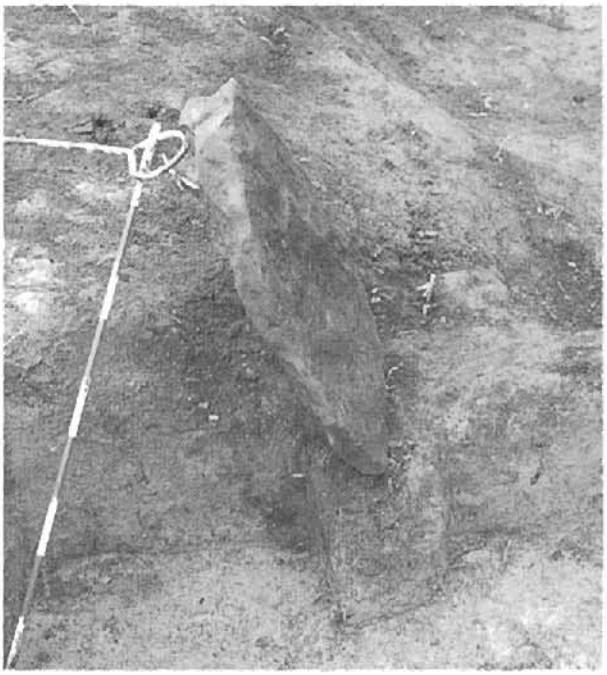
6．ＳＫ２３　土層堆積状況（南から）

7．ＳＫ１２　土層堆積状況（南西から）

8．ＳＫ２６　土層堆積状況（南から）

1．立石1　断面（南東から）

2．立石2　断面（南東から）



3．立石3　断面（東から）

写真図版14　外野柳遺跡　調査前全景

1．調査前全景
（外野波豆遺跡から望む）

2．調査前全景（西から）

3．高松氏遺物採集地点
（調査区から望む）

1．調査後全景（調査区西半部）

2．調査後全景（調査区東半部）

写真図版16　外野柳遺跡　調査後全景(2)

1．調査後全景
（外野波豆遺跡から望む）

2．調査後全景（東から）

3．調査後全景（西から）

写真図版17　外野柳遺跡　土層堆積状況

1．9区北壁

2．7区北壁

3．2区北壁

写真図版18　外野柳遺跡　遺構(1)

1．焼礫集石遺構（南西から）

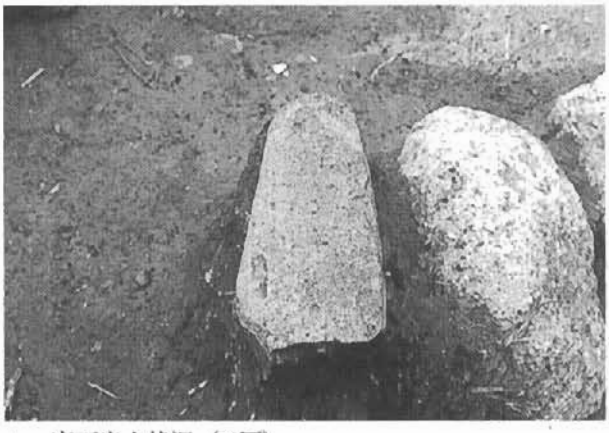
2．焼礫集石遺構（南西から）

3．焼礫集石遺構　断面（東から）

1．焼礫集石遺構付近（西から）

2．石皿出土状況（10区）

3．磨石出土状況（10区）



4．磨石出土状況（10区）

5．磨石出土状況（10区）

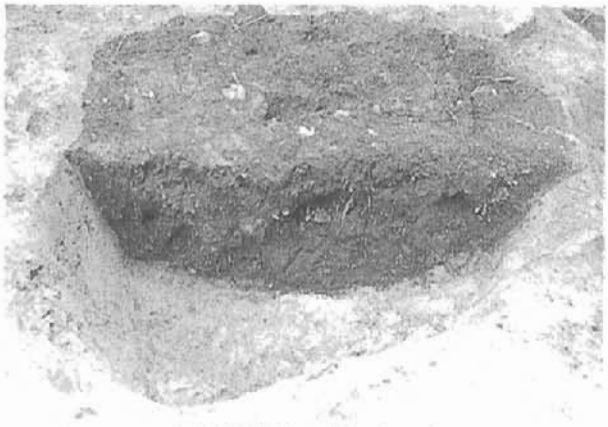
1．配石遺構１　全景（北西から）

2．配石遺構１　断面（北から）

3．ＳＫ０１　検出状況（北から）

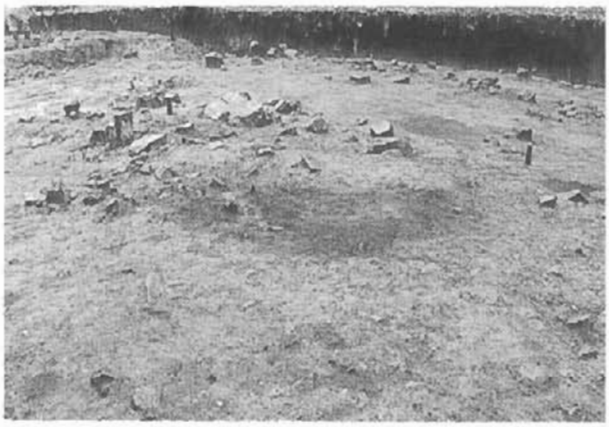
4．ＳＫ０１　土層堆積状況（南西から）

5．ＳＫ０１　完掘状況（東から）



6．ＳＫ０２　土層堆積状況（南西から）

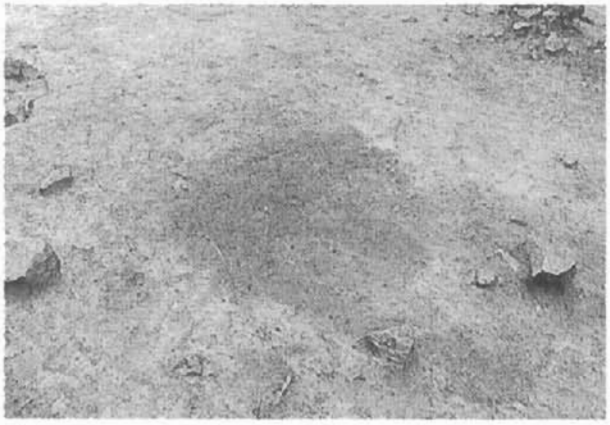
7．ＳＫ０５　土層堆積状況（南西から）



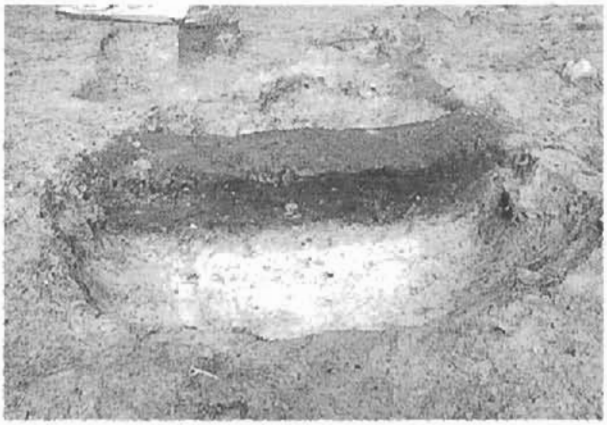
1．ＳＫ０６　検出状況（南東から）

2．ＳＫ０６　土層堆積状況（西から）

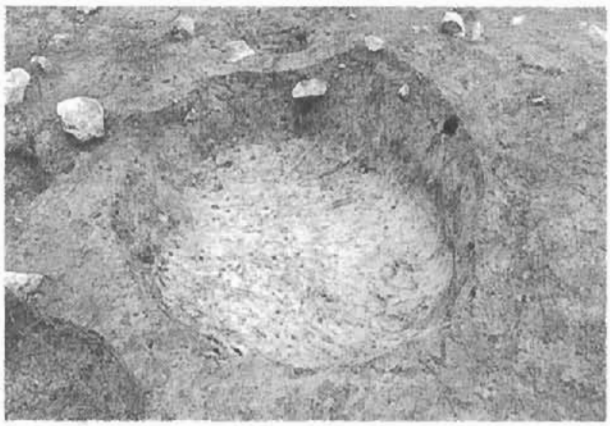
3．ＳＫ０６　完掘状況（北から）



4．ＳＫ０７　検出状況（南東から）

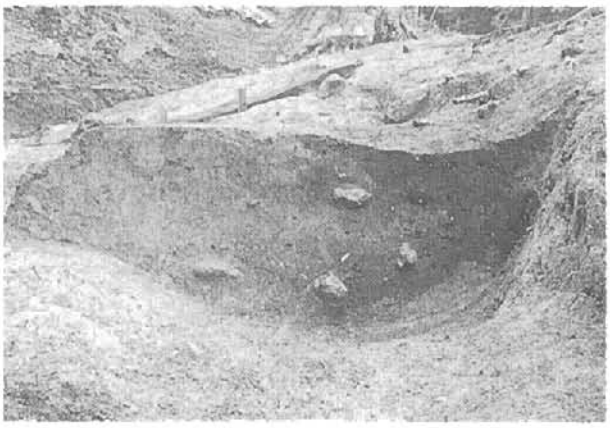


5．ＳＫ０７　土層堆積状況（西から）



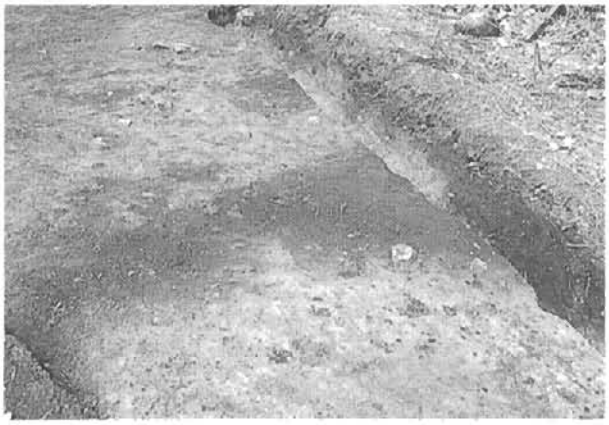
6．ＳＫ０７　完掘状況（北から）

1．ＳＫ０９　土層堆積状況（西から）



2．ＳＫ１０　土層堆積状況（西から）

3．ＳＫ１１　土層堆積状況（西から）



4．ＳＤ０１　検出状況（南から）

5．ＳＤ０１　土層堆積状況（西から）

6．ＳＤ０２　土層堆積状況（南西から）

7．ＳＤ０３　土層堆積状況（北から）

1．木柱調査地区全景
（南東から）

2．木柱調査地区全景
（南から）

3．土層堆積状況
（南東から）

1．木柱1　断面（北東から）

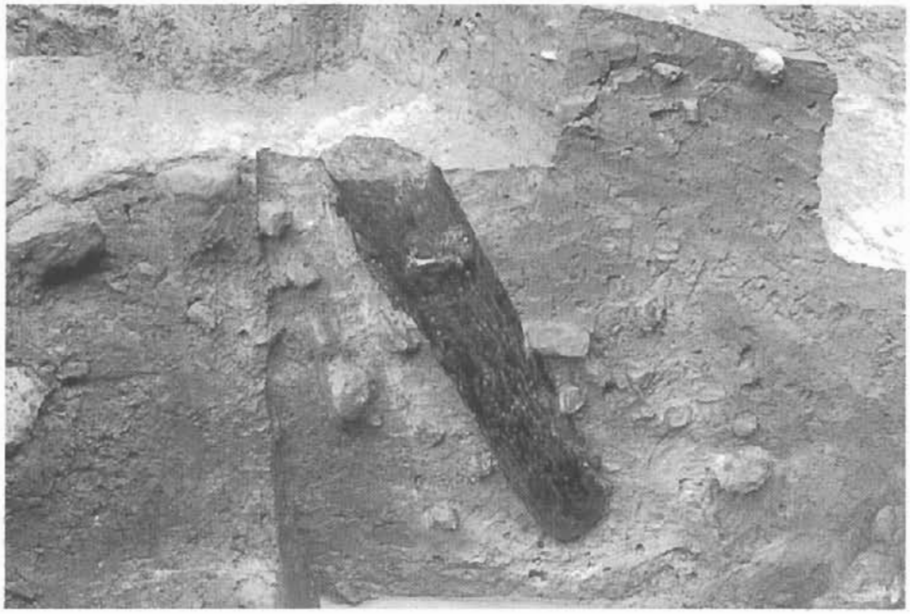
2．木柱1　下端（北東から）

3．木柱1　掘方完掘状況
（北東から）

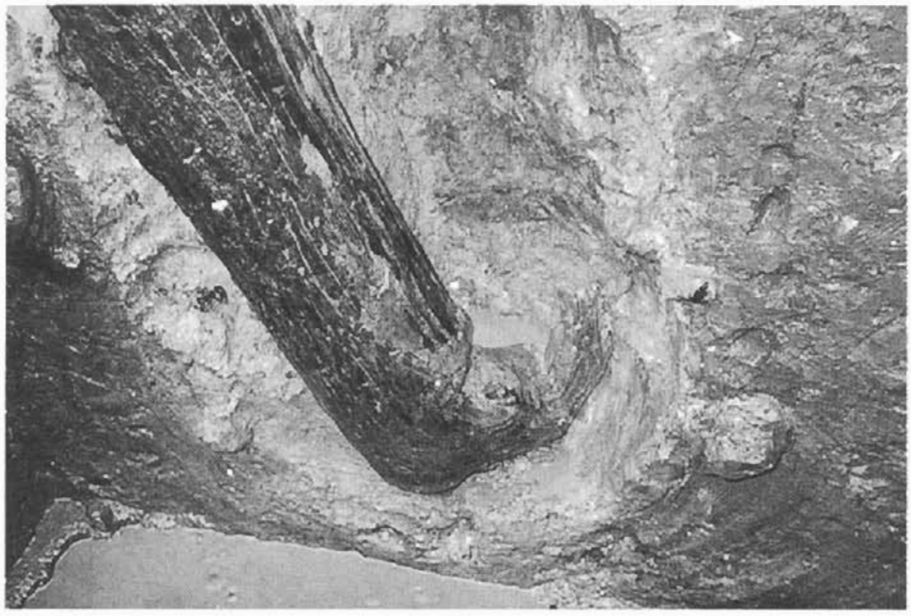
1．木柱2　断面（南から）

2．木柱3　断面（北から）

3．木柱3　掘方完掘状況（北から）



1．木柱4　断面（南西から）



2．木柱4　下端（南西から）

3．木柱4　掘方完掘状況（南西から）

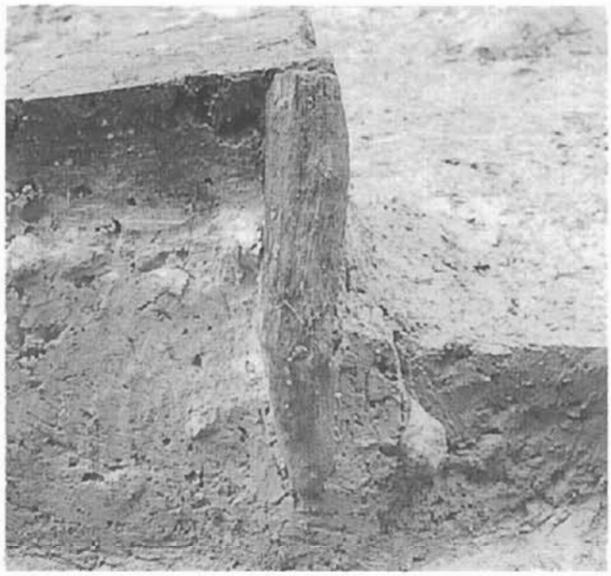
1．木柱5　断面（北から）

2．木柱5　下端（北から）

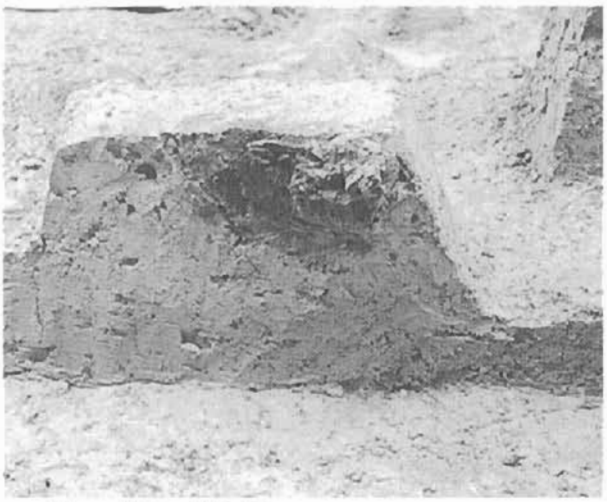
3．木柱5　掘方完掘状況（北から）

1．木柱6　断面（北から）

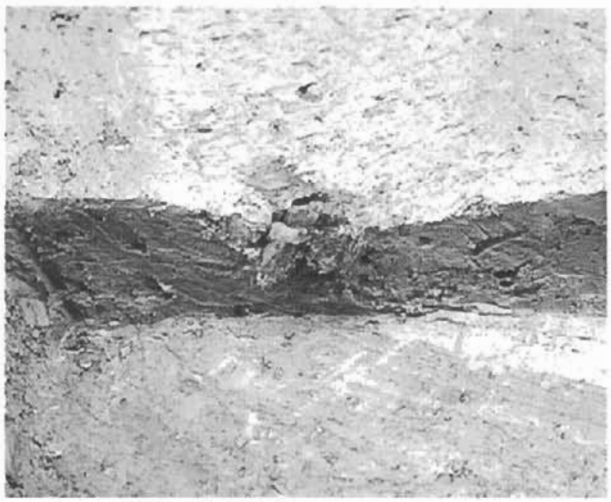
2．杭1　断面（南東から）



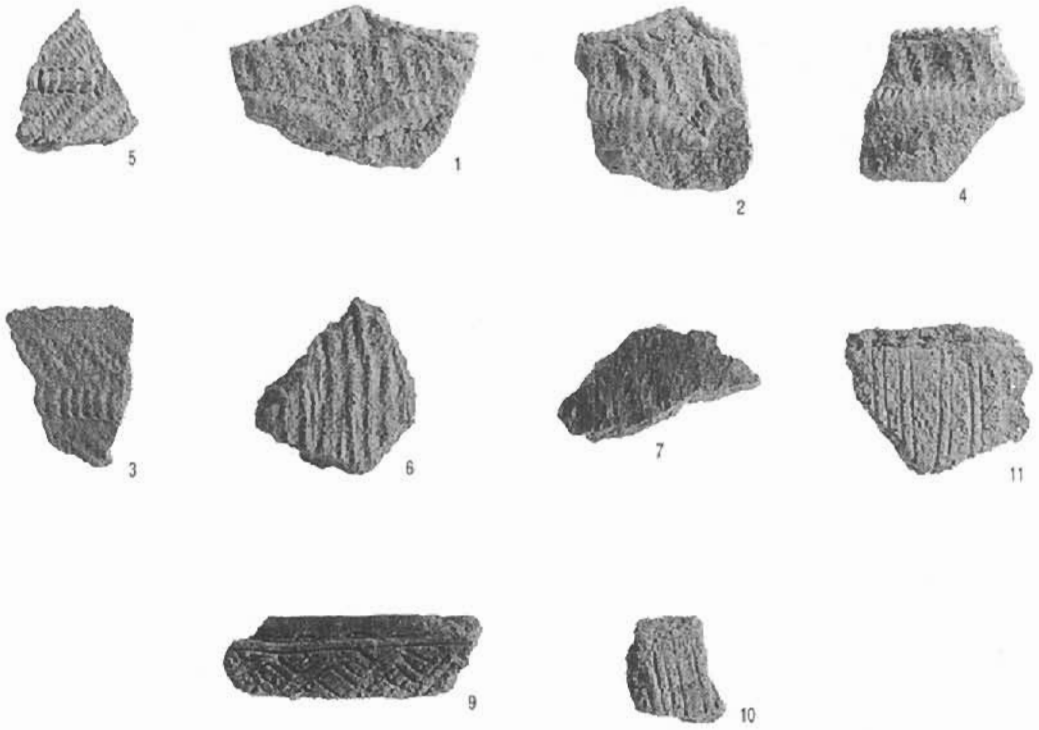
3．杭4　断面（南東から）



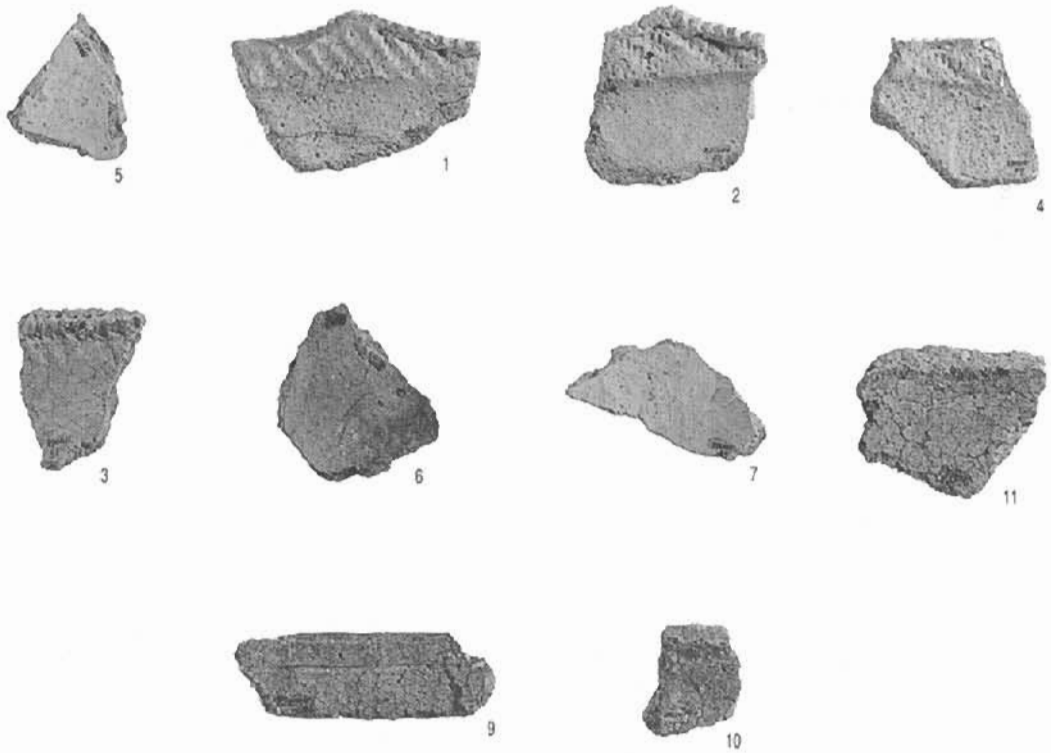
4．杭2　断面（南から）



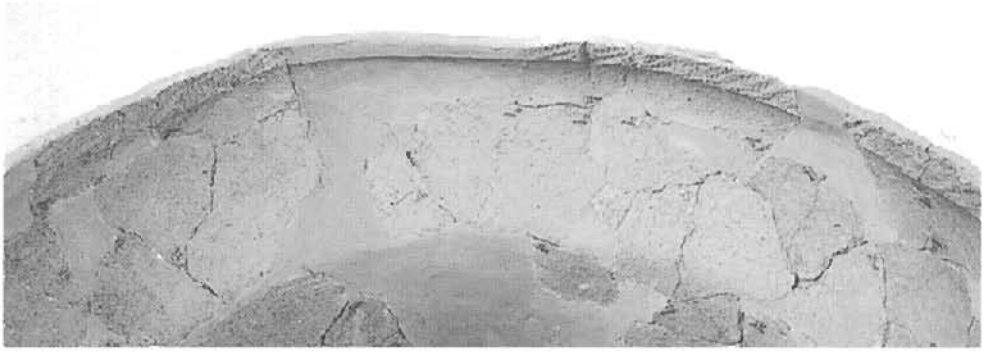
5．杭3　断面（北東から）



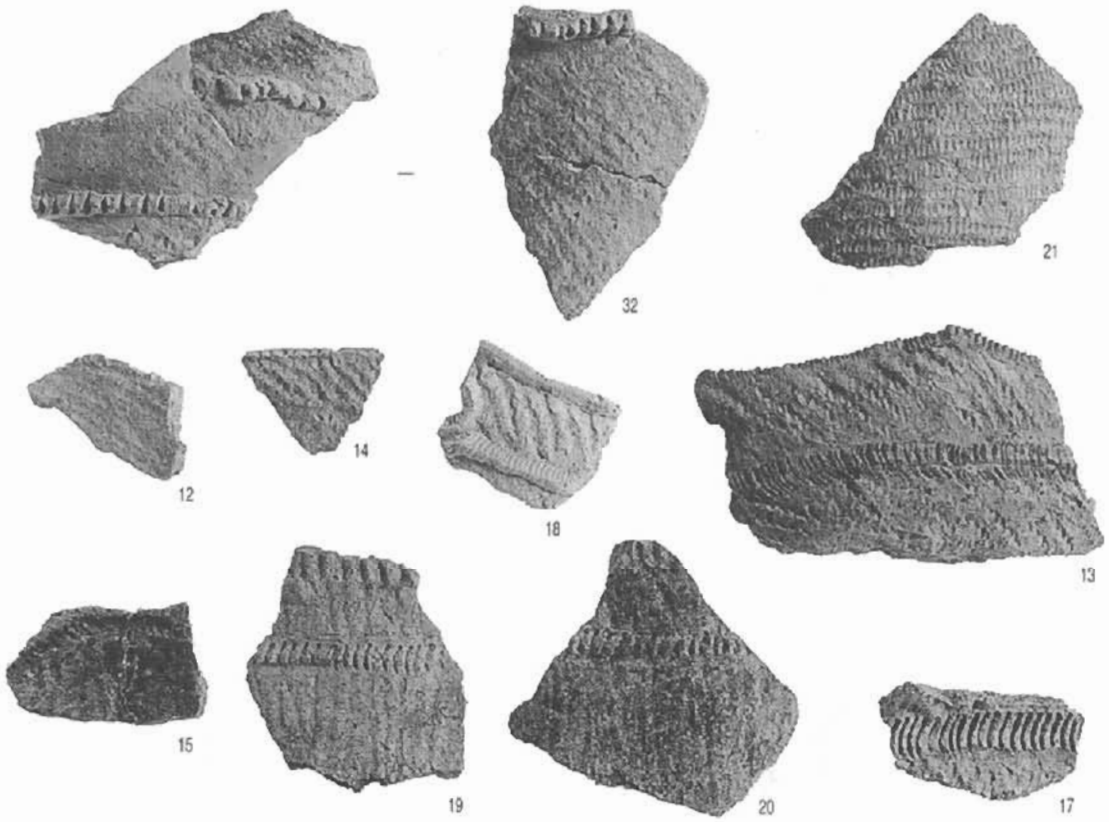
1．ＳＫ０１出土土器（表）



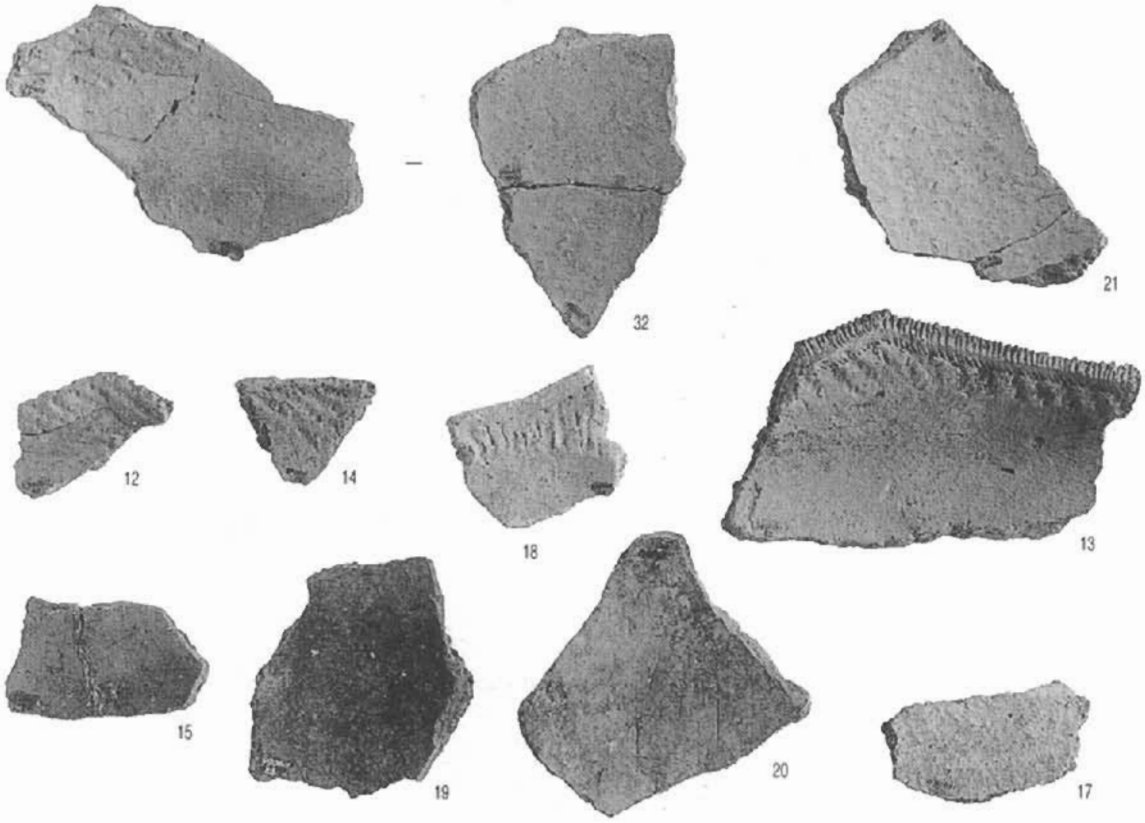
2．ＳＫ０１出土土器（裏）



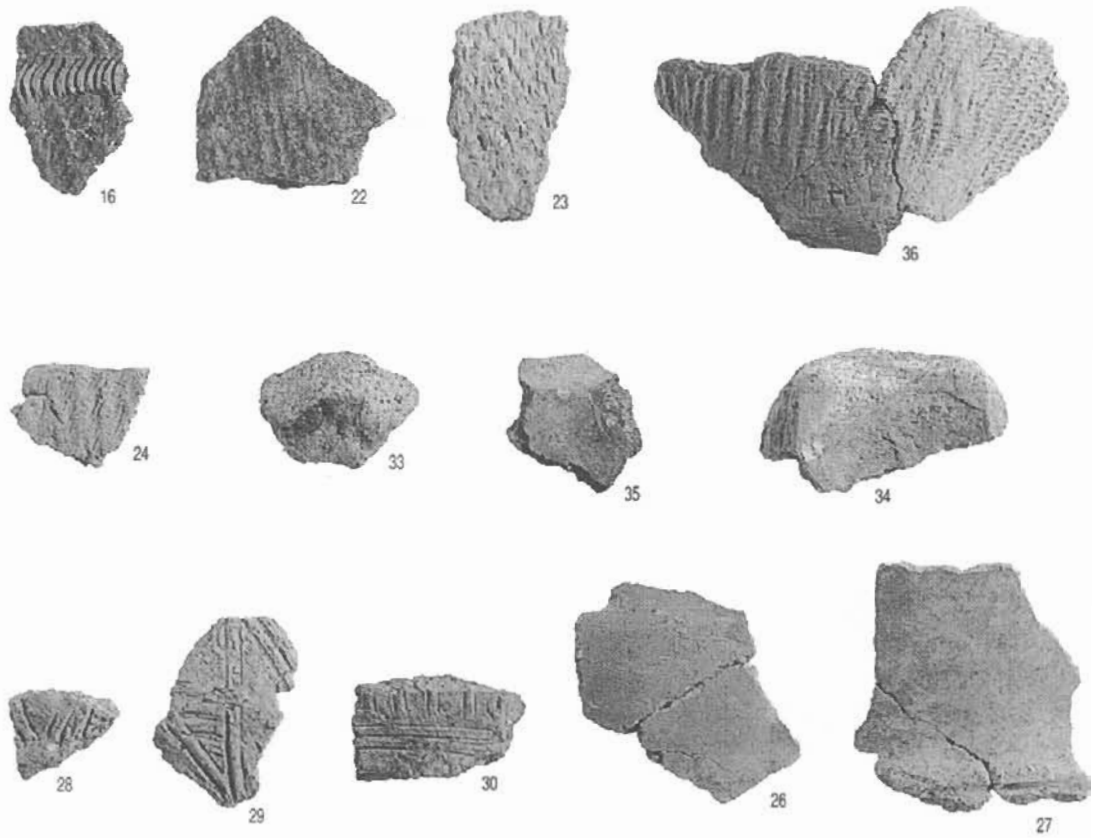
1．ＳＫ０２出土土器



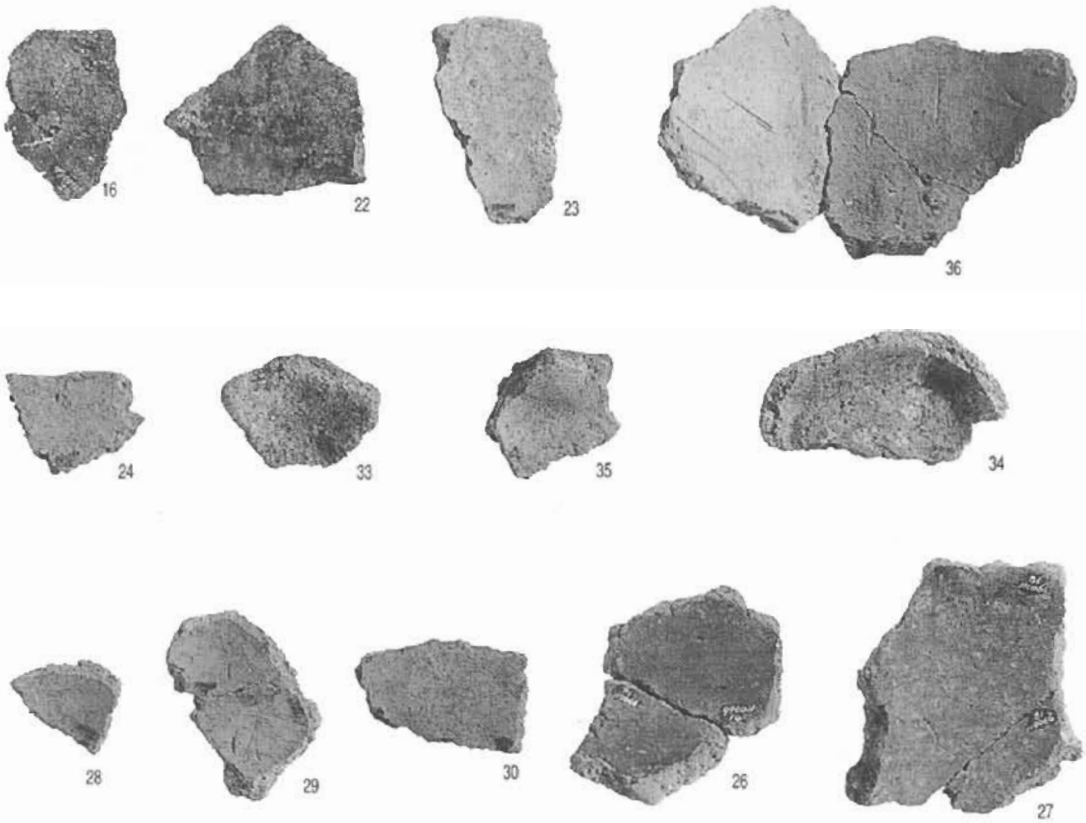
1．ＳＫ０２出土土器（表）



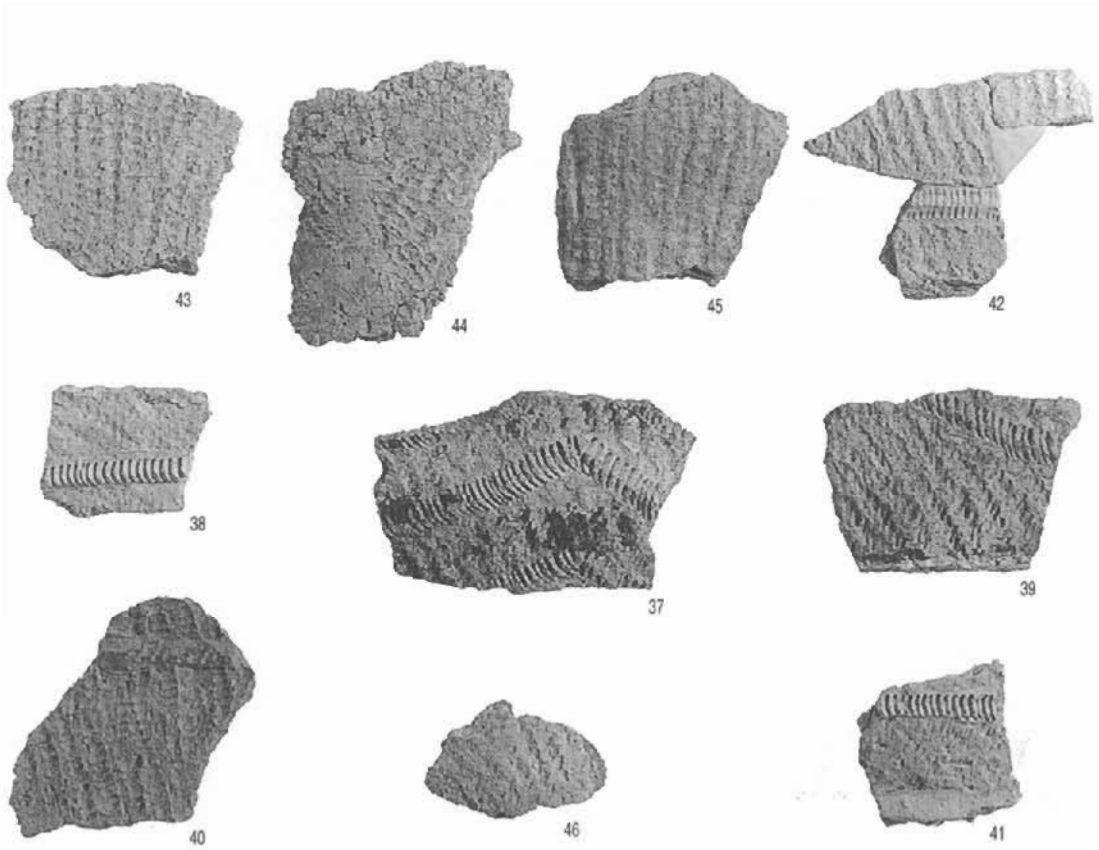
2．ＳＫ０２出土土器（裏）



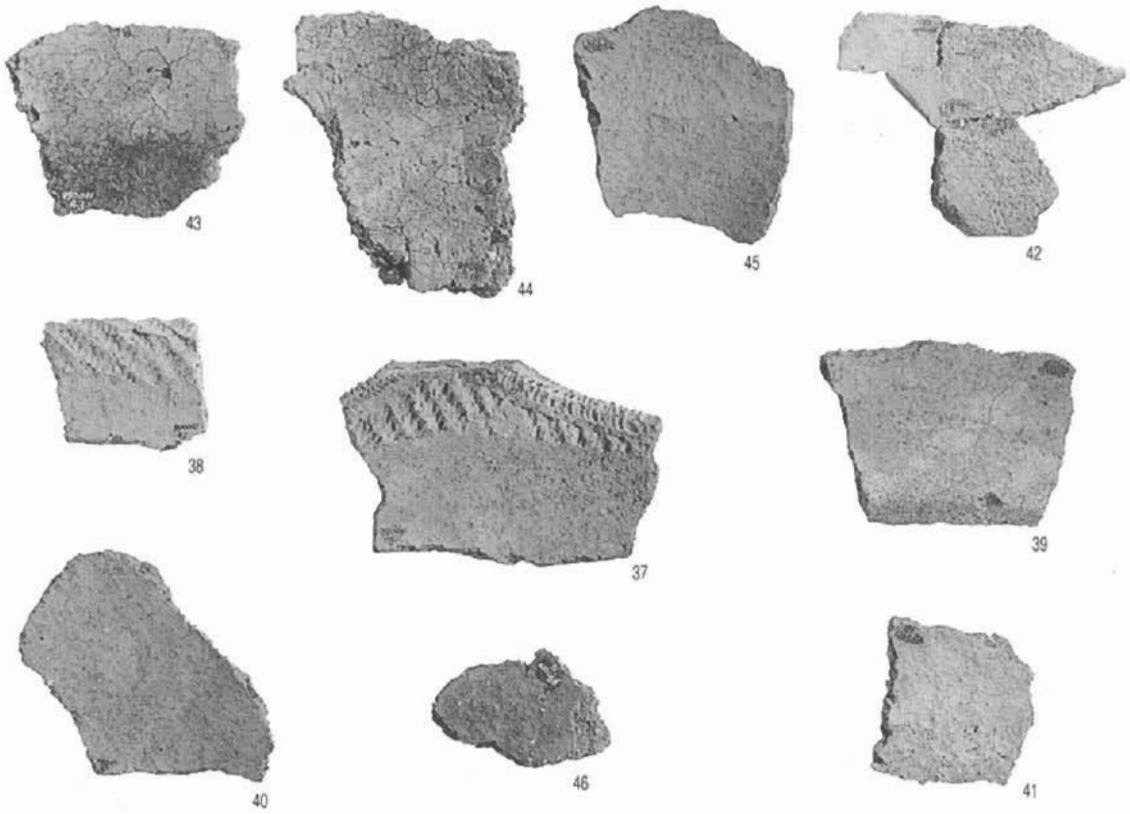
1．ＳＫ０２出土土器（表）



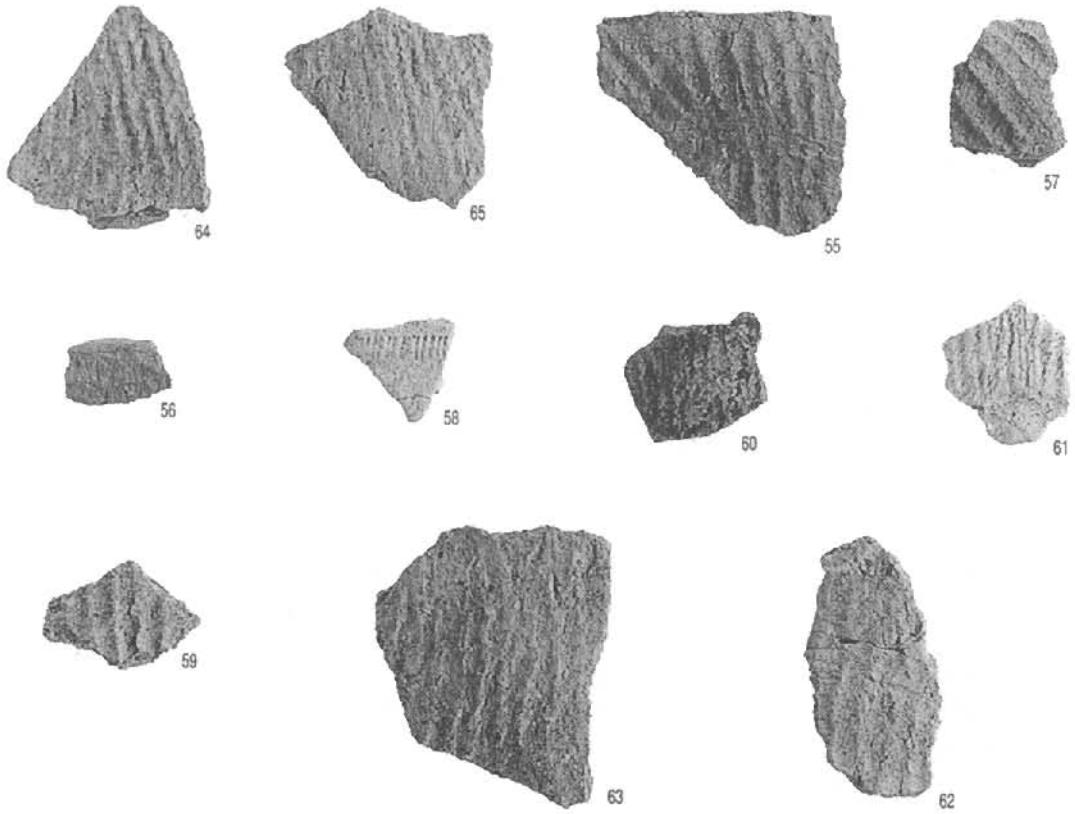
2．ＳＫ０２出土土器（裏）



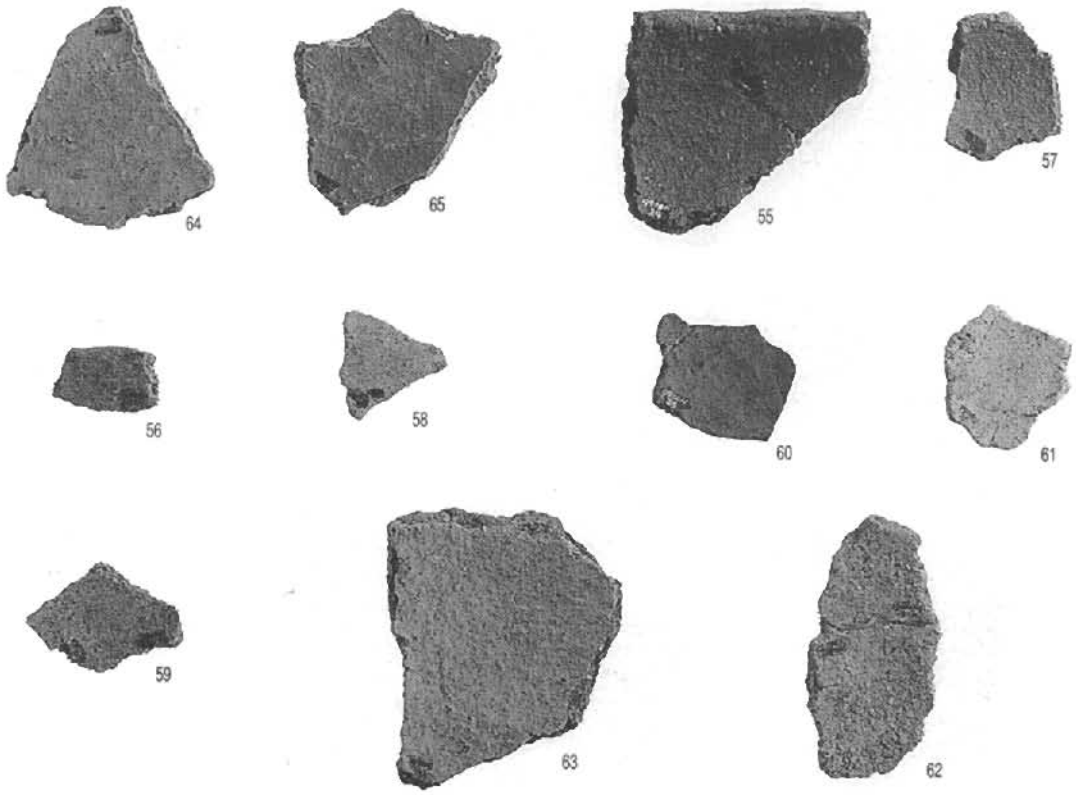
1．ＳＫ０３出土土器（表）



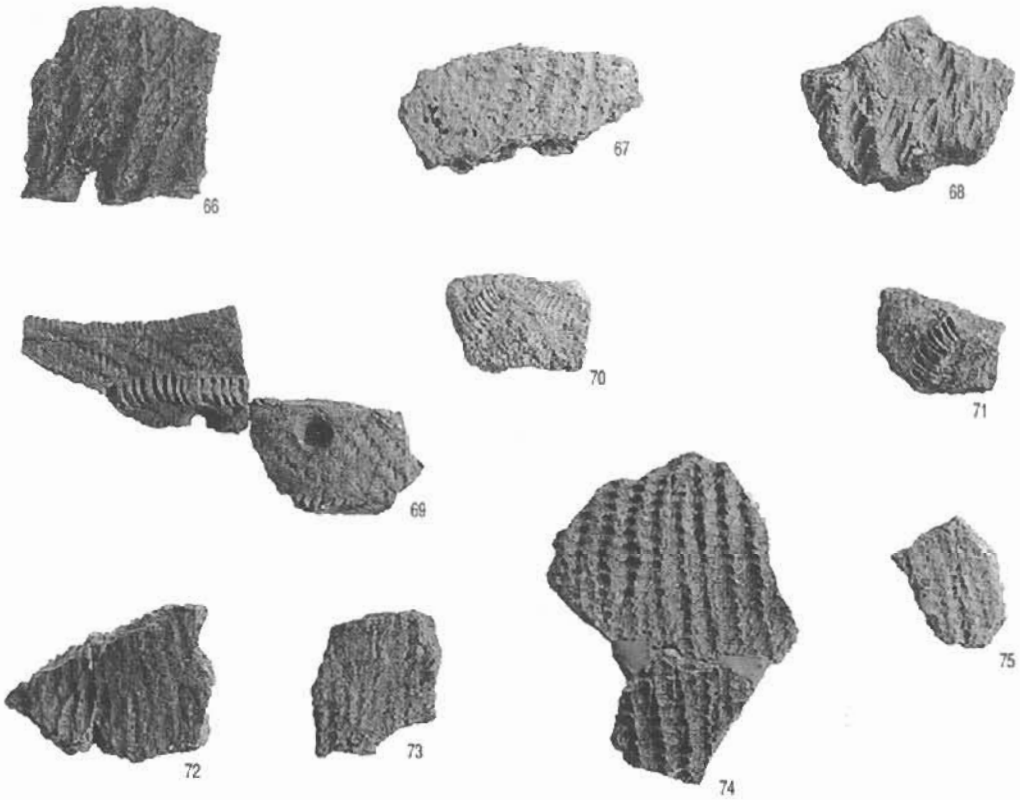
2．ＳＫ０３出土土器（裏）



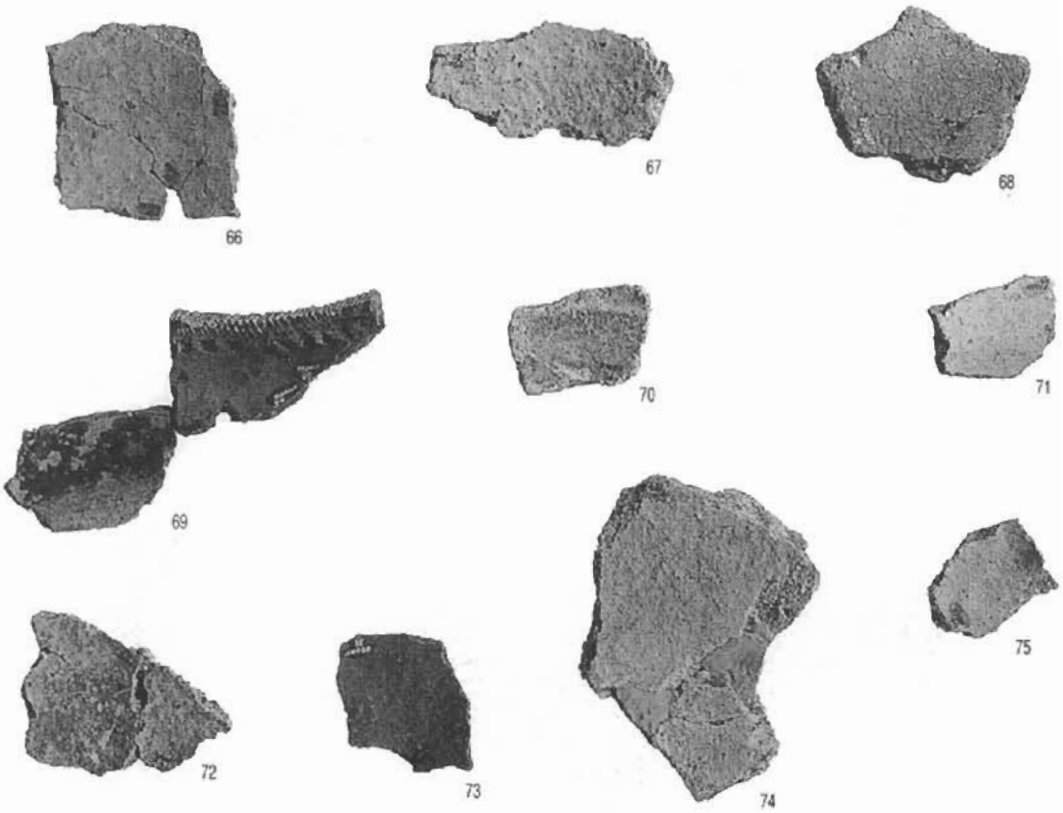
1．ＳＫ１０出土土器（表）



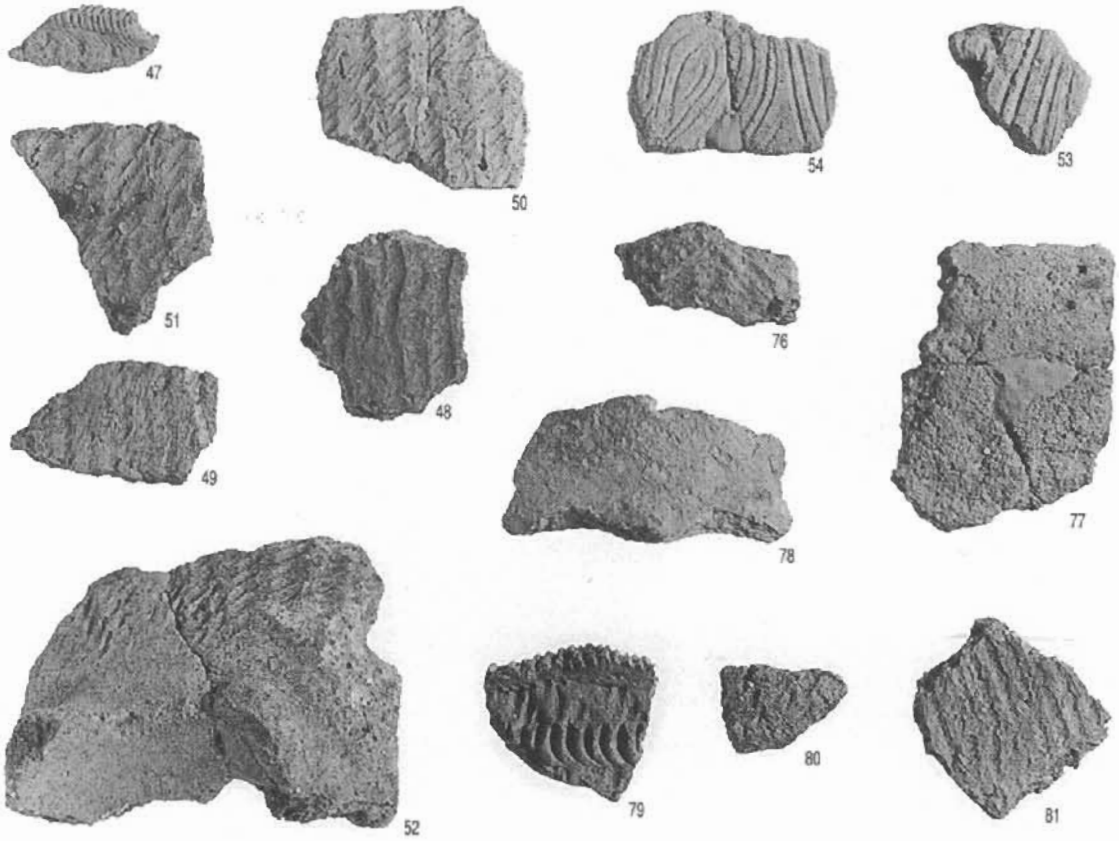
2．ＳＫ１０出土土器（裏）



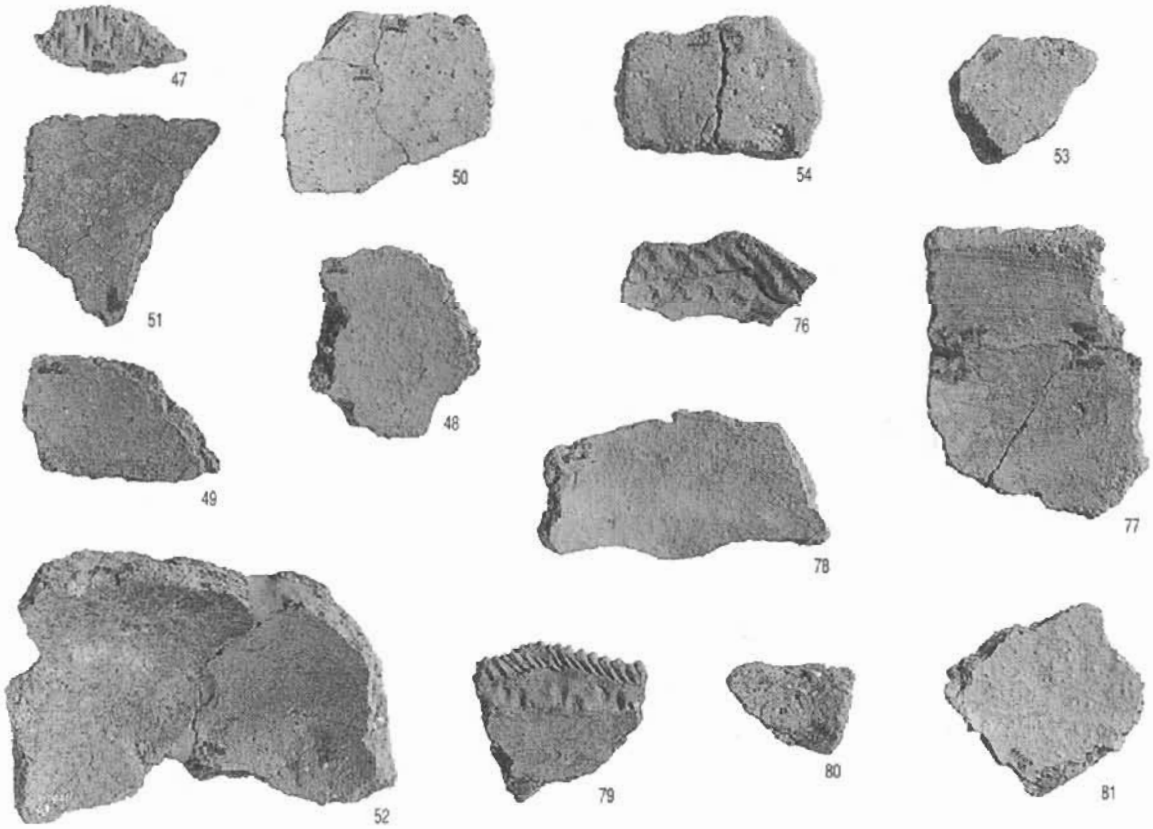
1．SK11・12・14出土土器（表）



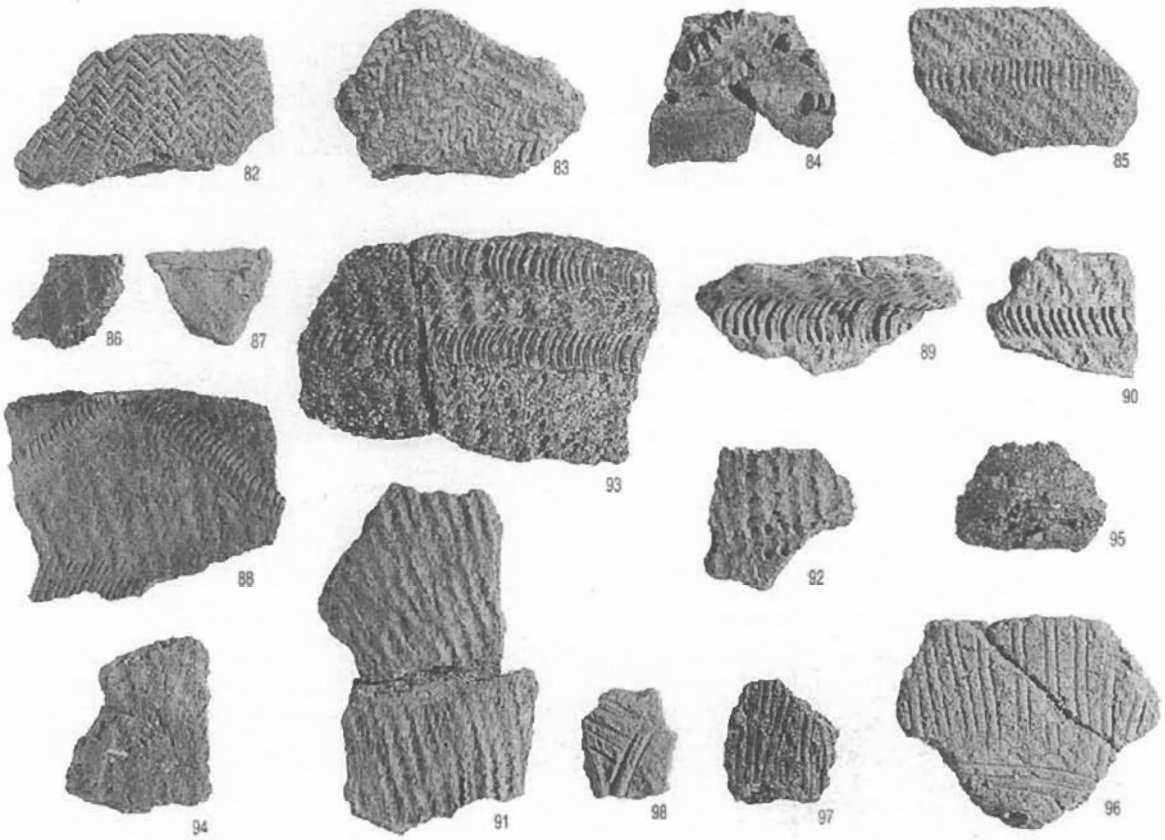
2．SK11・12・14出土土器（裏）



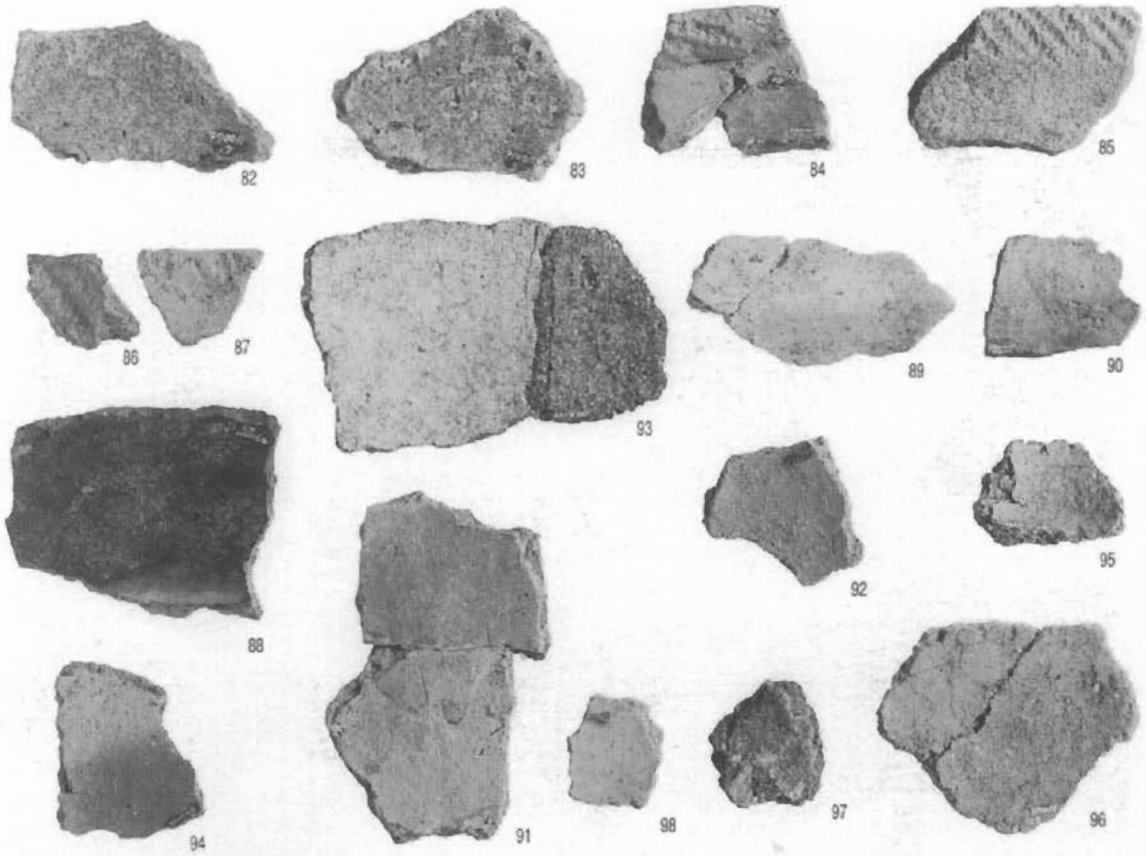
1．SK06・08・18・Pit1・2出土土器（表）



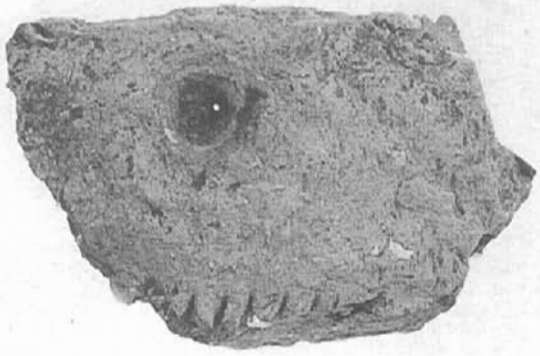
2．SK06・08・18・Pit1・2出土土器（裏）



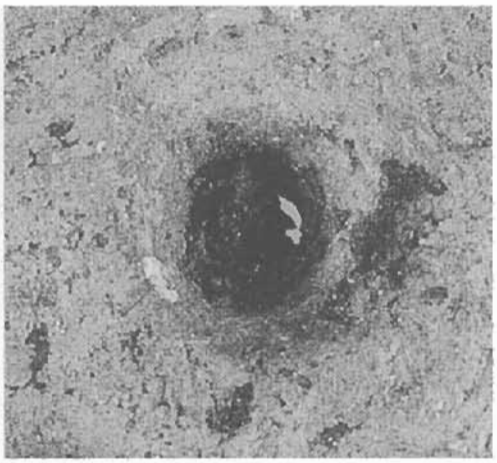
1．遺構以外の出土土器（表）



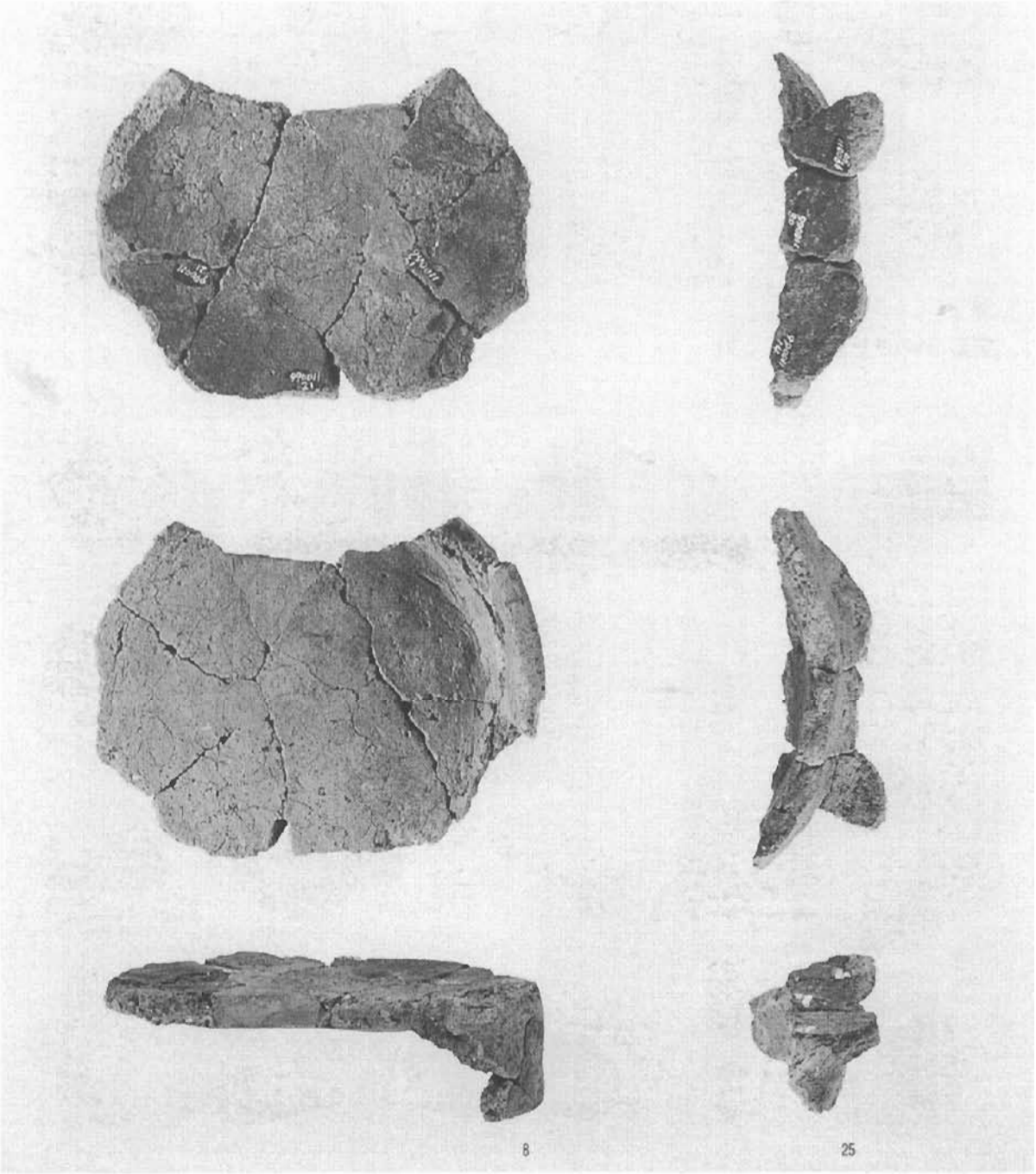
2．遺構以外の出土土器（裏）



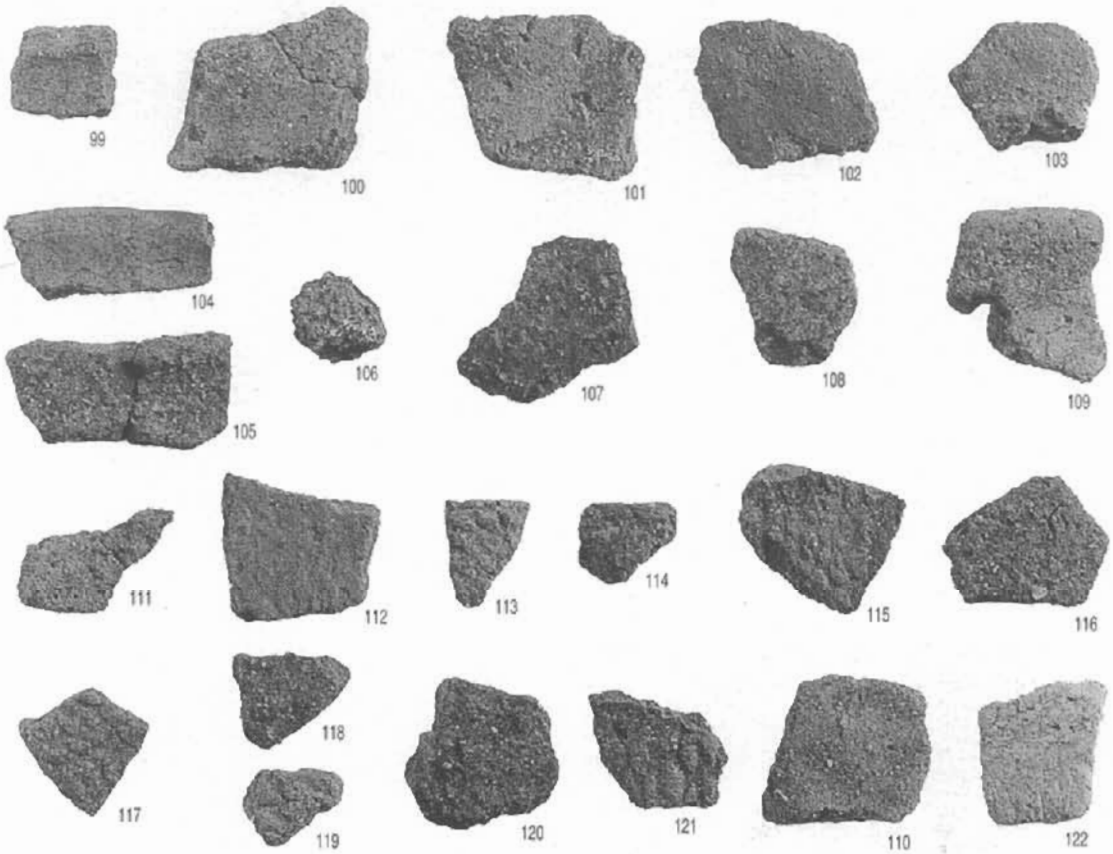
1．補修孔のある土器



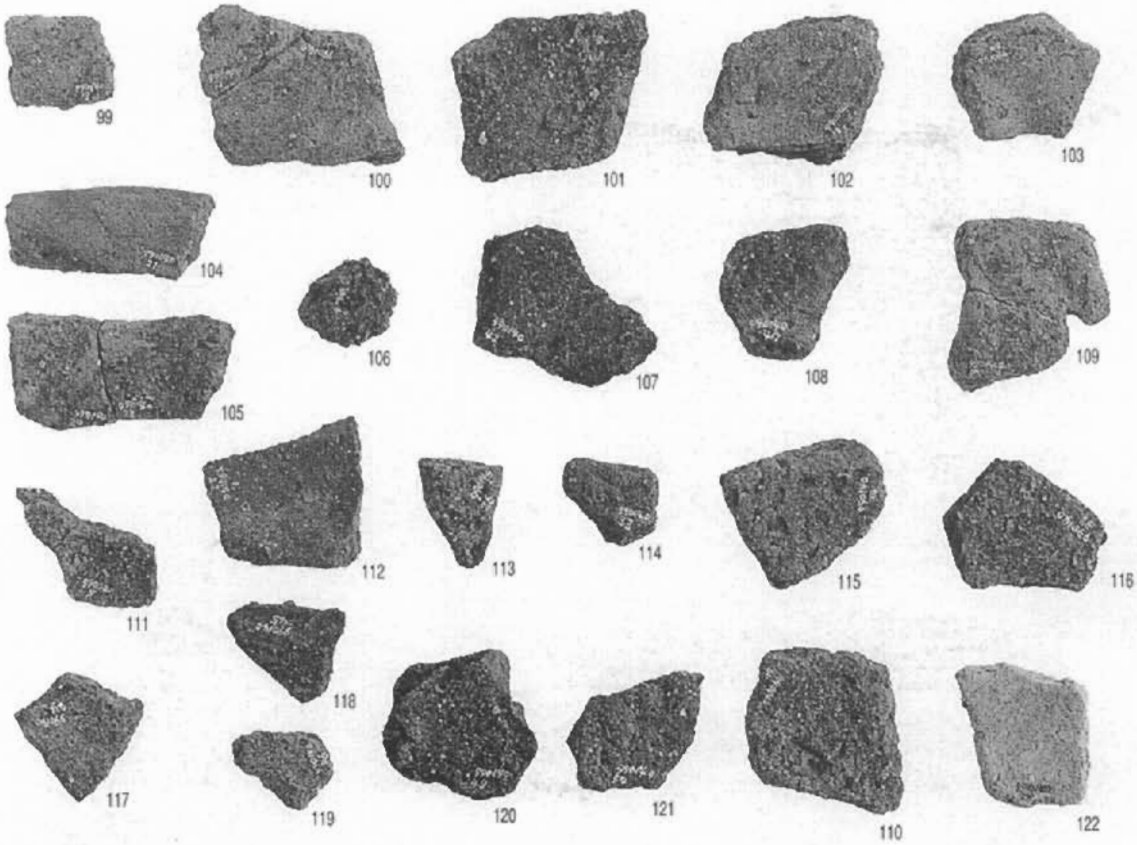
2．補修孔アップ



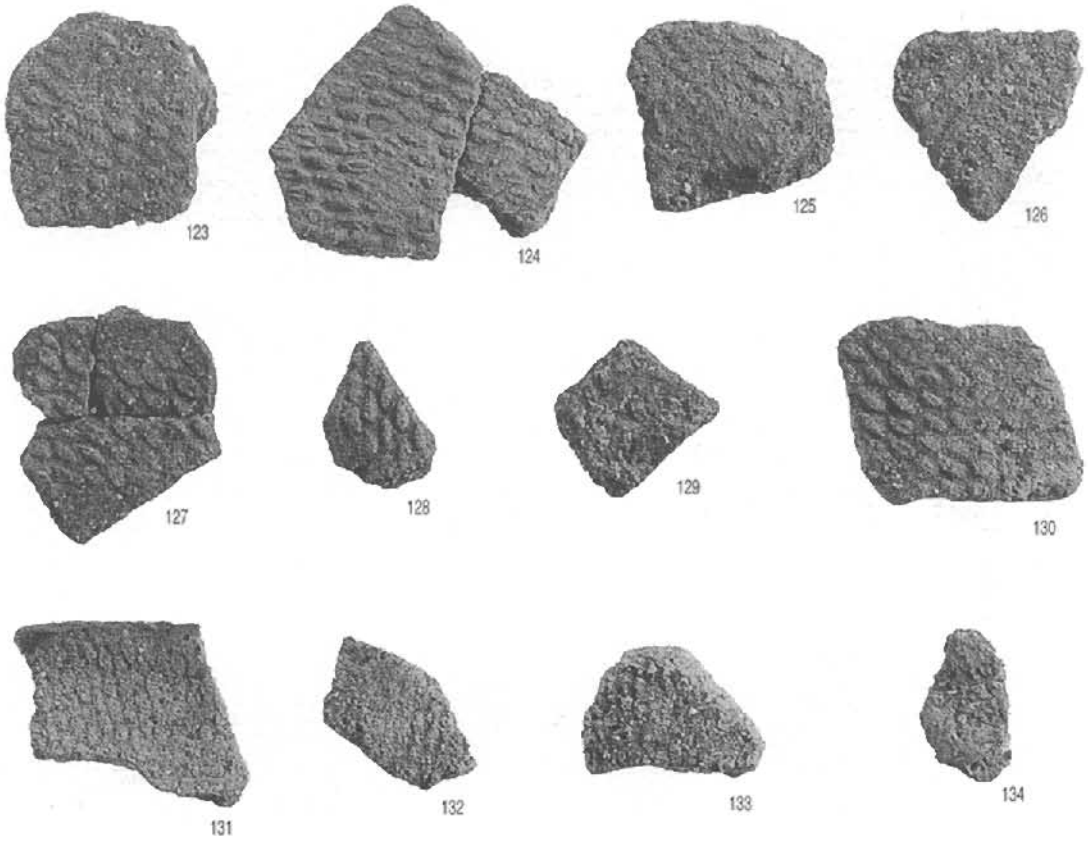
3．その他の土器



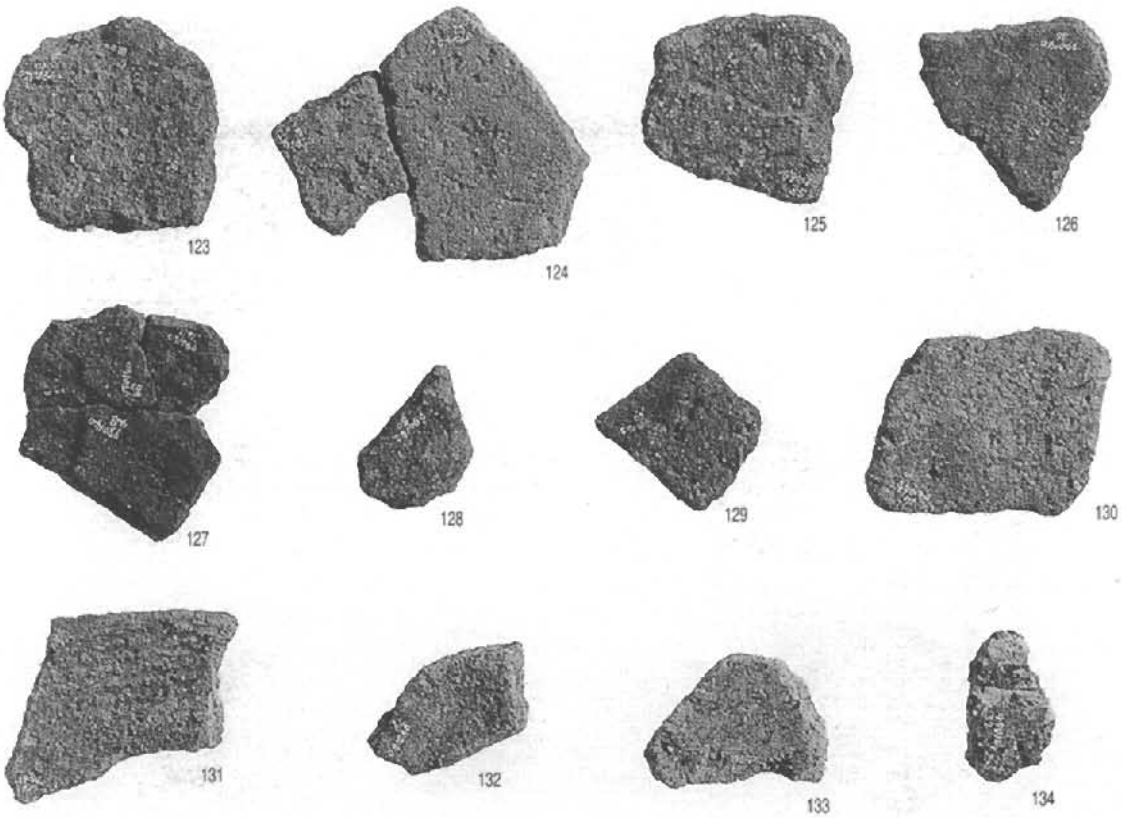
1．無文・楕円押型文（1）（表）



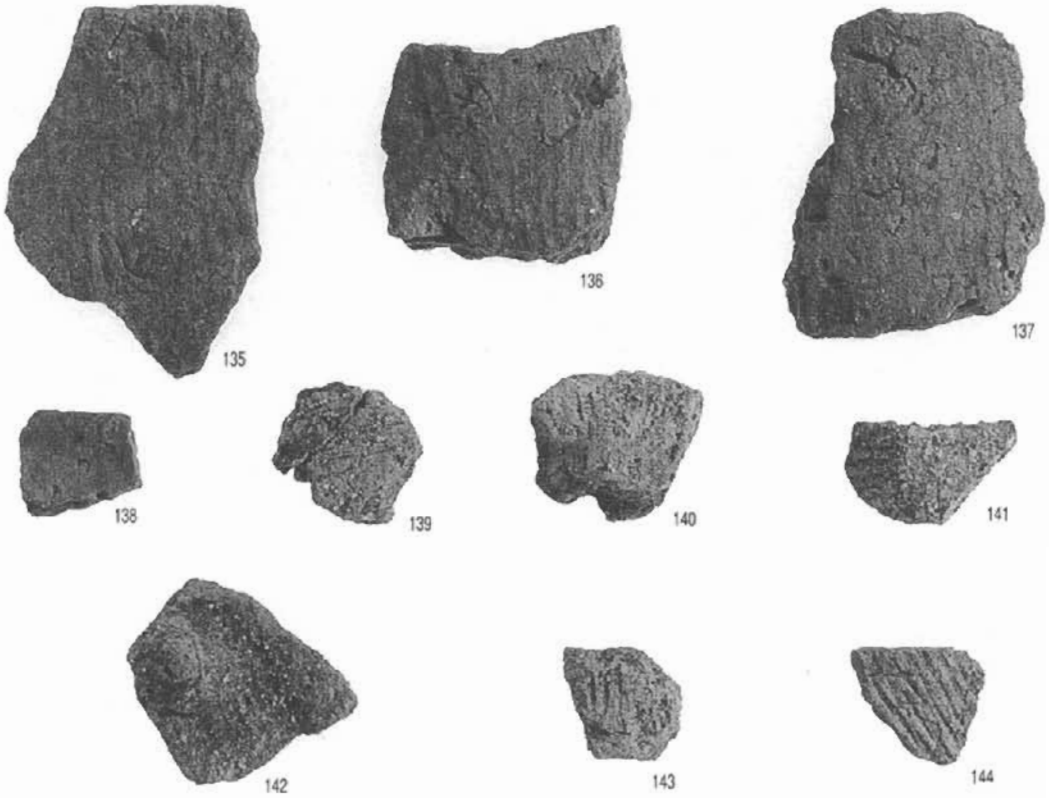
2．無文・楕円押型文（1）（裏）



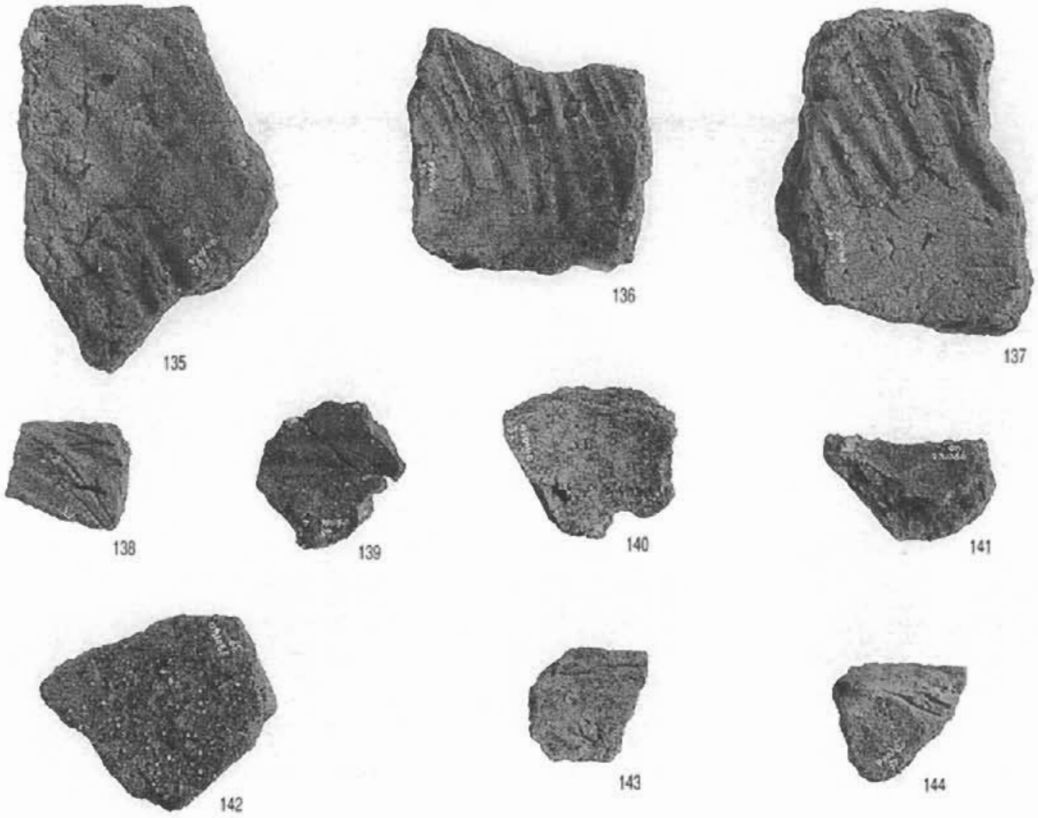
1．楕円押型文（2）（表）



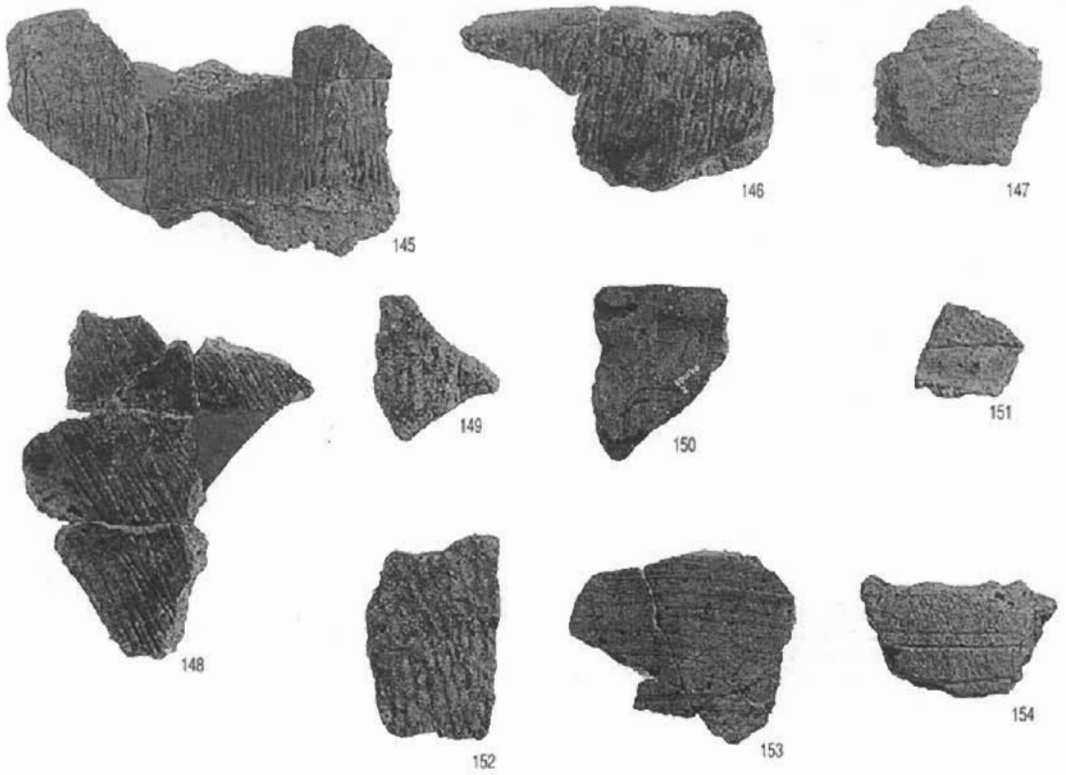
2．楕円押型文（2）（裏）


135
136
137
138
139
140
141
142
143
144

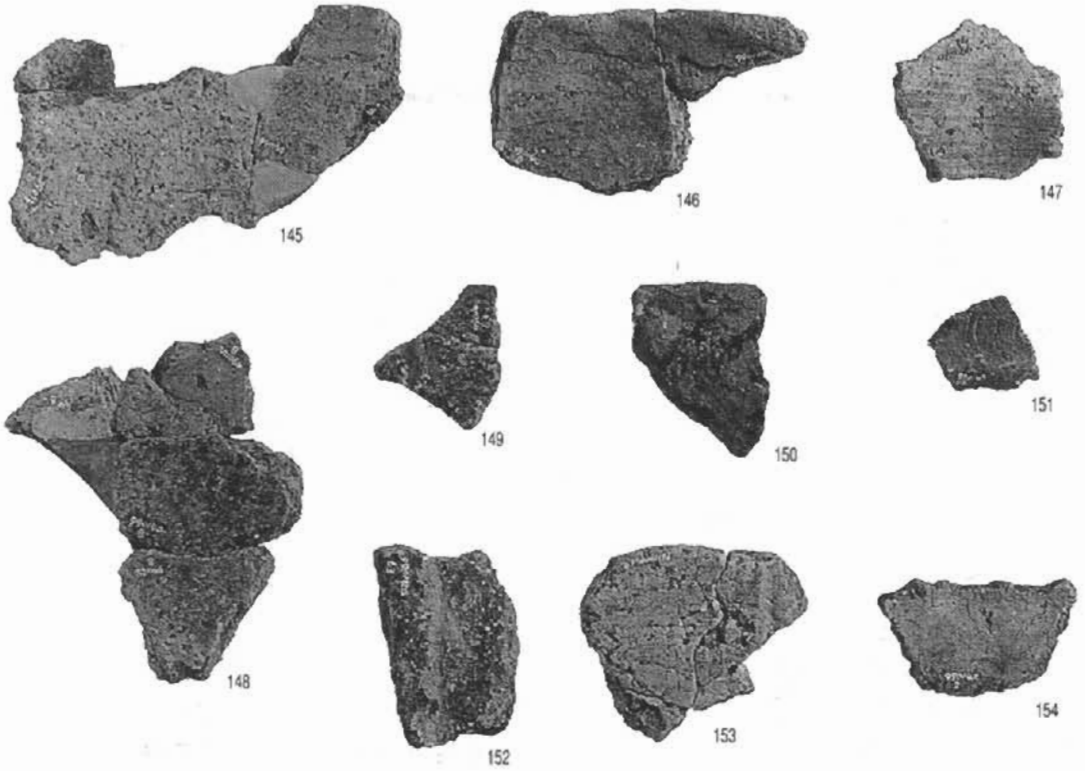
1．条痕文（表）


135
136
137
138
139
140
141
142
143
144

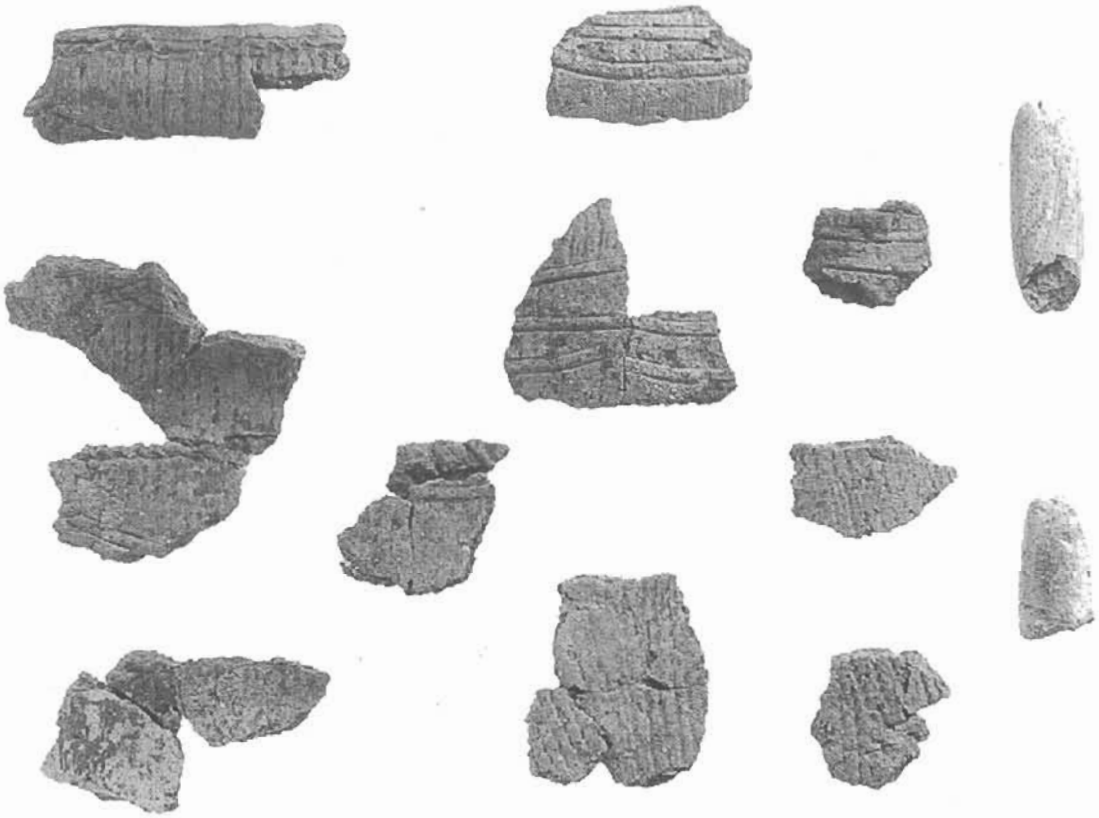
2．条痕文（裏）



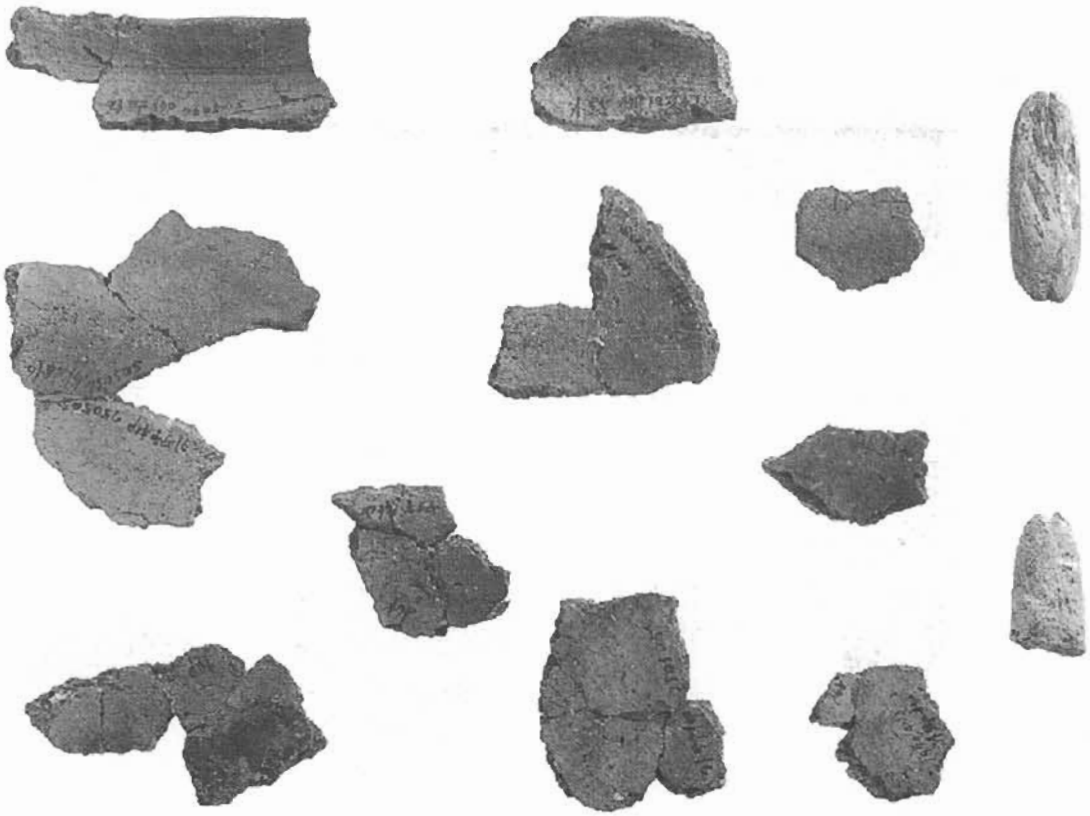
1．ＳＫ０５・遺構以外の出土土器（表）



2．ＳＫ０５・遺構以外の出土土器（裏）



1．関宮町保管資料（表）

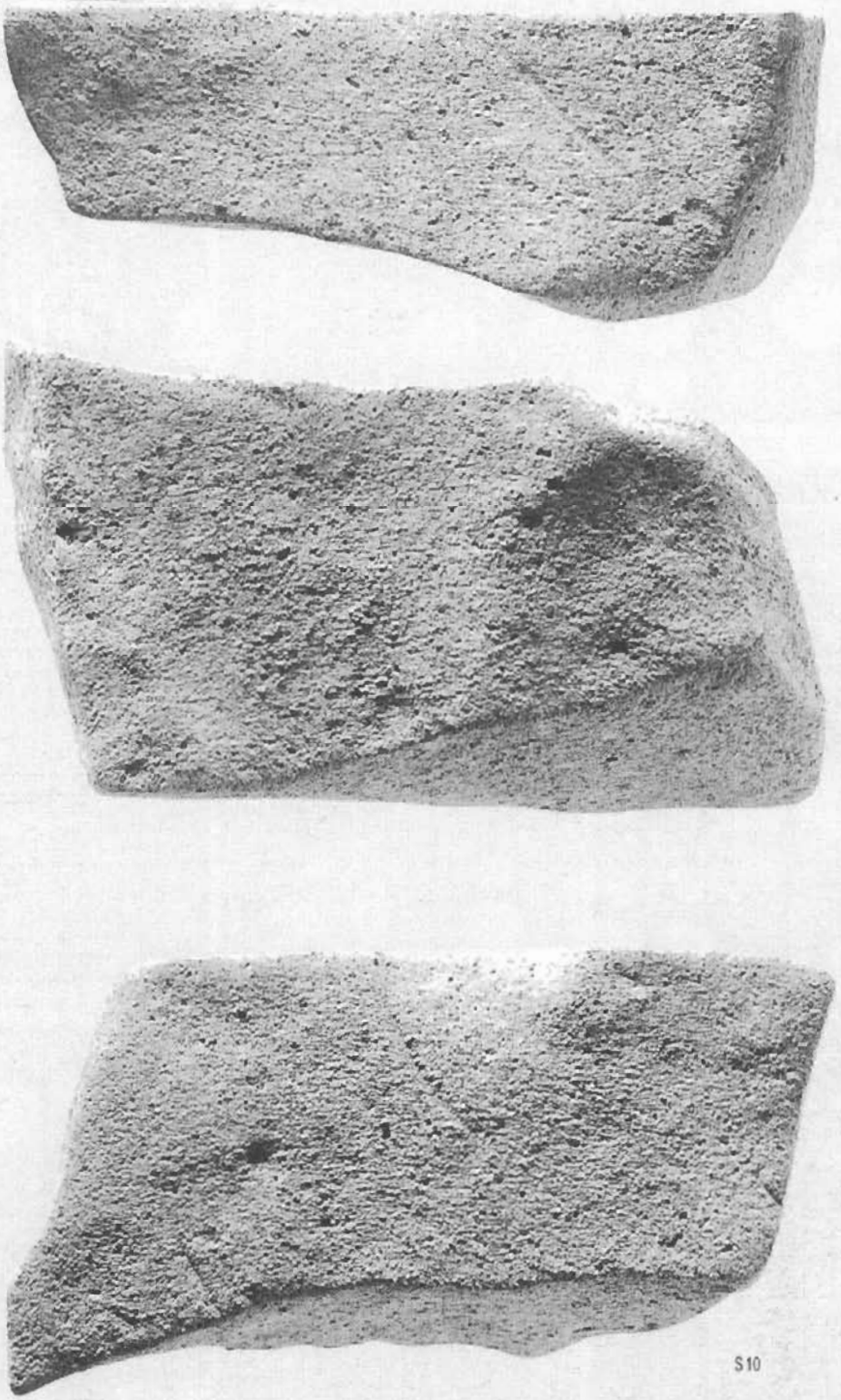


2．関宮町保管資料（裏）

写真図版44　外野波豆遺跡・外野柳遺跡　石器(1)

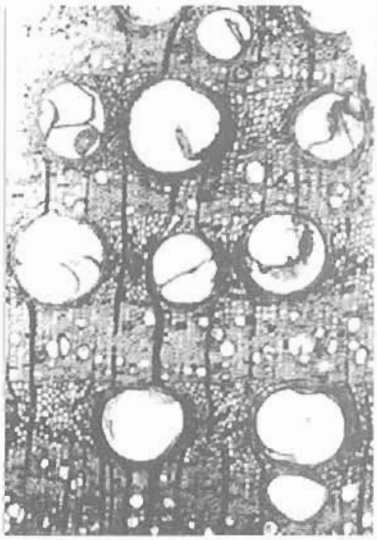
1．外野波豆遺跡出土石器

2．外野柳遺跡出土石器

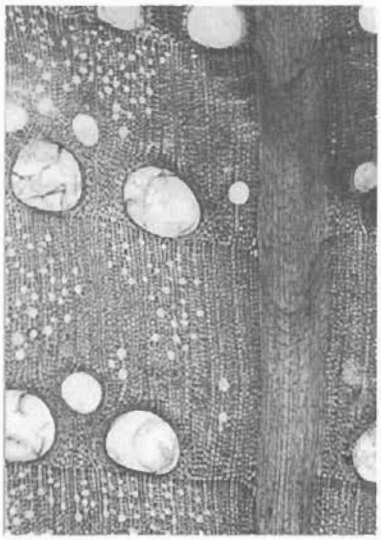


1．外野柳遺跡出土石器

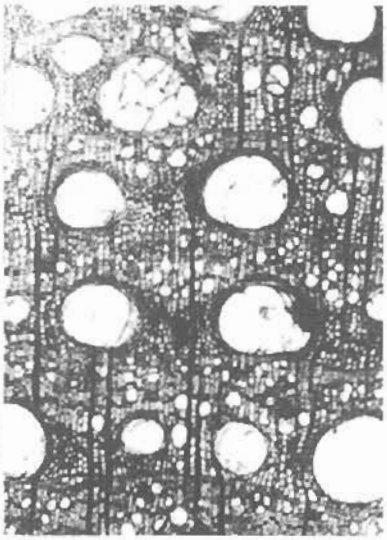
写真図版46　外野柳遺跡　出土木材の顕微鏡写真



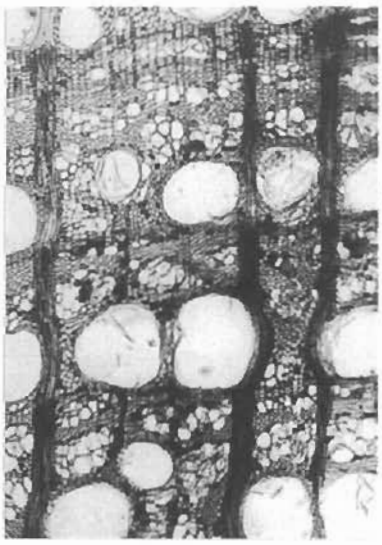
1．資料No.1 クリ ×30



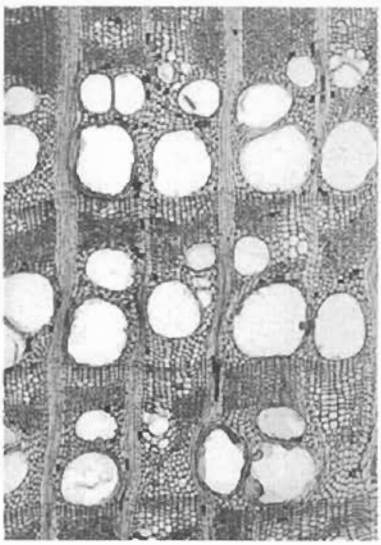
2．資料No.2 コナラ節 ×30



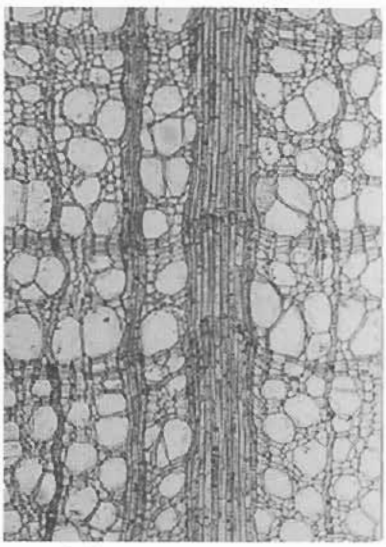
3．資料No.3 クリ ×30



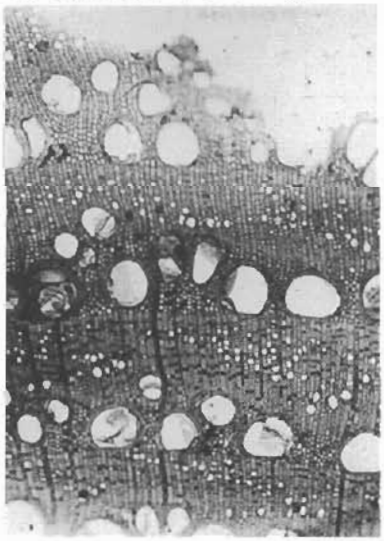
4．資料No.4 ケヤキ ×30



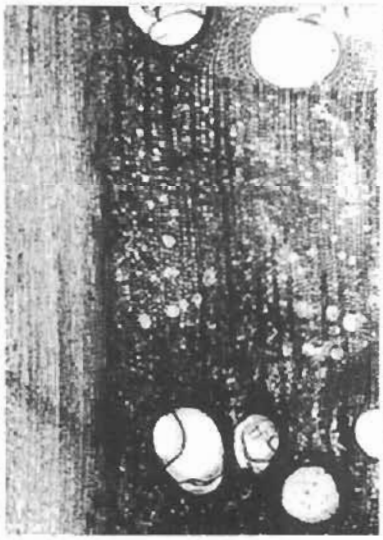
5．資料No.5 センダン？ ×30



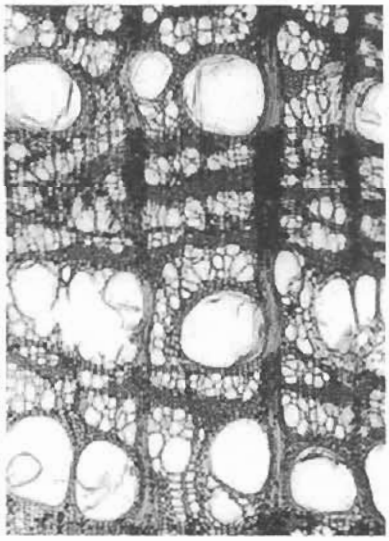
6．資料No.6 ブナ ×30



7．資料No.7 クリ ×30



8．資料No.9 コナラ節 ×30



9．資料No.10 ケヤキ ×30

報告書抄録

ふりがな	とのはずいせき・とのやなぎいせき
書名	外野波豆遺跡・外野柳遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第２０１冊
編著者名	村上賢治・山本　誠・牛谷好伸
編集機関	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町２丁目１番５号　TEL　078-531-7011
発行年月日	２０００年（平成１２年）３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡調査番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
外野波豆遺跡	兵庫県養父郡関宮町外野	28604		35度22分34秒	134度34分12秒	確認調査 19930518 ～ 19930615	外野波豆遺跡 35㎡ 外野柳遺跡 36㎡	県営一般農道整備事業（過疎基幹）関宮西部地区
外野柳遺跡			外野波豆遺跡 990011 外野柳遺跡 990140			全面調査 19990510 ～ 19990928	外野波豆遺跡 2,337㎡ 外野柳遺跡 1,023㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
外野波豆遺跡	狩猟場	縄文時代中期	陥穴	縄文土器・石錘	確認調査は、関宮町教育委員会が実施
外野柳遺跡	集落	縄文時代早期中期	集石炉・配石遺構・土壙	縄文土器・磨石・石皿	
	祭祀関連？	平安時代？	木柱		

兵庫県文化財調査報告　第201冊

外野波豆遺跡・外野柳遺跡
発 掘 調 査 報 告 書

2000年（平成12年）3月 発行

編　　集　兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
〒652-0032　神戸市兵庫区荒田町2丁目1番5号
☎（078）531－7011

発　　行　兵庫県教育委員会
〒650-0011　神戸市中央区下山手通5丁目1番10号

印刷・製本　㈲アロエ印刷
〒650-0027　神戸市中央区中町通2丁目3番8号
☎（078）371－3831